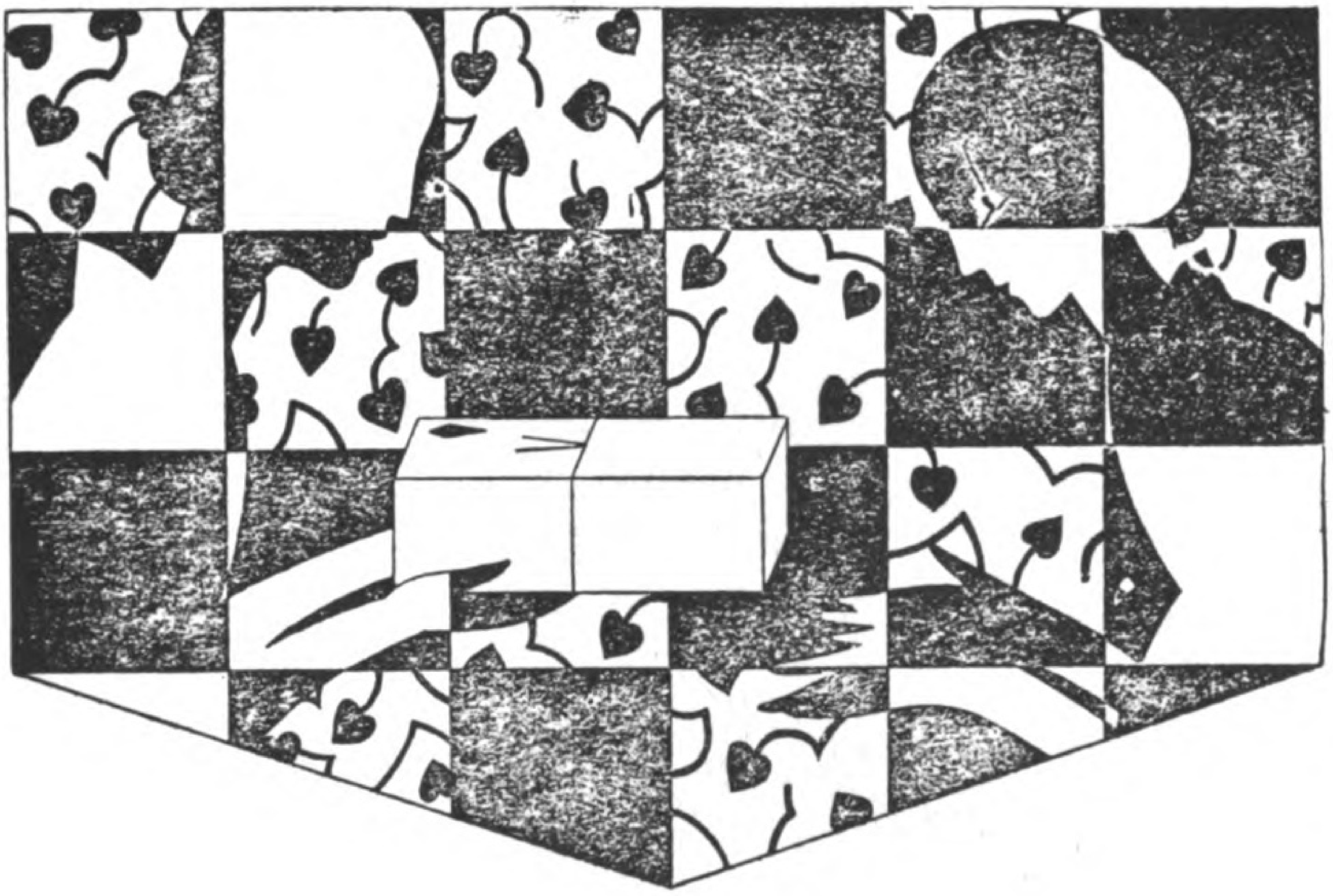
無產階級鬪爭雜誌

進め

第六年 八月号 第八號

大正十二年一月三十日第三種郵便物認可（每月一回一日發行）
昭和三年八月一日發行 昭和三年七月二十八日印刷納本

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



酷熱の都塵を離れて
海に山に旅への思ひを廻らす
中にも暑中御見舞や
中元御贈答の品選びに
忙がしい………

御贈答品は……大丸

重寶な
大丸の商品券
大阪・京都・神戸・金澤の各店に共通

月曜休業・夜間營業

大阪 心齋橋
大丸

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

農民勞働社取次書目

山川均著

資本主義のからくり

二十六版

三十錢

農村振興策批判（杉山）	、二〇錢	社會主義と民族問題（レーニン）	、三〇
唯物史觀解說（河上肇）	、一〇	或同志への書翰（山川）	、一五
プロレタリアの使命（住谷）	、一〇	前衛と勞働組合（ロソウスキー）	、七〇
人生の經濟學（河野）	、一〇	レーニン（ロソウスキー）	、三〇
無產青年運動（高橋）	、一五	マルクス評傳（レニン）	、二〇
勞働者の明日（野田）	、一〇	第三インタ小史（コミンタン）	、八〇
無產青年に與ふ（辻井）	、一〇	史的唯物論（ブハーリン）	一、〇〇
社會主義學說大要（堺）	、三〇	何をなすべきか（レニン）	一、〇〇
左翼小兒病（堺）	、三〇	社會運動辭典（田所）	二、〇〇

右は取次書目の一部でありその他に無產階級運動に關する一切の書籍特にパンフレツトを取次する。目錄請求（要二錢）一覽の上注文を乞ふ。送料は一切當社に於て負擔す

東京市芝區二本榎西町二
振替東京七六二七〇番
農民勞働社

進め

第六年・第八號　八月號

■對支問題と無產階級……卷頭言（五）

時評

總同盟最近の傾向……上杉定義（六）

床次の新黨樹立……神庭仲之介（九）

無產大衆黨……同（八）

●苦悶の新黨組織準備會は何處へ行く……羽田光雄（一〇）

●戰線統一としての組合會議……高山久藏（一五）

●「吾等の遣支大使」に何を期待するか……佐々木敬三（三）

●政界ゴシップと新證據……布施辰治（一九）

特別讀物

理想社會を作らんと北伐軍に從ふ……福田狂二（二六）

米騷動の頃……高田和逸（二八）

社會主義運動思出話……岡野辰之介（三八）

資料

朝鮮共產黨判決書全文（五）時事日誌……（九〇）

◎勞働組合と選擧戰……皆川利吉（四六）
◎朝鮮民族に檄す……金浩永（五三）
◎大山氏の當面の難關克服の本質……吉田源藏（五七）
◎搾取行刑政策と自由勞働者の失業關係……加藤利藏（六四）
◎日勞黨よ怒るなかれ……清水寛一（二〇）
◎支那の勞働者農民を支持せよ……山路文夫（二一）

全土戰報
◎治安維持法に對する吾等の聲明書……田中良一
○市電電車賃値上に反對して日勞黨神戸支部厥起……神戸S生
○この散彈毒煙を見よ……濱田晋次郎
○山口縣戰報……村田信一
○赤色團同志諸君に告ぐ……藤本一馬
○想起せよ交通勞働者諸君……大阪生TS
（四八）

講座 社會主義、資本主義……神庭仲之介（七〇）

進め社だより……（九一）　編輯ノート……（九二）

創作
緋に染まる白衣……辛仁出（八一）
彼奴……英史郎（八六）

無産階級の獨裁なくして革命藝術の獲得なし（レーニン）

革命藝術大系なくして無産階級藝術なし

本書目次大要

革命と藝術

革命藝術大觀

革命文學論

文壇一般、文壇の中心、新作家の群、作家の自傳、作品の內容、文學雜誌、文壇插話

革命詩壇

革命美術

美術一般、アツヘル、現代彫刻展覽會

革命樂壇

革命演劇

ルナチャルスキーと演劇、第四研究劇場、芝居を工場の中で打つ、新しい舞臺裝置者

附錄

墓の上に、中隊へ、アジア人から、曠野、永消り、敎師の少年及靑年時代

解放群書(24)

尾瀨敬止著

四六版二百卅　定價壹圓　送料十錢

最新刊

革命藝術大系

◇『無産階級の獨裁なくして革命藝術の獲得はない。』凡てが有産階級的であつて、獨り藝術のみが無産階級的であり得ない。ロシアは世界唯一の無産階級國であり、其處に初めて無産階級藝術があり得る。しかして無産階級の革命と同じく、血苦十年の歷史を持つ。

◇日本に於ても現今頻りに無産藝術が問題され、理論鬪爭對立發展が進行する。しかし『革命藝術の把握なくして無産藝術の確立はない。』本書は斯界第一の權威たる著者が、十月革命十週年を紀念するため、刻苦十年の研究を傾け、十月藝術十年間の苦鬪奮鬪並に、文壇、畫壇、詩壇、樂壇、藝術家、藝術團體の現狀現勢を、歷史的、紹介的、組織的、體系的に著述し、尙代表作品數種を附錄した鳥瞰圖であり、縮寫圖であり、シネマであり、パノラマである。其價値や知るべきのみ。

◇『革命藝術大系なくして無産階級藝術なし。』苟くも革命藝術を語り、無産階級藝術を創らんとする程の者に敢て本書を薦む。

發行所　東京市芝區新櫻田町十九　振替東京三六九四四番　解放社

革命藝術の把握なくして無産藝術の確立なし（尾瀨敬止）

對支問題と無産階級

國民政府による支那の統一ならんとして、世界各帝國主義國家の、外交戰は此處に集中された、床次民政黨顧問等による第三黨計畫も對支問題が日本ブルジョアジーの死活問題である事を示すものである。卽ち、日本ブルジョアジーは武斷的內政干涉によつて、自らの利權を維持せんと焦し、先に對支出兵を斷行し、南北妥協の統一運動を防害した。

床次等による第三黨の組織は、ブルジョアジーの對支積極政策の意圖の上に進展したものであり、同時に、田中反動內閣の基礎が强固になつた事を示すものであつて、當然、無產階級の斷壓は加重されるであらう。

元來國民政府は支那ブルジョアジーの勢力を具現したものであるが、彼等は反帝國主義運動によつてのみ其の覇權を確立する。

されば、日本ブルジョアジーの利害と相反してゐる。支那ブルジョアジーの勃興は資本主義勢力の增大を示すものでなく、その矛盾の增大、その沒落を早めるものである。しかし、支那ブルジョアジーは、日本無產階級の味方ではなく、支那無產大衆の味方でもない。その斷壓を企でる敵である。反帝國主義運動を眞に强力に戰ひ拔くものは支那××的無產大衆あるのみ「對支不干涉」を徹底的に戰ひ行くものは日本の無產階級あるのみだ。だが支那ブルジョアジーの特殊性が帝國主義國家間の混亂を助長し、支那無產階級の進展の過程を示すものである以上、吾等は國民政府の承認、平等條約締結、內政不干涉、卽時撤兵を田中內閣に要望するものである。

あゝ東亞の風雲は入亂れ、帝國主義の弔鐘は鳴りひびく。

對支干涉政治絕對反對だ。

帝國主義戰爭の豫備的行爲に反對だ。

田中反動內閣を倒せ、

支那プロレタリヤ××を成就させろ。

總同盟の最近の傾向

一社會民主々義に對する闘争の必要は幾多の場合を通じて强張して來た事であつたが、共産黨事件以來殊に彼等の反動的傾向が濃厚となつて來た事が認められる。敢くなき支配階級の暴壓を跳退けて闘つて行くために、最も緊急を要する問題は戰線の統一であり、戰線の統一によつてのみこの支配階級の暴壓に答へる唯一の武器である事は云迄もない事である。若し我々の戰線內にあつてこれを拒むものありとせば、それは支配階級の番犬であり階級的裏切りものでなくてはならない。最近に至つての無産團體の活動を見るに、非常な沈衰の常態を示してはゐながらも、凡ての團體を擧げて一意戰線統一に努めてゐる事は疑ひ無き事である。分散せる農民戰線も全日、日農の合同によつて左翼團體の戰線は堅められ、全農中農の合同によつて右翼團體の合同なり、少くとも戰線は漸く統一への一歩を踏み出したのである。我國における强力な闘争力をもつ處の勞働團體の合同問題も一再ならず提唱はされたが、未だ實現の運びには至らなかつたのであるが、五月二十四日に至つて日本勞働組合總聯合によつて全國勞働組合會議が提唱され、七月十五日總同盟系の勞働組合を除き外二十三團體が參集して、戰線統一の前哨戰として全國勞働組合會議準備會は目出度その成立を見たのである。この全國勞働組合會議準備會の成立の意義は、奈邊にあるかは今更謂ふ必要はないが、その準備會の聲明せる處を掲げれば次の如くである

「我等は我國勞働階級が多年熱望せる無産階級統一戰線樹立のため現下の情勢に鑑み無産政黨ならびに思想的傾向如何に囚れず一路あらゆる障礙を突破して全國勞働組合會議の實現を期す」

これによつて全國勞働組合會議の本質を知る事が出來ると共に、全勞働階級は必ずこれに參加せなくてはならない。それが我々の年來の要求であつた戰線の統一に對する忠實を示す意味においても。しかるに日本勞働總同盟は第一回の全國組合會議準備會に參加せざりしのみならず、七月十五日實行委員會によつて再度の勸誘狀を發したるに對して、十八日大阪において開かれた總同盟緊急中央委員會は、未だ一般勞働組合の情勢が總聯合すべき情勢に達してゐないといふ理由の下に左の如く決議したのであつた。

「總同盟は勞働組合總聯合が提唱せる全國勞働組合會議には參加せず、別に先づ健全なる勞働組合間の結合を計つた後に漸次すべての結合に進むべきこと」

何と謂ふ總同盟幹部の腐れ果てた根性があらふか。果して斯うしたダラ幹によつて決議された事に對して、總同盟大衆は屈服してゐる事が出來るであらうか十五日の全國組合會議に參加せる二十三團體を除いて何處に健全なる勞働組合があると云ふのであらう。かくの如くコチツケの理由によつて政府の分割支配に迎合せる總同盟のダラ幹勞働貴族に對して我々は總同盟大衆と共にこ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れを撃退しなくてはならない。

二、最近行はれた左翼團體に對する彈壓は、それが單に左翼のみに加へられたものでなく、全無産階級に加へられたものである。そしてこれに對しては全無産大衆の力を糾合して反對するのが我々の義務であり、その一段階としての戰線統一による具體的行動によつてなさねばならぬ事は前に述べた如くである。口に彈壓に對する反對を唱へつゝも、何等の具體的行動を採らずして、傍觀するものは、支配階級をして無産階級の無力を思はしめ、益々其の暴威を振わしめる所の間接的援助である。然るに總同盟幹部は單にこれを拱手傍觀するのみに止まらず、具體的行動によつて支配階級の反動政策の援助を成さんとしてゐる。國内にあつては勞働團體の結合を阻止せんとしたる事は既に述べた所であるが、國際的にあつても、かの政府と資本家との妥協になる國際勞働會議に參加するばかりではなく、最近に至つては、明年開かるべき日、支、印三ケ國の勞働團體を中心とせる非共産主義のアジヤ勞働會議を今秋十一月東京において開催すべく總同盟會長鈴木文治氏は奔走してゐるのである。先に國際勞働會議に派遣されたる米窪滿亮、山内鐵吉兩氏をして、メキシコに廻らしめてアジヤ勞働會議に參加を勸誘せしめつゝある。此のアジヤ勞働會議は昨年五月漢口において開かれた太平洋勞働會議に對抗せんとするものであつて其の目的は主として共産主義の排除である。社會民主々義者共が共産主義を排除するのは當然の事であるが、今や國内に遇つては左翼團體は共産黨事件のために彈壓を受け、合法的大衆黨すら解散の受難に遭遇してゐる時にあつて、アジヤ勞働會議を、東京に開きて、共産黨の排撃によつて、反共産系の空氣のうん醸に努める事は、支配階級の彈壓政策に對して、拍車をかけるものである。かくして現實主義、協調主義によつて目前の政策實現のため漸く軟化して來た總同盟は無産階級的勞働團體としての色彩を喪失して、非闘爭的、非階級的となり英國勞働團體が現に辿りつゝあるが如く、資本主義と社會主義との隔壁を徹去し、勞働階級の利益を代表する團體にあらずして一切の階級を代表する超階級的團體とならざるを得ないであらう。且つて野田爭議の如く、爭議團員は「我々は餓死する迄も、資本家に屈服するものではない。かゝる妥協を排して敢く迄も戰ふ」と悲痛の叫びを擧げた戰鬪的勞働者の要望を蹂躙して總同盟幹部が遂に資本家との妥協の中に爭議を終結せしめ、半ケ年の苦闘をも水泡に歸せしめたるが如き、總同盟が共産黨攻撃、日勞黨攻撃に浮身をやつしてゐるために、大衆よりの誤解を恐れ宮崎龍介氏が神奈川縣において「民政黨と民衆黨とは同一ではありません」と辯解したるが如きは、如實に總同盟の墮落を物語るものであつて、總選擧以來得意の舞臺に踊つてゐる總同盟及社會民衆黨が無産團體としての色彩がいつとなくボカされて行きつゝある最近の傾向を見逃す事は出來ない。(上杉)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

無産大衆黨

二十二日無産大衆黨は結黨された。大衆黨の使命は解散された舊勞農黨の再建と、全無産政黨の合同の爲め邁進するにあつた。その爲めには先づ飽くまでも合法政黨でなければならぬ事を主張する。大衆黨は、無産政黨の合同には無條件合同を唱へ、舊勞農黨再建には飽くまで解散の口實を與へざる合法政黨即ち、前衞黨と混同せられざる大衆的共同戰線黨でなければならぬと主張して來た反幹部派の所産である。

然らばこの反幹部派即ち新勞農黨準備會によろ大衆黨に對して幹部派は如何なる態度を取るか。元來、幹部派は解散後、從來のまゝの勞農黨を再建せんとしたが、當局の方針が其の指導者を除外しない以上結黨させぬ方針であるので復活せず、爲めに、準備會は支配階級によつて與へられる合法性に屈服する樣な政黨なら作らぬがよいと爲し、遮二無二鬪爭によつて解散命令を一片の空文たらしめる考へである。（しかし、この方針では、先づ結黨は不可能である事は常識的である。日本の客觀的状勢は決して合法政黨否認を許されない、合法政黨の爲すべき仕事は山ほどある。むしろ、この發展あるにあらざれば左翼的運動の基礎が强固にならぬ事を物語つてゐる。）

されば、新黨準備會は「合法政黨」を第一の目標とする無産大衆黨を「官許黨」の名によつて中傷してゐる。この中傷は、現在の合法政黨を、すべて支配階級の軍門に降つてゐるとの立場から發せられるもの丶如くである。かゝる事を云ふならば、吾々が資本主義社會の内部にあつて生活する事すら、屈服ではないだらうか。

事實上吾人は先づ無産大衆黨が合法政黨をいち早く再建した事に賛意を表するものであつて、この根本方針あればこそ全無産政黨統一の發端がある譯である。この根本方針に反した新黨準備會が如何に勞農政黨の統一を叫んだとてそれは不可能である。今次の大衆黨への聲明書にも

「こゝに我が準備會は支配階級の攻勢と鬪爭として戰はんがため、勞農黨再建（但しそれは事實上不可能な方法によつて……筆者）とその日勞黨との無條件合同實現を期するものである」と云つてゐる。日勞黨は、準備會の勞農黨再建を心から希望するものであるがその非合法性としての存在である中は、合同はしないであらう。されば舊勞農黨の内部より先づ合法政黨として生れ出でた無産大衆黨に對して、勞農政黨統一主義たる日勞黨が双手を擧げて歡迎するは當然である。かゝる舊勞農黨の再建あればこそ口ばかりの合同より實踐上の合同に一歩進むからである。

無産大衆黨創立當面の任務は、政黨合同は既定の方針として先づ舊勞農黨再建であらう。即ち、幹部派、大衆黨との指導精神の爭ひがどうした分野を展開するかが問題である。大衆黨は先づこれに全精力を傾注すべきであらう。もし、この任務を放棄するならば

無産大衆黨結黨の意義はない、たゞ合同をのみ望むならば、別に結黨する必要はない、頭ばかりの黨である大衆黨の構成員は、從來の行懸り上から日勞黨へすぐ入黨する事が不可能な譯ではないから、日勞黨に入つて了へばよかつたであらう。しかし、大衆黨は先づ舊勞農黨内の日勞黨には從來の行懸り上入黨出來ぬ、大衆を自黨の勢力下に糾はんとしたからこそ、別に結黨の意義がある。

幹部派の方針の下においては極く少數派の觀念的集團化して行く舊勞農黨を、如何に再建して行くかにこの結黨の意義がある。すでに新黨準備會は、猛烈な排撃を開始してゐる。曰く「彼等は支配階級の暴壓によつて奪はれたる勞農黨總選の鬪爭を放棄してゐる。否、反對に勞農黨再建の鬪爭を防害することに依つて警視廳の意に迎へんとしてゐる―しかして曰く「しかし乍ら大道等の如何なる策動によるも新黨準備會の陣營は微動だもせざることを全勞農大衆に報告し得る事を喜ぶものである」（新黨準備會の聲明書）「舊勞農黨の反幹部派など、大きくふきたてられてゐるものは、正體の無い幽靈の様なものだ「大山郁夫氏」

大衆黨は今や花形として登場し來たつた。しかしながら、それは大衆のなき大衆黨である。この大衆黨が如何に事實において、統一を阻害する形態を（例へば合法政黨否認）續ける幹部派の勢力下にある大衆を動員せしめるかゞ最も注目すべき問題である。もし。之に失敗し、何時までも大衆なき大衆黨に終つたなら、彼等は戰線の統一に無力であり、大衆黨結黨の意義を失ふであらう。何故ならば、最初から日勞黨に入黨した方が增しだつたからである。それは、徒らに多くて困つてゐる無産政黨が又一つ殖えたのに過ぎぬからである。（神臣）

床次の新黨樹立

八月二日床次民政黨顧問の民政黨よりの脱黨が傳へられ、第三黨の組織を聲明した。床次の脱黨理由が主として、對支問題の意見の相違によるものゝ如くであり、氏の企圖するところによれば、舊本黨系や明政會を糾合せんとの野心らしいこの事は何を意味するか。

一　田中反動内閣の勢力が強くなる事を示してゐる、これは新聞紙によつて報ぜられるところを見ても明かである。

二　對支積極政策の斷行、これはその宣言を見ても明かである。

三　無産階級に對する反動政策を極度に行はんとしてゐる。それも宣言が示してゐる「唯物史觀」云々の笑ふべき文字が弄せられてゐるではないか。

四　明政會の參加が確實であるとの事からしても自由主義の沒落を意味するものだ。自由主義の反動主義への屈服である。

五　黨の分立ではあれ、二大階級對立の深刻化を示すものだ、即ち、その宣言の示す如き階級的一黨主義こそ、それである。（同）

苦悶の新黨組織準備會は何處へ行く

羽田光雄

一

舊勞農黨が解散されてから、早三ケ月の月日を經過した四月十日午後×時都新聞社の附近を歩いてゐた人は、おそらくおびたゞしい警官の垣と殺氣立つた青年達との衝突を見た事であらう。それは悲壯な光景であつた。他の無産政黨の黨員でこそあれ 私は同じく無産階級の一人としてこの友黨の彈壓に暗憺たる悲憤と吾々の政黨に對する暗い豫感を感じたものである。殊に、舊勞農黨員の心境はどんなであつたらう。この光景を見たものにあつては、おそらく何人もが、かの大山委員長が「千度禁止されても結黨する」と叫んだ事を當然な事として受け入れる事であらう。この言葉をたゞ單なる氣焔だと又ヒロイズムな感激であるなどゝ云ふものがあるならば、それは木石の徒でめり、いやしくも階級戰線の眞先に立つて戰ふ人の批評ではない。いたずらに「ケチ」をつけん爲めの批評は避けなくてはならない。

二

洵に舊勞農黨はこの資本家地主政府の彈壓に面して決して拱手して成るがまゝに、するがまゝにしてゐるものではなかつた。千度禁止されても直立つの勢ひをもつて、新黨組織準備會を設立した。さて、舊勞農黨が、新黨組織の方針は、舊勞農黨以上のものを組織しても、決してそれ以下のものを組織しようとはしなかつた。この根本的方針は、解散されてより今日に至るまで終始一貫續けられてゐた。又そうした方針なればこそ舊勞農黨が今日に至るまで再組織されない原因であつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

強暴なる支配階級によつて投げあたへられたところの合法的限界なるものが非常に狹あひなものである事がその困難の一つ。舊指導者が退却し除外しない以上許可しないといふ當局の方針に對し戰闘的分子を除外してまで結黨する必要はないといふ舊勞農黨内の方針がその二、禁止されても舊勞農黨今の新黨準備會の基礎は微動だもせぬ。愈々日常に鬪爭は激發し、暴壓反對の組織としての勞農協議會を地方地方にもつて、その大衆の力によつて勞農黨の再組織を支配階級に容認させるとの意見がその三、

要するに、新黨準備會は、資本家地主の次々への武裝解除に對して斷乎として反對し、舊勞農黨そのまゝのものを再健せん事を强張するのであるから、今迄結黨されずに來たつたのである。即ち、舊勞農黨そのまゝの姿をもつて再健せんとしたのであるが、これは不幸にして政府の斷乎として排擊するところであつた爲め、少くとも舊指導者を排除しない以上結黨を許可しない以上、舊勞農黨は結黨の不可能なる事を察し、そういふ武裝解除式の結黨なら敢てせないでもよいといふ方針を採つた。そして舊勞農黨は自主的な再組織運動の不可能なる事を察して、その再健の爲めに二つの道を取つ

三

(一) 新黨組織準備會のまゝ日本勞農黨と合同する事

この問題の顚末はよく吟味しなければならない。蓋し、この問題を通じて無產政黨合同の基準を見る事が出來るからである。

五月廿八日上村細迫の兩氏が日勞黨を訪問され「新黨準備會は結黨せずにそのまゝ日本勞農黨に合同したい」と提議したが、日本勞農黨は、左の如き聲明書を發して返附した。

一、吾黨はその使命たる政黨統一の方針を更に具體化するために四月四日、五日大阪に於ける擴大中央執行委員會に於いて、諸黨に具體的な提議をなすべきこと、及びその提議は一片の文書によることとなく誠實なる有らゆる手段をもつてすべきことを決定した。當時その意志を表明し、各般の準備を整へたが、この計畫は突如たる勞農黨の解散によつて一先づ中絕を餘儀なくされた、かくて吾人はこの計畫を執行すべく舊勞農黨の新黨樹立を待つて今日に至るものである。

二、三、(イ)(ロ)略

(ハ) 更に新黨準備會が舊勞農黨の一派乃至は東京地方を代表するものであるにしろ、合法政黨としての吾黨の合同の對象は、それが是非はとも角も合法的集團でなければならぬ、故に新黨準備會は他黨に合同申込みをなす前提として速かに結黨し、その合法的存在を明示する義務がある。

(二) 協同戰線についても同斷。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

即ち日本勞農黨は、舊勞農黨が合法的團體として登場せざる限り合同は出來ぬと拒絶したのである。この態度は當然であつた。何故ならば、無産政黨そのものはあくまで合法的なものであらねばならぬからだ。必ずしも合法的政黨を作る必要がないと云ふ人々と合同する事は、それは合同した××無産政黨を危機におち入らしめるものである。

吾々がもし合法的政黨が支配階級に屈服した所産と見るならば、舊勞農黨がかつて合法的政黨でありし日のすべては否認されなければならぬ筈だ。合法的政黨の必要が無いと云ふのは、日本の政狀が××の前夜にあるが如く考へてゐる爲めか、若しくば舊勞農黨のまゝ組織されず、又日勞黨との合同も不可能になつた爲めに自暴的になつた結果と云へよう。

吾々は合法的政黨の存在の必要大いにあると信ずるものである。例へ支配階級の暴壓によつて合法性の限界が非常にせばめられたものであつても、吾々は一歩退いても進二無二合法政黨を組織する事に努力しなければならない、それは、吾々が社會民主主義になつた事を示すか。斷じて否である。若し、こうした企でをすべて社會民主主義への後進だと云ふものがありとすれば、これ現下の客觀的狀勢を無視した觀念的小兒病者のひとりよがりの革命論である常に日本の天地を席捲するゼネラルストライキの想像を書き立てゝ悦に入つてゐる頭惱錯亂者の怒號である。吾々は×××が大衆の固き支持なくして成立せざる事を知る時、日本には未だかゝる狀勢には到達してゐない。かゝる狀勢に導く爲めに、吾々は合法的無産政黨の進出に期待しなければならぬ。それ以外の運動は決して無産政黨による效果の足下にも寄りつかないであらう。

舊勞農黨が合法政黨を否認し續けるならばそれは、決して舊勞農黨幹部のいふ樣に微動だもせぬといふ狀勢は續けられぬであらう。ましてや政府の攻擊激しき時において、かゝる狀態を續けるならば、それこそ愈々小數派の集團となつて了ふであらう。新黨組織準備會の危機は正にこうした方針の中に深刻に展開して行くのである。幹部派が態度に排擊してゐる大衆派に、みずからその地盤をあたへるが如きものである。しかし、この重要な問題は後廻しにして舊勞農黨の再健の爲めに日勞農に新黨準備會のまゝ合同を申込んだのであるが拒絶されたので、彼等は合法運動の否認的方針に向つたがこの方針の上に立つて彼等は今一つの再健の道をえらんだ。それは、支配階級の許可する合法政黨は否認して結黨せず、昔のまゝの舊勞農黨を大衆の力によつて支配階級に許可せしめるといふ極めて勇ましき運動であつた。即ち(一)新黨組織準備會の勞働農民黨結社禁止取消請求行政裁判の道であつた。

四

先づ勞農新聞をして語らしめよ。

「今日は勞農黨結社禁止に關する行政裁判の日である。內

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

務大臣は二十六日の警察部長會議で勞農黨再組織運動の彈壓を訓示してゐる。彼等の目論見は明かだ。政府は勞農黨のやうな戰鬪的勞農政黨の再健をあくまで許さない方針なのだそれは何故か？　勞農黨は日勞黨や社民黨にくらべて一層戰鬪的であり、勞働者農民の利益に最も忠實に戰つたからに外ならない。又、新黨組織準備會が、勞農黨の傳統を受けて鐵火の暴壓を物ともせずに果敢に闘爭してゐるからだ闘爭なくしては俺達の組織は獲られない。今日の裁判も彼等は力づくできめるのだ。俺達の力が强ければ何日何時なりとも勞農黨の禁止命令を粉碎する事が出來るのだ。俺達は先づ力を鍛へ陣容を固めなければ駄目である。それには日常闘爭を猛烈にやるより外に道は無い。だが吾々はこの專制裁判に飽くまで反抗し、これを機會に結社の自由を奪つた資本家地主の奴等から凡ての政治的自由を大衆の力で奪還しよう。大衆の力をもつて戰闘的勞農政黨を奪ひ返せ。」

（第五十二號）

「更に彼等は今日の裁判制度なるものをはつきり知つてゐるのだ。「獨立」した行政裁判といふものが、今回の檢擧の一責任者で治維法改惡の發企人たる司法大臣原の統制下におかれてゐるのだ。裁判の答辯は間誤ついても禁止取消をなんか絕對にないと言ふ事を信じてゐるのだ。この事は何を敎へるか。勞農黨の結社禁止取消をなさしむる爲めに裁判所で上手に駁論したり、法律を以て調べあげたりする事ではなくして我々勞働者農民が彼等の組織破壞の暴力に抗して吾々の力を造りあげる事である。彼等の如何なる彈壓にも搖がざる戰闘的組織を作りあげ解散命令を一片の空文たらしめる事だ。（中略）吾々の陣容が强くなつてこそ、その合法性は戰ひ取れるのだ。」（第五十三號社說）

「だから、吾々は大衆的な闘爭をそうして裁判の成行きに大衆の注意を向ける樣な闘爭方法は絕對に排斥しなければならぬ」。（無產者新聞七月五日）

以上の如く新黨組織準備會は行政裁判そのものを問題とせず、大衆の力を捲きおこし、支配階級の禁止命令を一片の空文たらしめる事を期待してゐる。準備會はこの一例として獨逸の赤色戰士同盟を引用してゐる。

「見よ、獨逸の赤色戰士同盟は政府の解散命令に抗しベルリンに十五万人の大示威運動をして遂に最高法院をして禁止取消をなさしめたではないか」（新黨準備會の檄六月卅日）

「かの獨逸の赤色戰士同盟の解散事件がいゝ證明である當局の解散命令が不當であると決定した獨逸の裁判官は彼の頭がいゝからではない。或は殿正中立だからではない。そんな事はあり得ないのだ。實に勞働者のあの立派な抗議の示威運動は彼の裁判官をして「當局の命令は不當なり」と決定せざるを得ざらしめたのだ。若し獨逸の勞働者にあれだけの力がなかつたなら、彼の裁判官は反對に「當局の命令は正當だ」と決定したに違ひない。」（無產者新聞七月五日）

そして、彼等は××前において左翼の强大な例は日本以

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

外には見られない、ロシヤ革命前においてもかゝる左翼の強大はあり得なかつた。と。然るに、それだけ左翼の力が強きにかゝはらず舊勞農黨の解散の時、又今次の行政裁判の時、正に期待した示威運動も見られなかつたのを甚だ遺憾に思ふ。

大衆の力によつて禁止命令を一片の空文たらしめるなどそれは餘りに觀念的な氣焔である。現下の狀勢の下において、かゝる事を夢みこれを實行せんとしたならば、勞農黨の再健は恐らく不可能であらう。そして、現在の階級間の力と力の均衡より生れるところの合法政黨を屈服として否認したならば、黨員の離散となり、少數派の運動に終るであらう。大衆をより多く動員するところにこそ、初めて左翼的運動が強力になる。大衆を失つて左翼の運動はあり得ない。吾人は舊勞農黨が例へ一歩退いてもあくまで合法政黨を組織するが眞に階級的である事を信ずる。

レーニンは云つてゐる。

「一九〇七年から一九一〇年迄の反動期において、破滅した諸黨派の中で、ボルシェヴィキが最も秩序正しく退却した。彼等の損害は最も少なかつた。彼等の之に成功したのは極めて大膽に空事の革命家を排斥したからである。それらの革命家達は退却の必要も悟らず、反動的な議會、保守的な組合の內に合法的に働くことの必要を悟らなかつたのである」と。

日本にもなんと左翼の大勢力を幻想した革命家の多い事よ。しかしながら、これらの先生方の云ふように、ゼネラルストライキや大示威運動が起つたためしはない。何時まで立つたらこの幻想狂は醒めるであらう。それは舊勞農黨が目茶苦茶に荒らされた頃でもあらう。しかし、これを放任する事は決して出來ない。何故ならば、吾々はそうした舊勞農黨の支配階級による荒廢をたゞ舊勞農黨の問題として見ないからである。

先づ合法政黨再健だ。例へ一歩も二歩も退いてもだ。然して全無產政黨の統一へ。これ舊勞農黨の進むべき眞の階級的進路である。

しかし、合法政黨否認、××の前夜を夢みる再健運動をのせて苦悶の新黨準備會は何處へ行く。（七月十九日）

この稿の終る頃、新聞は無產大衆黨の結黨を報じた。こうした展開はなくとも、當然この稿の中において、反感幹派の運動をも論じなければならなかつた。しかし、與へられた紙數が之を許さなかつたし、輕々しく論ずる事が出來ぬ事情にあつたので、ふれなかつた。しかし無產大衆黨の問題は、本誌時評中に論評されるであらう。かつては、旭の天にのぼる如き勢力をふるつた舊勞農黨も、今や、分裂し、戰線は愈々多事ならんとす。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

戰線統一としての組合會議

高山久藏

（一）大正十一年九月卅日、全國の無產大衆の要望を負ふて、全國の總聯合協議會が大阪に於て開催せられた夫れは大正九年の恐慌以來勞働組合の戰線統一が叫ばれての現象であつたが遂に思想的立場から相反した結果となつた。此の思想的現はれは直ちに全國的に波及して合同論と聯合論となり離合集散が各方面にて行われかなり激しい、組合間の暗鬪迄進展した。

震災後運動は理論を離れて、現實論を高唱する傾向を持つて來た即ち合同論内にも思想的立場を固守する者も聯合論内にても同じ傾向の下に分派を生じた、更に無產政黨論の擡頭するや又各組合に暗流を生じて、遂に夫々組合間に分裂除名等が行はれ現に幾多の過恨を殘して居る。

（二）戰線の統一は無產階級として緊急必須の事であり熱望して止まない處であるが常に分裂から、分裂の逆なコースを辿つて來て居る。

此の事實は何人と雖も限りなく殘念な事である、關東組合會議及び大阪組合會議は共に此の戰線統一を第一の目的として組織せられて今迄互に努力したが、事情と機會はなかなか與へられなかつた。

此の事實の原因として今迄種々論じられて居た、現實に忠實なる人。主義に忠實な人。理想を生命とする人。野心家も居やう。扨はスパイ的行爲の人も或は考へられよう。洵に戰線統一は論じ易く、極めて行ひ難い事だ。

又過去の此の問題に對して、此の解放運動を美化して論じ、自己の主張の下に組織化そうと考へた智識階級の徒に踊る人も多分にあり、此の實際的運動を無視して學校で習ひ覺へた、解放運動の誤れる、助言者も又如何に多かつたかも戰線統一の上に考慮される重大なものであると思ふ。

（三）實際運動の上にも、理論上の研討にも即ち人の上にも理論上にも清算はせられて居る現狀を召置したが、戰線は極度の壓迫と攻勢を受けて居ながらも、各組合間の事情と對立は戰線統一に對して未だに機會を與へそうにもな

い。此の狀勢は一方政府の方針と資本家階級の漸時に進展する産業線上の整理即ち合同、聯合は種々なる口實の下に急速度の轉向を來して居るに係わらず掛け聲だけの戰線統一論であつた。

左翼と云ひ右翼と云ひ、現實派と云ひ、戰線の上に永久に避る事の出來ない事實であらう、戰線統一は此の不可避の事實を捕へて講ぜられなければならない。

（四）此の全國的戰線統一論に左翼が右翼を歎ずるも、右翼が又左翼を避くるも大なる誤りであり解放運動上に忠實なる使徒と云ひ得ない、それは此の對立の上に不可避の事實を認めての企ては其の團體の指導方針の上に於ても主權の上にも何等の支障を與ふるものでなくむしろ幾度か「にがい」過去の體驗は暗々裡に尊い敎訓を把握して居るであらう。茲に當然の結論は、思想上の問題、政黨上の問題を如何に取扱ふかと云ふ事は、戰線統一の上に當然論ぜられる處であらう、戰線統一の今迄の障害の重大原因は此の二問題に依つて來つた處である事も結論せられるであらう。

否々は此の二問題を調節する事に依つて何人と雖も此の適度の戰線統一こそ先づ現在緊急なる狀勢の下に於ける、戰線統一と考へることが可能であらう。

吾組合總聯合は潜越と遠慮を超越して現下に於ける、諸事情を考慮して戰線統一を企劃した。

（五）五月廿四日全國團體に對して諮問狀を發し、協議會開催。贊否、月日。場所。是に關する一切の事情を報告、注告せられん事と附した。幸ひ極めて、懇切なる注意、厚意を寄せられて、大勢は、七月中旬、場所は東京との意向を體して、更に召集狀、案內狀を全國組合に飛檄したのであつた。

此の企てに對して數日來の空氣は非常なる險惡さを示して來た、解散？成立？吾等は一切を超越して、只一路進むるの外はない、最後の努力と注意を藏して此會に臨んだ。

此の日を意義あらしめんと、代表者傍聽者は陸續と押し掛けて、諸君の面上には誠意と緊張其のものゝ如く狹い會場は二百餘名の傍聽者、五十五名の代表にて立錐の餘地も無く開會を待つて居る。

一方此の日の官憲は正私服の刑事物凄く、入口に於ては早小競合を二三演じて居る程であつた、此の熱と人これこそ此の會合を成立せずには置かないであらう。

（六）正十一時、坂本孝三郎氏刻下の急務である戰線の統一の一階梯として、組合會議の協議會を開催すと其他簡單なる開會の辭を述べ、次ひで、高山久藏氏、本日迄の經過報告を終り、議長を皆川利吉氏に決定組合代表の點呼にて傍聽者、代表者の着席を決し、組合會議達成に對する、意見の開陳を求めて、約一時間、實に大正十一年の總聯合協議會に比して、天地の差を感じた、意見は纏めなくてはならぬとの誠意に外ならない。斯くて、代表者中より委員を選出した。即ち二十四團體、五十五名の代表者中より二

十四名に十二時であり一時間の休憩を宣して二十四名の代表者に依つて會議は續行せられ、各自組合の代表意見は詳細に述べられ、此の内より更に八名の小委員が二十四名の互選に依つて選出せられた

關東金屬勞働組合　德永虎松氏
日本俸給生活者組合協議會　有馬毅氏
市從業員組合　小野正造氏
日本勞働組合同盟　望月源治氏
在日本朝鮮勞働總同盟　朴均氏
日本勞働組合總聯合　高山久蔵氏
市電自治會　濱田藤二郎氏
關東電氣勞働組合　萩原中氏

（七）茲に於て更に一時間の休憩を求め以上八氏に依つて小委員會を構成し別室に於て懇談的協議に移り大體左の事項の決定を見た

（一）政黨的思想的立場を離れて全國勞働組合戰線統一をはかる事
（二）今日の協議會を、全國勞働組合組織準備會迄進展する事
（三）未參加團體を積極的に加盟勸誘する事
（五）此の小委員會を準備會の實行委員とし、實行委員會を構成する事
（七）委員長を入選する事（高山久蔵氏を推選）
（八）第二回準備會開催
所――大阪　時――八月十九日
（九）本部――東京芝新櫻田町一九
（十）聲明書を發表する事、起草者坂本氏

聲明書

我等は、我國勞働階級多年の曉望たる無産階級統一戰線樹立のため、現下の狀勢に鑑み、無産政黨並に思想的傾向に囚われず一路あらゆる難關を突破して全國勞働組合會議の實現を期す

昭和三年七月十五日

全國勞働組合會議
組織準備會

（十一）規約は各組合に於て本月末日迄に準備會本部に送附する事

（八）以上の決定を以て二時再會を宣した。幾多の質問、議論等あつたが總て可決せられ茲に、全國無産大衆の要望する戰線統一の第一たる全國勞働組合組織準備會は創立せられたのである。

茲に於て祝辭として

全國農民組合の　前川正一氏
江東地方協議會の　時永良一氏
新黨準備會の　大山郁夫氏
在日本朝鮮勞働の　朴均氏
日本勞農黨の　加藤勘十氏

更に祝文として全國消費組合本部始め廿三通を祝電として海軍聯盟、司厨同盟、廣島工作會、等五十餘通を書記大久保氏に依つて被露せられたのを見ても如何に大衆が期待しつゝあるかを知るものである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

閉會に總聯合問題の望月氏『足らざるは補ひ過ぎたるは遠慮して、階級戰線の統一を希望する』と結び議長の發聲に依つて準備會の萬歲三唱裡に散會したのであつた。

（九）幾度が危ぶまれた、戰線統一の第一歩は茲に確立せられた、而し吾々として未だ幾多の問題は殘されて居る。

先づ此國の問題に於て陸上勞働團體に制限した事である、海上團體、農民團體に對して吾等は夫れ自體各自の戰線統一を順序とすべきを信じて居る、一日も早く無產團體としての完全なる戰線の統一は農民組合は農民として、海上團體は海上として先づ如何なる適度統一にても各自に達成して漸時陸上團體と合流すべきであらう幸ひに陸上の今回の企てが何等かの「ヒント」となり、參考となれば何よりであり一日も早き達成を望むものである。

又準備會の參加團體の數から見て幾多の團體を殘して居る事である。此點に對しては、提唱團體としての吾が總聯合の努力の足らざるを深謝すると同時に未參加團體が是非日本に於ける無產者に對する責任として、又眞に戰線統一の爲め良り深き理解と誠意を以て來るべき第二準備會には是非參加を切望するものである。

更に今回の吾が總聯合の企てに對して陰に陽に努力と注意をされた諸團體に感謝すると同時に大正十一年の總聯合問題に於ける、第三者の論調例へば、知識階級の論調は只排外的、獨我的の論調にして、むしろ是が達成に有害であつたが今度の企てに對しては此種の論調は實踐的な好意な助言者であつた事は注意すべき現象であり意を强うすべき傾向ではなからうか。

目的の遂行は統一された結果以外にない。それには無產團體相互に專制と支配慾を離れた、階級德義の確立を除外しては永久に統一は達成されぬであらう。

壓制と暴逆に悲憤を訖つなら同じ階級的同志間の謙讓は求めて易き事ではないか

結束から。統一へ、統一から、

而して戰へ!!

——（七月廿日）——

月刊

讀め!! 社會民衆黨

日本民衆新聞

を支持する唯一の無產政治新聞である

一部五錢・毎月二十日發行

發行所

東京市芝區三田四國町二の六

日本民衆新聞社

電話高輪三二九〇

振替東京七〇二一〇

政界ゴシップと新證據

布施辰治

六月廿八日の東京新聞は殆ど洩れなく、問題の新遞相久原房之助氏に田中首相の肝入りで選擧區を讓つた、山口縣第一區の前代議士にして、現久原新遞相秘書官藤田包助氏に關する左の如き政界ゴシップを報じた。

「つひ、先日のこと、鳩山書記官長が築地峰龍に各省秘書官を招待したものだ、主人役の鳩山君、出席者一同ズット見渡した所が、海軍省と遞信省の秘書官が居ない。どうして遲いだらうと待ちくたびれて居たら、そばに居た藤田包助君が「僕が點檢してやらう」と一々調べて歩いた揚句に、矢張り海軍遞信兩秘書官が來て居ない。首相秘書官の植田君が、藤田君の肩を叩いて「遞信秘書官は君ぢあないかね」と訊いた所が藤田君、始めて氣が付いたように「あゝそうだ、僕が久原の秘書官だつた」で一同大笑ひ―

「私は、之れを一讀して、之を報じた新聞社の意圖が、夙に人事行政の突飛的失敗と、情實的專斷を以て鳴る所の田中内閣、――殊に其の中でも天下の耳目を欹たしめた問題の久原新遞相秘書官の任命が、如何にダラシの無いものであるかを曝露するにあつたとしたら、誠に屈竟好個の政界ゴシップだつたと思ふ。

新聞紙の或るものは、更らに、其の詳細を極めて、「藤田秘書は、任官以來一度も遞信省に出勤したことが無いそうだから、勿論、一度も久原遞相の鞄を持つた事が無い」と云ふ事を附け加へて、田中内閣――殊に久原新遞相關係の人事行政が、其の如何にダラシの無いものであるかを曝露して居る。

こゝに、私が此のゴシップの屈竟好個を推賞する所以があるのである。何故なら、斯うした政界ゴシップは、苟くも、公平嚴正なるべき司法官憲をして、舊勞農黨書記長細迫氏から告發した田中首相、久原新遞相、藤田新遞相秘書官一蓮の選擧法違反事件不起訴決定を取消さしむべき屈竟好個の新證據だと信ずるからである。

◇

舊勞農黨書記長細迫氏から告發した田中首相、久原遞相、藤田秘書官一蓮の選擧違反事件は、藤田遞相秘書が山口縣第一區の前代議士として、一月廿一日の解散と同時に立候補し、既に其の運動を進めて居た途中、急に久原房之助氏の實業家から政治家への鞍替、今から云へば誰れにでもハツキリする大臣任官の準備として、山口縣の藤田包助氏の地盤をソツクリ讓り受けることに就いて、田中首相が政友會總裁としての秘書官だつた藤田氏と、久原氏との間に公私職務の供與を周旋勸誘した選擧違反がある。といふのであつた

そして、私は當時も現在も左樣信じて居る。にも拘らず、司法當局は、只一回告發人たる細迫氏を取調べた丈けで甚だ公平嚴正ならざる不起訴に決定して去つて居たのである。處が、偶然にも皮肉にも今度の政界ゴシツプで曝露せられた久原新遞相の藤田新秘書官が、自分の秘書官たる事を忘れて居ても、其の俸給を取る事だけは、キツト忘れて居ないに違ひない。と同時に、久原新遞相が鞄持ちの用にも立たない藤田氏に、秘書官といふ公職を供與したのは、抑々何んの爲だつたのか？どうして、夫れが藤田氏に山口縣第一區の立候補を止めさせて、其の選擧地盤を其の儘ソツクリ讓り受ける時に約束した職務の供與で無くて何んだ、──と云ふ不起訴決定取消しの新證據を提供したのは、捜査官憲御得意の事後證據であらう。

日勞黨よ怒る勿れ

清水重一

「社會思想」七月號に次の樣な一節があるので社會民衆黨式の紳士にも、惡口を云ふ口があると見えるなと感心した。暑さにもかゝはらず、この一節を掲げる。

「一體大山等は香川縣の現狀を何んと見らるゝか。香川の農民諸君は地主官憲の暴壓下に苦しみ惱んでゐる。記憶せよ氏が立候補された時は、最も勇敢に獻身的に氏を支持した農民であることを。而かもその農民が今や塗炭の苦しみを苦しみつゝあることを。氏は選擧が終つたら東京へ引き上げられた。東京には氏を迎ふべき邸宅もあれば暖い家庭もある。一管の筆三寸の舌よく氏の生活を支へ得るであらう。併し農民にはそんな藝當は出來ぬ。父祖傳來の土地を離れて果していづこに安住の地を見出すか。道綴の合同大會に氏は一場の祝辭を述べられたそうだ農民大衆は拍手を以て迎へたと聞く。氏よ、自惚れてはいけない。純朴なる農民諸君の前に自分自らを反省せよ。」（全國農民組合當面の任務──笹井茂）

と。もう一つ、これと同じ樣なのが日勞新聞七月十五日發行の第三十七號に出てゐる。この筆者は新潟全國農民生としてあるが、前者と同一人か然らずんばそれと氣脈を通ずるものであらう亦筆者のみに限らず、これを掲げた日勞新聞編輯長も亦この一派であり、日勞新聞が日勞黨の機關紙である限り、日勞黨も又この聯關に入るべきであらう。

二

香川の農民の爲めに大山氏果して健在なりや？（勿論健在ぢや無い筆者）解散された舊勞農黨大衆の爲めに大山氏果して健在なりや？（勿論健在ぢや無い、筆者）

が、日勞新聞や社會思想の攻擊は兒戲に類してゐる。日勞新聞の事實上の編輯責任者と云はれる田所君の「マルクス主義の編輯者は、も少し物の分つた人に書かせぬと商業上はいさ知らず攻擊される吾々がさつぱり痛くない」と云つたその言葉は、又日勞新聞にも適用されるぢやないか。

三

大山氏は氣の小さい人だから、大變

氣にするだらう。亦氣にしなければならぬ。農民の王國をつぶした罪は決して免れないからだ。けれども大山氏が攻撃され苦しんでゐるのを見て得々としてゐる日勞黨の幹部ありとしたならこれ「進め社」の寫眞機で一枚寫さう先づ大山氏と同格の麻生書記長が、かつて總選擧に戰つた足尾の地は坑夫組合の旗すら資本家政府の暴壓によつてもぎ取られ、職業こそ異なれ、香川の農民と同じく苦しみにもがいてゐる。大山氏と同じく麻生氏も東京に返れば、一管の筆、三寸の舌よくその生活を支へ得るであらう。「父よ悲しむなかれ」なる堂々の大作も發表され、原稿料がウンと入つて「書記長よ悲しむなかれ」と云はれ、その原稿料が日勞黨に入つて「日勞黨よ悲しむなかれ」とはやし立てられる。

四

しかし日勞黨よ怒るなかれ、
大山氏よ悲しむなかれ、
しかし、戰線の再建を怠るなかれ、

支那の勞働者農民を支援せよ

山路文夫

全世界の帝國主義包圍の下に、支那四億の民衆は今や全生活の恐威を受けてゐる。殊に將介石の裏切りによつて支那革命は不成功に終り完全に帝國主義ブルヂョアジーの下に屈服し勞働者農民の生活は容易に其の窮乏より脫し得ざるのみならず、白色恐怖の前に容赦なく生命を奪れつゝある。加ふるに彈壓限りなき田中反動內閣は、嚮に日本共產黨事件を捏造したのみでなく、二百万圓の秘密費による警察網は支那民衆の上に迄其の魔の手を延ばして來たのである。田中政府は張作霖と國民政府との妥協運動を武力的威壓によつて打ち切らしめ、滿蒙を完全に日本ブルヂョアジーの支配下におくべく、張學良と秘密條約を結びて革命運動の彈壓を企て、既に二十二日關東廳當局に對して具體的行動に移るべく指令し、東三省における戰鬪的勞働者農民を大連署を通じて共產黨狩の名の下に續々捕縛してゐるのである。國民革命の二大精神である、「打倒帝國主義」と『打倒軍閥』とを放棄して、日、英、米、佛の帝國主義ブルヂョアジーの前に屈服する事によつて成立した國民政府の下に支那の革命的プロレタリアートは滿足せずこれに對する反抗と、既成政治組織の顚覆による支那革命への鬪爭でなくてはならない。それに對して日本ブルヂョアジーが多大の恐怖を受け、滿蒙の寶庫の擁護のために、遂に二十二日における如き、殘暴を演じたのであつた。しかして支那のプロレタリアートは、日、英、米、佛の帝國主義軍閥の支那再分割のための爪牙の中に、國民政府の反動の浪と戰ひつ、勞農支那の建設のために巨大の歩みを運びつゝある。我等は全世界のプロレタリアートと共に、荒れ狂ふ白色恐怖の中に尊い犠牲となりつゝ勇敢なる鬪爭を展開してゐる支那プロレタリアートに對して全力を擧げてこれを支援しなくてはならない。

分裂を極めてゐた無產階級の陣營も五月二十七日左翼兩農民組合の統一を見、七月十五日全勞働團體協議會準備會が設立され、更に日を同じうして舊勞農黨の大道憲二氏等一派の所謂反幹部派によつて日勞黨と無條件合同を聲明する無產大衆黨結黨準備會が名乘りをあげ、十六日には社民黨の大阪聯合會が積極的に日勞黨との合同を幹部に提議し爲めに合同反對の赤松、松岡氏等の立場が漸く困難となつてきた。此狀勢は左右兩翼の分裂主義を淸算し或は克服せんとする無產階級陣營の正しき自己批判の產物であるから何處までも我々は無產大衆の壓力によつてこの運動の滿足な結果を招來せしめねばならぬが、この際、日勞黨が、河上丈太郎、今村等、濱野末太郎、西野哲太郎の四氏を支那に特派せんとするのは、同黨が直面せる財政的窮迫を意に介せず、無產階級運動の國內的統一と共に、これが全面的展開を忘れざるを明示するものであると信ぜられる。

× × ×

「我等の遣支大使」に何を期待するか

佐々木敬三

日本の無產階級の陣營が、經濟部門の上、政治部門の上に或は一元的に或は二元的ながら漸く統一を見るに至らんとする今日、支那も永き混沌の夢から醒めて、形式的に曲りなり作ら國民黨の全國的支配を實現せんとしてゐる。この一文が活字に組まれる頃には既に東三省の御曹子張學良が青天白日旗揭揚を宣言してゐるだらう。かくて田中反動內閣の支那問題顧問を以て任ずる佐藤某等をめぐる一團や滿鐵系一派の策動する滿洲獨立の企圖は、張作霖死後に起つた一泡沫的現象としてかき消え、プルチョア新聞の特派員達も支那本土に對する滿洲の特殊性が解消しつゝある事實を報告せざるを得なくなつた。支那新聞一般の論調は張作霖の死を以て日本側の責任となし、張は最早日本帝國主義の一走狗として使用價値を喪失せるため日本側の策動により、逃走の途上に生命を失つたと評してゐる。日本ブルチョアジーの半殖民地的支那に於ける護衛兵たる軍閥は、張の沒落が同時に滿洲特殊化の必然的失敗と內面的關係あ

るを知つてか知らないでか否、最も具體的に知れるが故に一擧獨立案を提げて出たのだ。なんとあざやかな反動ぶりではないか。滿鐵が此案を貫徹せしめる爲め莫大な金をまき散らして奉天在留の外交官を驚かしたのは周知の事實だ。併し滿洲に青天白日旗が飜へる時、日本ブルヂョアジーはあらゆる手段に訴へて利權——外國資本の搾取に對する公認——其他一切の利益の擁護につとめるだらう。そして一旦滿洲に結束された力を驅つて更に大規模な進出を試みるのは明白である。滿鐵社長山本條太郎が單に產業合理化の技師程度の人物に過ぎず、僅少な利率に苟泥して米國銀行團の代表者ヲモントと押問答してゐるうちに、支那側から横槍を入れられ、遂に社債借入れが不成功に終つた爲め、山本社長不信任の聲が高くなつたのは、日本ブルヂョアジーの、あらゆる機會と方法とにより滿洲を殖民地化せしめんとする意圖に從つて、踊る器用さが、幸か不幸か彼條太郎にはないからである。

そして、日本の勢力範圍として支那本部に對する滿洲特殊性が褪色するのは、換言すれば滿洲の支那本部化である。

× × ×

「支那は果して統一されたか」といふ問題は種々な意味で興味ふかいものだが、如何なる中傷と嘲笑が國民革命の上へ投げられ様とも支那全土に青天白日旗の掲げられる日は統一實現の日と見るより致方はない筈だ。かくて次第に乃至急激に支那は內部の整理を完了して、列強の帝國主義打倒に全力を傾注するに違いない。

今、さうした支那內部の變化を見透す前に現實の情勢に一瞥を加へてみたい。公式的に言へば支那革命の中心勢力たる國民黨は孫文が所謂容共政策即ち共產黨の國民黨加入によつて、從來の爲す所なきプチ、ブルヂョアの支持を恃まず、ソヴエート露西亞と共同戰線を張る大衆黨となつた。これが大正十四年夏の國民革命軍長江進出の直接的な動力であつたが、極左的小兒病的病弊が此處にも醸された。蔣介石が南京に下つてブルヂョアジーに妥協したのを筆頭に、新軍閥が擡頭した爲め、コンミンテルンの百の指令も奏效せず、支那共產黨は當分潛伏のやむなきに至つた。本年度に入つて大規模な北伐が準備され、遂行されたが、これは畢竟揚子江沿岸の支那資本家の資本主義が新軍閥の形をかりて國內資本主義發展の溫床を用意した事を意味する。從つて、新しき國民政府は、封建的排外思想の血脈を傳へる打倒帝國主義の標語を、社會主義國家建設の武器としてではなく、資本主義國家建設のそれとして用ゐる。關稅自主權、租界回收、治外法權撤廢、等の諸問題解決に對する支那の提議方法は明白に這般の消息を傳へてゐる。ソヴエット露西亞が舊支配階級の行爲に對して全く責任を負はざる態度こそ、無產階級革命の當然な歸結であるが、支那は條約廢棄に就いては國際公法上合法的手段を執らんとし公債借款は、それが舊軍閥の私事——政權爭奪の費用に宛てられたるものに限り責任を負はぬ等の微溫なる態度であ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

る。勿論、内外の資本主義は對立し競爭しつゝも無産階級××の必然的到來に對する恐怖憎惡は共通であるが故に、悟りのよい兩者は諒り合ふべき點を常に考へてゐる。併し遂に帝國主義戰爭の危險を防止し得ないことは、無産階級的觀點からして、お氣の毒な至りだ、ともあれ、勞働者農民の支持を受けて、進み來つた支那革命は、ブルヂョア革命の最後の一點に到達したのだ。

今にして支那共産黨の過去に於ける小兒病的行動の一切が清算され、新しき活動が營まれねばならぬ時が來たのだ。實は現在まで静かに組織の擴大化を計り、國民黨と共同戰線を維持し民族革命にのみ止るブルヂョアジーが、目的完成の日、無産階級××への前進を拒否せんとする時、分離して之にとつて代るべきであつた。殖民地及び半殖民地に於けるプロレタリヤ革命の具體的運動は、その本質を害せざる限り民族解放のブルヂョア革命運動の合流を必要とする事は、レーニンが既にローザ・ルクセンブルグなどの迷妄を啓いて教へた所である。併し今となつては、更に具體的に支那プロレタリヤ革命は計劃されねばならない。

× ＋ ×

支那ブルヂョア政府の確立は——依然、蔣介石、閻錫山馮玉祥、李宗仁、李濟琛、張學良等の變形軍閥は存在するが、——我々日本のプロレタリヤに如何なる關係を有するか。これは當然討議されねばならぬ問題だ。

七月十七日の東京株式取引所の市況は、一齊に諸株が暴落した。これは國民政府が關税引上實行に強硬な意志を行してゐることが、愈々明白になつた爲めであるが、ブルヂョアの一角は早くも帝國主義の支那に於ける一時的退却を豫想してゐるのだ。支那に聳えだす關税の障碍を越えて如何に侵略せんとするか、彼等は先づその方策に迷つてゐるかに見えるが、必ずしもさうでない。日本無産階級を今一層のメ木にかけて×りあげ樣といふのが、こうした場合の常套手段だ。そして層一層資本輸出の傾向を激化し、或は支那人工場を建設する等の手段に出る。最近支那の鐵道は投資の對象物として、列強間に特に從前以上の熱心さを以て迎へられてゐる。これは鐵道これ自體の外また鐵道による地方開發の結果其處に新しい投資の對象を見出さうといふ計劃である。資本主義最後の段階通過の速度が異常に早められる、日本國内の失業者増加、小資金融通の梗塞、中産階級の急激な沒落は以上の觀點より直接に導かれる一方支那無産階級は、何新軍閥の誅求に苦しみながら自國ブルヂョアジーと、外國資本主義との二重搾取に喘がねばならぬ。實際日支の無産者は共通の敵資本主義の打倒に握手し具體的に共同動作をとらねばならぬ客觀的情勢なのだ。

所が、支配階級は此の事實を隱蔽し、否曲論して、無産大衆の利益は、資本主義の忠實なる下僕として同僚の支那無産大衆の手をねぢあげる反動政府、ブルの助手になる事によつてのみ増進される、と説教する。そして、これだ、右翼の改良主義的理論の根據は。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

× × ×

然らば、我々日本無產階級は支那に對して如何に行動すべきかは多言を要しない。我等は支那無產階級へ直接に呼びかけるのだ。支那國民黨の政治部員たる李列均が民政黨宛にメツセージを送つて來た事實は、國民黨の正體を完全に白日下に曝露したもので、若し誰か我が無產階級陣營から彼等に款を通じたものがあつたら、認識不足の譏と階級的裏切者としての汚名を免れぬ。從來社民黨の一部にかかる一群を見たが、今日に至つて尙ほ昔日の見を改めぬなら我々は、反動の一陣營と見做して排擊する。潜行的運動に餘念なき支那共產黨の未來はともあれ、昨今の有樣では、支那無產階級への直接の呼びかけは、支那勞働組合及び農民の組織體に向けるより方法がないと思はれる。そして此の組織を國民黨內部の勢力として結成せしめず、別個の政黨にまで、作りあげるのが、今日の急務だ。國民黨は黨國主義で一黨獨裁を標榜してゐるから、名目上の無產政黨を無理に結ぶのは愚であつても、實質的な、×××無產階級運動の統一的單位を、我等の積極的支持によつて齎らすべきだ。

×××日本無產階級運動、殖民地の解放、××的支那無產階級運動等の間に起る交互作用により資本主義の矛盾が遂に爆發するのだ。支那問題は日本の問題であり、世界の問題だ。最近勞農ロシアは支那を六區に分ち秘密裡に再びボロヂンを上海に置き運動の總指揮に當らしめてゐると云ふ噂がある。日本無產階級陣營の整備と共に我等も進むべきだ。

日勞黨特派の四氏は、日勞新聞によれば支那國民革命現實の姿を無產者的見方による眞相をつかむ爲め渡支されるのだ相だ。併し今日それ丈で[illegible]に無產者的行動として全的に肯定されるだらうか。此[illegible]いさゝか疑ひなきを得ない。[illegible]の把握と同時に何等かの積極的な實踐を必要とする。我等は、その準備を要求する。日本無產階級戰線統一運動の進展と、支那國民革命の一段落とを見たる今日、之れを要求するこそ日勞新聞の云ふ「我等の派遣大使」を支持する所以であらう。（七月十七日）

田中內閣の對支外交を難じた日勞黨の聲明

一、國民革命運動の意義を解せず援北仰南の拙策に終始し一朝條約廢棄の聲明に接するや周章狼狽暗に武力に任し現行條約の擁護を仄かすが如きは支那民衆の怨を二重にするものであつて吾人の斷乎として反對する所である。吾人は事のこゝに至れる以上速かに國民政府の要望に應じて平等條約締結の商議に入るべきことを要求する

二、保境安民の聲明あるにも拘らず東三省が國民政府の下に立ち事實上の支那統一の實現せられることに反對し[illegible]當に名をかりて南北妥協を阻止せんとするのは支那の內政干涉であつて吾人の斷乎として反對するところである。吾等は卒先して支那統一の諸勢力に協[illegible]し對支[illegible]不干涉主義の確立を期せんとするものである

三、速に撤兵を斷行し支那民衆の對日感情の融和に努むると共に國民革命政府の承認支那統一の實現に對して積極的の聲援を要求するものである

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

特別讀物三篇

理想鄕を造らんとして支那革命に從ふ

福田狂二

一九一二年三月一日姫路の陸軍徴治隊を解放せられたる私は、郷里出雲に歸省してゐたが居る事五日ばかりで浮世の日暮にも退屈した。時に、支那では、前農林總長の、宋教仁が袁世凱の刺客に暗殺された。そこで南方の志士は、奮ひ起つて義軍を起さんと、上海電報は、毎日日本の新聞に、一頁位を埋めて居つた。

五年幾ケ月の兵役を終つた計りの私も、安閑として田舍に閑日月を送ることが出來やうか。殊に宋教仁は、日本に亡命して居た頃、日本の社會主義者と懇意にして居たのであつた。

南方の豪傑の中で革命の大立物である、黄興や、張繼等は幸徳、堺、石川、大杉等と交はりが深かつた。そこで、友人として支那革命軍に加はるばかりでなく、もう少し、重大な使命がある樣に思はれた。卽ち私は其の當時考へた。日本のやうな絶海の孤島で、社會主義を實現したとて、世界には何んの影響も與えないと。今支那は紛糺して居る。老大國と雖も、人口四億餘万人を擁して居る、こゝに、義軍を起し奸雄袁世凱を倒し、社會主義共和國を建設せば、萬國の同志皆躍起して起たんと思ふた。

これが、友人の仇を打つのみならず支那國民を救ふばかりでもなく、全く人類をして、理想郷に向はしむる第一步なることを痛切に感じた。

三月七日尾行をまいてこの目的のために東京の、同志渡邊政太郎君を訪問し直ちに、支那に行くことを話した。渡邊も、大逆事件以來、日本に居つては、何事もなし得なかつたので、自分も同行したいと云ふので、一所に行くことに

した。それから大久保の大杉の宅へ行つて、大杉の父が大隊長當時の軍刀、三尺ばかりの業物を貰つて堺を訪問し、直に渡邊と二人で汽車に乘つた。東京に居ること僅か五時間ばかりで仕度は整つた。汽車は、この二人の戰士を乘せて、動き出した。

下關に直行して郵船讃岐丸で上海に向つた。海上二日ばかりで、船が上海入口呉淞を過ぎると、見渡せば陸上茫々として、際涯なく、河岸は支那の勞働者、苦力が、三三、五五、汗を流して勞働して居るのを見た。此土地と、此の人民が、社會主義社會を實現すると思ふと、覺えず快哉を叫んだ。上海に上陸するや否や、直に、フランス租界法昌路の支那の宿屋、長發棧に投じた。

市中は、四百餘州の志士仁人、雲の如く集まる。鼎の湧くが如き騷ぎであつた。翌日黄興や孫文を、訪ふて、日本から義軍に投ずるために來た挨拶を述べた處、大喜び黄興は二ヶ月程前に、石川三四郎君が、フランスに亡命する途中に、立寄つて宿つて行つたと云ふ話しであつた。

私は日本の浪人のやうに、戰爭しても後方に居らず心から前線に立たんとの希望を述べた。これ迄支那革命に從事した日本の支那浪人と來たら、主義も節操も糞もあつたものでない。金を呉れる方につく、朝に袁世凱に從つて夕に南軍に逃走する、支那の志士と稱する奴も、大概こんな奴が多かつた。彼等は、妓樓に登つて、豪遊し美人を擁し、大法螺を吹き、眞に支那革命の意義あることなど、少しも考へて居ない。上海の大妓樓、六三亭等は、之れ等僞豪傑、僞志士の亂痴氣場所であつた。この支那浪人と云ふ奴が、私達が支那の、有志と、交際することを非常に怖れて防害した。それで私は、こんな奴等はとても相手にならんから湖南に行き唐蟒の軍に加はり、北京を衝かんと考へた。そして、湖南を行かんとして居つた前日、友人が訪ねて來た。山口孤劍の兄福田保太郎君が來た。鐵血監視團のために、拳銃の彈藥をやらうとの話であつた。この鐵血監視團と云ふのは、長江一帶を地盤とする暗殺團である。

これは火の如き熱のある青年の集まりで、黨員數千人と稱せられて居た。支那革命を防害した、大官や大將は此の鐵血監視團に殺されたものは、澤山あつた。私はこの團長の餘潤參君とは日本に居る時から知つて居つたのだから直に彈藥のことを承諾した。その翌日に今、上海で川北電氣會社の支店長をしてゐる野口餘潤君の宅で、決行する相談をした。日本の浪人と稱する人、三十二三名中に陸海軍の豫備士官あり、政黨の壯士等が居で大氣焔をあげて居たが、獨逸の密輸入商が拳銃一千挺を持つて來た時には誰も逃げて居なかつた。福田保太郎君と、私と、たつた二人だけであつた。日傭車に拳銃を運んだ。拳銃を入口にまたせて獨逸人を三階へ上げた。

それから福田君と二人で、應接室にて金を渡す如く、私が金を取りに行くやうな風をして部屋を出た、福田君も又電光石火外へ出てドアーを閉めて錠を下した、中から

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

三發ばかり打たれたが、西洋館ではあるし、出る事は出來ない。私は、待つて居つた鐵血監視團員と、上海を去る五里ばかりの處に、拳銃を自動車で運び去つた。

そして、この事は眞に都合よく運んだ。獨逸の密輸入商は泣寢入となつた。

その晩私は漢口に向つて立つた。

此稿は大正三年書きかけたものだが今編輯局からのせよとの命もだし難く載せる事にした。次號から五頁位書く心算僕の青年時代闘志抑へ難く、志望を行はんと支那革命に從軍せる記録、例によつて悪文には容赦を願ふ。(福田)

米暴動の頃

高田和逸

「外米の茶漬の中に二つ三つ、落つる涙も奸商の爲」

大正七年八月十三日、日比谷公園に、こんな落書がしてあつた。

明治維新史を繙くと、當時民衆に對する唯一の宣傳文書として、日本橋を中心に旺に落書がされたことが書いてあるが、半世紀を過ぐる大正の御代に於て、明治時代の惰勢とは謂ひながら、一歩過れば市中は燒打ちでもされて火の海とならうと云ふ米暴動の騷動中に、こんな俳味のある日本人が一人でも有るかと思ふと、反つて其の樂天性が頼もしくもなつた。

或る論客の説に從ふと、日本の勞働運動は米暴動を轉期として擡頭したものであると云ふことであるが、假りに米暴動を以て大正七八年の頃より急激に擡頭して來た勞働運動の先驅をなすものであるとするならば、當時を回顧して想ひを新にするも、強ち無益のことではなからう。

米暴動は人も知る如く、大正七年八月、丁度今日から十年前の今月、其の月の初めに於て、富山縣中新川郡東西水橋町の漁民の女房連が、北海道へ出稼中の夫からの送金が無く、生活の道を斷たれて困窮して居るのに、米價は益々暴騰するので、遂に約二百名程が結束して物價騰貴に夜る生活難を叫んで、二手に別れ、富豪、米商等に向つて米の廉賣を嘆願したに始まる。

次で、六日に至つて、この事を聞いた程遠からぬ滑川町で、同じく北海道へ出稼中の漁民の留守居の女房連が、二百名程一團となつて土地の資産家、齋藤仁左衛門、米商、堀川忠左衛門、を訪問して白米廉賣を嘆願した然るに警察官はこの一團に解散を命じ、同時に教唆者として男一名と、主謀者として女十名とを引致して了つた。

この穏なる警官の態度に憤慨した女房連納まらないのが當然であるから、定めし、その晩は、世界最大の井戸端會議を開催して、姦を擴大した揚句、ヒステリツクに決議をしたことであらうが、翌七日の早朝、一同して再び勢揃の上、被引致者の取り戻しに警察へ押し込んで行つた。

これが騒動としての始めである。

ところが驚いたのは郡長さんで、早速、駆けつけ町會を非常召集して善後策を協議したが、未だ善後策の協議の纒らないうちに、この滑川町の女一揆が早くも全國へ知れ渡つて、これに共鳴したものか、刺戟されたものか、それともこれが動機となつたものか、日時相前後して、京都其他の都市に暴動を見るに至つて、遂に全國百餘ケ町に暴動が起つた。その中二十七ケ所には軍隊が出動して警備に當つたと云ふから、寔に由々しき大事件であつたに相違ない。

◇

この大事件の端を發した東西水橋町や滑川町の女房連が何故こんなに騒ぎ初めたかと云ふと、丁度其の年、例年の通り北海道へ出稼に行つた漁民達は、例年にない非常な不漁であつた爲めに、出稼地に居る譯にもゆかず、さりとて歸國するには金はなしと云ふ譯で、出稼人は申し合せたやうに一齊に留守居の女房に歸國の旅費を送れと手紙を出したさうであるが、これを受取つた女房連は、只さへ物價騰貴で困窮して居て、今に、今にと夫からの送金を待つてゐたところ、案に相違、アベコベに歸國の旅費を送れと來たから、これぞ天下の一大事と、前記の如く、夫れ夫れの資産家へ何分此境遇御援助下されと相談に及んだのが騒ぎの原因となつたさうである。

社會學者や、經濟學者は、この關係を理論的に說明されることであらうが、それは別として先きへ進めることとする。

米騒動の序幕は、これで濟んだ譯であるから、次の場面の幕を開けなければならないのであるが、戯曲としては内容が餘りに複雜してゐるし、テーマが大き過ぎるから、一つ思ひ切つて最も新らしい、然も極めて簡單なる表現の形式を執つて見る。

「先づ舞臺の正面、或はスクーリンの全面へ、古い新聞紙の記事を一面に張りつめる。そして赤、青、紫、等、の電氣照明を送る物凄い記事の場面へは青を、焼打ちなぞと云ふところへは赤を、大衆の動くところへは赤、青、紫の光線をチラチラと廻轉式に照らす。

觀客は虫めがねで、これを二時間ばかりも觀て、否、讀んで自分の頭の中で何場面をも勝手に極めて自由に觀賞す

る。

これが、ロシア辺りでもやつてゐないであらうところの劇表現の新様式である。で、この新様式に従つて、誤魔化すとして、舞台一面に張りつめたつもりで、古い当時の新聞記事（私の手元にあるものの中から）を、イヤと云ふ程挿んで見たから、諸君は、こくめいに讀まれて古い記憶を呼び起し、更に新らしいものとされるがいい。

『米の賣價一升五十錢になるや、廣島、京都、名古屋の各地殆んど軌を一にして暴動起れり、知るべし、米價の昂騰が如何に一般國民の生活を脅かしつつあるかを、政府は今に於て尚米價制限を實行するの意志なしと云ひ、各政黨も尙豪農及び奸商輩に媚びんとするの態を執りつゝあり、國民生活の脅威は何物よりも重大なるを解せざるか。奸商輩は民衆の血を絞りて己の肉を肥さんとするもの也。彼等に加ふるに如何に重き制裁を以つてするも、民衆は決して之を輕しと爲さざるべし、政友會は卽ち彼等奸商輩に阿附せんとするものなり。共に重き社會の制裁に値す。然も目前の急は斯かる手溫き論議に時日を空費するを許さず、如何なる手段を盡すも速かに多數民に食を給せざる可からず、一日の遲延は一日の險惡狀態を增加す、問題は切迫せり、速かに解決を要す。』（萬朝報、大正七年八月十三日）

『物價の騰貴は種々の原因に基くと雖も、京阪地方の米商等が最初盛んに買占買煽りを爲したることと其主因なるは爭ひ難き事實也、世人は既に之を熟知し、物價調節の最良方法は此等奸商輩の手を鎭するに在ることとも亦齊しく之を認む。』（萬朝報、八月二十日）

『和歌山縣下騷動中既記に洩れたる事件を摘記すれば、先づ十三日夜には和歌山市寄合町多額納税者にて造酒家たる宇治田六左衞門方にて群衆五万圓の救助費寄附を勸め同家にては半額寄附を約したり、新八百屋町四十三銀行頭取宮本吉右衞門は主人不在を裝ひしが民衆の氣勢烈しき爲め、主人出でて謝し二萬圓寄附を約せり、其他寄附を强ひられし者多く、十四日夜には多額納税者貴族院議員元寺町南の丁、津村紀陵方に群衆寄せ其前の寄附五千圓は過少なれば倍額にせよ、と迫り承諾せざりし爲戸障子を破られて結局承諾せり、此夜各所にて寄附金勸誘烈しきより軍隊の出動となり、群衆側にて兵士に突かれ死者三名、負傷者一名あり、軍隊側にも伍長一名死亡せり』（萬朝報、八月十五日）

『十一日夜九時廣島町の婦女子も交る三百餘名の一團は町内の白米商七軒を襲ふて米廉賣の談判を爲したり。鄕津西警察署長部下を率ゐて出張、必死となりて說諭せし爲め十一時過ぎ解散せり』（萬朝報、八月十三日）

『京都府乙訓郡大江青年團凡そ七八十名一團となりて十九日午前二時頃同村助役松本矢平次方に押寄せ表戸を毀ちて亂入し家財器具を破壞し屋上に上り、瓦を剝ぎ取る等亂暴を極むるより警察官馳け附け鎭撫に努めたる結果一時解散せしが原因は同助役平素氣受け好からざるを今回米價騰貴に際し寄附金尠少なりしに依るなりと』（國民新聞、八月二十日）

『岡山市の騷擾者は多く附近の特殊部落民にして、米其他を掠奪したるを以つて岡山警察署は協力し十九日未明特殊部落を包圍し大捜索を行ひ百七十餘名を逮捕し掠奪品を列上げたり、市内は各町靑年團員夜警の任に當り、人心稍鎭靜に歸せり。』(萬朝報、八月二十日)

『今回の京都騷擾は市外柳原町特殊部落から始まつたのである。十二三歳の少女が病に臥して居る母に食させる爲、附近の米屋へ二合の白米を買ひに行つた。特殊部落だと侮つて居る上、而も二合のお客樣だから相手にしない。「それつぱつかり賣れるものか」と追ひ拂つた。その翌日同部落の一婦人がその米屋へ行つて一升五十錢では出し切れぬ。四十錢に負けて下さいと頼み入つた。米屋の方では「四十錢なら幾何でも他の方で買つてやる」と、その時もせゝら笑つて追へした。この二つの侮蔑が柳原部落全體の人々を驅つて憤りの絶頂に到達させた。「平素から人交りも出來ないやうな扱ひをしてゐる者さへあるに」と骨髓に徹して居た恨みが先づ米屋襲撃になつた。

九日の夜は蒸される樣に熱かつた。全部落の屈強な男に女も交つてその數、數百人、件の米屋に殺到して打壞しをやつた。之を機會に騷ぎが大きくなつたのである。

神戸では鈴木商店に次いで、神戸兵庫に存在して居た大部の貸家の管理所兵神館が燒かれた。之は歐洲大戰勃發以來非常に家賃の値上をした。それを憤つてゐた借家人の反感の結果であると騷擾狀況を調査して來た某代議士は語つて居た』(萬朝報、八月二十二日)

『憲政會が當局の米價調節策を誤れりと做し、之を自然の趨勢に委すべしと云ふに至つては言語同斷の沙汰也、他の誤れるを咎むるに於て自ら之が矯正又は改善策を講ずるを以て責任ある者の事と做す、下略(一窮民投)』(萬朝報、八月十三日)

『十一日夕方、大阪市外今宮町に米屋襲撃勃發し、米屋大恐慌、買占めたる米を倉庫會社に依賴し、また親戚に預けて閉店したる爲、人々は買ふに米なく困難を來し此儘に經過せば由々しき大事なりと府當局者は善後策協議』

『和歌山縣新宮町に於て八月十七日夜九時頃約千餘名の集團店舖を襲ひ强談門戸の破壞等暴行を爲したり』

『細谷豐橋市長宅門前に爆彈埋沒しありしも大事起らずして無事なりき』(時事新報、八月十九日)

『十八日午後八時、山口縣大島郡安下庄村に米一揆蜂起し數千の群衆米商質商金貸業等を襲撃したる後、前下關市長靑木芳雄氏の令兄春雄氏方を襲ひて放火し附近二十數戸を烏有に歸せしめ勢ひ益々猛烈となれるより山口なる歩兵第四十二聯隊出動し十九日午前七時漸く鎭靜したるが死者十二名重傷者七名輕傷者無數なるが警察署長は此騷ぎの爲行衞不明となりたり』(東京朝日新聞、八月二十日)

『記者樣、私の近所に或る勤人が住んで居ますが、家には三人の小供が居ます。過日その三人の子供が母に叱られて家を出て往來で泣いて居ますので、近所の者が何故泣いて居るかと聞きますと、此家では一食の御飯一椀と定めてある故腹がすく、此

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日は母も外出して留守であつた爲、三人の子供は夕飯の御飯まで食べて了つたのです。そこでいざ夕飯と云ふ時にお鉢を見ると中は空ですから子供に聞きますと、今年十二になる兄の子が食べやうと云つたから食ふたとのことに、母は立腹して家に置かぬから何處へでも出て行けと叱られたとの次第です。憐れな話ではありませんか、此樣な家は他にも隨分多くあらうと思ひます。(神田老人投)』(都新聞、八月二十一日)

『國家が膨脹して行く時には相應の通貨の必要は誰しも之を認むる。併し國家が膨脹して行つて新に得らるる富が一方に偏して集まると得る人は尠く、世間一般の人間は物價騰貴で生活の壓迫を被る。現在が即ち其時である。之は今の内に多少とも調節して行かないと社會組織の基礎を危くして來る。恐るべし。恐るべし。』(都新聞、八月十二日)

『(松室法相談)今回騷擾の動機は諸物價特に米價の暴騰に依り營生困難に陷りたるに基因する事明にして洵に憂慮に堪へず當局は極力其調節に努めつつあるを以て一般民衆に於ては團體的行動に出づるが如きは全然之を避けんことを希望して止まず、而して徒らに騷擾暴行を事とし家屋に侵入し之を破壞し他人を傷害し掠奪を爲し又は放火を爲すが如きは最早救濟を求むる爲の行動に非ずして、社會の秩序を紊亂すること甚だしく寧ろ良民を害し窮民救濟を妨ぐるものなるを以つて此の如きは嚴重に檢擧所罰する方針なり。』(東京日日新聞、八月二十一日)

『(服部早大教授談)今回の騷擾を單に米價暴騰の爲爆發したりと念ふは大なる誤謬である。米價以外一般物價の騰貴に基く生活の壓迫甚だしきに依るものである。然れども一般物價の騰貴甚だしければとて騷擾は直ちに起るものではない。何ほ他に原因がなければ出來ぬ、其原因と云ふのは急激なる貧富の懸隔である。貧富の懸隔は何れの世、何れの處にも存在するものであるが、今や急激に起つて人心を刺戟したること夥だしい、而して此人心の刺戟は生活の壓迫を特に深りつゝありしものに不平を懐しめ、此不平が米價暴騰なる誘因に依りて破裂したのである。されば政治の局に當る者は此等の事情を洞察するの明がなくてはならぬ(中略)而かも成金者流は奢侈淫逸に耽りコレ見よがしに天下を横行した。社會問題の起る又已むを得ないではないか』(報知新聞、八月二十日)

『(司法部内の觀察)司法省に於ては騷擾事件の原因につき目下各方面より調査研究しつゝあるが今日迄の調査によれば同運動は政治的色彩を帶び居らず、又特に騷擾の主謀者と認むべき有力者なきが如く、從つて右は系統的運動に非らずして全く米價暴騰の爲生活難に陷りたる細民が一面戰時成金連の態度に對し憤慨反抗せるものなるも、殆んど全國各都市に亘り一時に騷擾を惹起したのは最も注意を要すべき社會問題にして刑事政策上より見ても輕々に看過すべからざる重大事件なれば此際根本的刑事政策を講究する筈なりと』(東京日日新聞、八月二十一日)

『(ヘラルド新聞の動評)日本國民に取りて米は實に主要食物以上の必要品にて今回之に關し騷擾誘發せしめたるは一般人民の間に米價暴騰は一に暴利を占める米商の所業なりとする信念の傳播せしに基因し而も米價の暴騰約十割に達し幾萬の勤勉なる勞働者をして多大の艱苦を嘗めしむるに至れり、今日日本に必

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

要なるは該貴重穀物の輸出を管理すると同時に迅速に其輸入を計る我が食料監督官フーヴアー氏の如き人物なり、從來日本米商は内地に産したる上等米を多く海外に輸出し南支那より劣等米を輸入して國内の消費に充つるを慣習とせり。』（東京朝日新聞、八月二十一日）

『（ウオールド新聞―米動評）日本全地に起れる由々しき米騷亂に關する新聞電報は當地方人士を驚倒し居れり、當地に於て日本の政治に通ずる者は今回の騷亂を評して是れ單純なる饑饉に依る現象に非ず、寧ろ眞因は更に奥深き邊にあらんと思惟するもの多く、或は獨逸の煽動か左もなくんば戰爭に對する國内の不平が騷亂の背後に潜むに非ずやと揣摩するものなり。』（東京朝日新聞、八月二十一日）

『東京米穀取引所は十九日立會を開始し、再び米價を一圓五十錢方吊上げたり、彼等奸商輩は更に米穀收用令を愚弄せんとする也。其所爲飽くまで憎むべく、有害無益なる取引所の立會は當局者速かに之を禁止するに若かず、騷動は靜まるも、騷動の原因は依然として除かれず。』（萬朝報、八月二十日）

『憲政會、政友會、國民黨の輩今尙米價騰貴を政爭の具に供せんとし、政府をして米價制限を躊躇せしめつつあるは何事ぞや、政黨何者ぞ、彼等は國民生活の脅威を意とせざるか、彼等は今尙ほ奸商輩と結托せんとするか、日本帝國内に於てボルシエヴイキの眞理を了解せしめんとするか、彼等は奸商輩の有害なるが如く、國家に有害なり、國民は奸商輩を忘る可からざると共に彼等の態度を忘るべからず』（萬朝報、八月十三日）

◇

新聞記事は、まだまだ有るが此の位で止めて置かう。これで當時の社會狀態も、暴動の原因も、大衆の動きも、政黨者流の態度も解つたであらうから、次に少し東京のことを書いて見やう。

東京は、十二、三日の頃から漸く險惡の雲行きとなつて昨日は淺草で米屋が燒打ちをされたとか、今日は深川で襲はれたとか噂され初めたが、十三日の晩に、大衆が日比谷公園へ集まり、其の群衆が銀座街頭へと押し出して、商店のウヰンドー硝子を破壞して歩いたのに騷動が初まる。

當時、社會主義者としての岩佐作太郎氏に氏の動靜に就ての話しを聞くと、氏は米暴動がまだ東京で初まらぬ先きから既に檢束されて了つて、警察から警察へと轉々として引き廻されて居つたし、殊に其の當時社會主義者といふ色の着いた者は、殆ど全部が檢束されて了つたので、同志の動靜さへ、誰れが何處にどうして居るのやら、それさへ知ることが出來なかつたとのことである。

その頃、或る一說に依ると社會主義者の活動が可成り全國的に行はれたと云ふことがある、また社會主義者の一團が甲州方面へ乘り込んで行つたなどと、噂もあつたが、それ等は單に噂に過ぎなかつたやうでもあるから、震災當時に於ける、所謂、流言蜚語の類ではなかつたろうか。

又、信友會水沼辰氏に訊くと、氏は當時、博文館印刷所に働いてゐたが其の頃は賃銀値上げの運動が至る處に起り

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ストライキは隨所に勃發したので、博文館でも賃銀三割増しの要求を出したところ、見事に拒絶をされたのでストライキをやつたが、これ又、失敗に歸した。そこで大部分の職工は無條件で復職をしたが、それを肯じなかつた自分等の如き歐文工の全部と和文工の一部とは他へ就職口を探すこととなつた。

で、私等は爭議に失敗したが、この失敗を大いに利用するつもりで『孤立吾等を殺す』と題したビラを作つて各印刷工場其他へ配布した。時恰も米暴動の最中であつた爲めビラは警察官に押收されるし、ビラの配布を引受けた吾々信友會員は全部檢束されて了つた。殊にストライキに加はつたものなどは、米暴動の全く靜まる迄拘禁され、信友會を脫會しなければ歸さぬと脅迫されたものも少くなかつたそんな譯で脫會者も續出したが、甚だしいのになると警察署から脫會屆を送つて來た者などもあつて、信友會は散々に切り崩された形となつた。官憲が何故、信友會を壓迫したかと云ふと、會員の一部の人々が密に社會主義者と通じて、社會主義の宣傳に努めて居るからだと云ふことであつたが、こんな具合で信友會員は米暴動中檢束されて居たものが多かつたとのことである。

山本懸藏君の語るところを聞くと、山本君は十三日の夜、自分の住んで居た月島から一隊の群衆を引具して、大八車を引き廻しながら月島一帶の米屋を襲擊して歩いたそうである。そして自分は一隊の先頭に立つて、高聲を振り翳して日比谷公園へ押しかけて、舊音樂堂へ飛び上つて演說をしだが、其時自分の周圍で拍手しながら聞いて居た聽集が全部、刑事であつたことに氣が附いたので、そこを逃げ出して築山の上へ登り、先づ安心と寢ころんだところを捕へて了つたとのことであるが、是れが爲めに市ケ谷の未決として繫がれ、出て來てからは直ぐ勞働運動へ身を投じた。山本君はこれが爲めに四ケ月の刑に處せられたが、これが君の受刑の初めである。

（筆者曰く、三氏の談話は何れも大正八、九年の頃筆者が聞いた、所謂、聞き覺へであるから問違つた點があれば後日訂正する。）

◇

三氏、の談話は或る處へ落ち合つた同志が、米暴動の當時を回顧すると云ふシーンであるが、最後に、私の目擊したことを少し書いてこの稿を終るとしやう。

十三日は、東京も險惡となつて來たので、私の働いてゐた工場では職工の全部へ強制夜業を課して、足止めをして了つた。

で、私も止むなく殘業組となつて、午後九時迄禁足された譯だが、工場の中では市中の噂で仕事など、手にも足にもつくどころの話しではなかつた。

十四日の朝、工場長が一同を集めて『昨夜日比谷公園に米騷動があつたが、何百人かの檢束者中、幸ひにも本工場の者は一人もなかつた。沖電氣や日本電氣には多少あつた

やうである。諸君は今日は給料日であるから一般に早退けであるが、どうか危險な處へは寄り付かないやうに、本工場からは一人も檢束されるやうなものを出さぬやうに―と云ふ意味の一場の訓辭を米が高くて喰へないと云ふ事もご存じない顔で平然とやられた。

私には、この訓辭だけでは足りなかつたものであるのか特に組長からも極めて親切に注意を受けて、漸く午後六時頃、工場から外へ出ることが出來たので、、五六人と語り合つて、一直線に日比谷公園へと飛んで行つた。

ところが日比谷公園は、この日は既に軍隊が出動して市中警備といふことになつて居たので、それ等の警備軍の本部と云つた形で公園の中には、三脚に組んだ小銃で一パイになつて居るし、公園の周圍は白服の警官で八重にも垣が出來て居て、寄り付くことが出來なかつたから、仕方なく數寄屋橋の方へ行つて見た。

日比谷公園を目標に行つた大衆は、期せずして數寄屋橋公園へと方向轉換をしてやつて來たので、そこでは警官と群集とが揉み合つて居る最中であつた。

そして、そろ〱夜るの幕の落とされる頃となつて秀英舍寄りの入口から群衆が押し込んで行けば、警官隊は數寄屋橋寄りの入口から逃げ出す。警官隊が襲擊して來れば群集は秀英舍寄りから逃げ出すと云ふ具合に、群衆と警官隊との追擊競爭が、暫らく續いて居つたが、そのうちに勇敢な青年が飛び出して公園の石臺の上から演説を初めた。

大阪でも十一日の市中燒打ちの口火をつけたものは、天王寺公園の市民大會へ入場することが出來なかつた聽衆の中から一人の青年が飛び出して『暴利を占めた米商を屠れ』と叫んだのに初まつたそうであるが、この夜、數寄屋橋公園に立つた紅顔の美青年は大衆の指導權を完全に握つて、戰場に於ける勇者の態度よろしく『惡商務行を襲擊せよ！』群衆に向つて叱咤すると共に、嚴然として命令を下した。

群衆は一時に大河の堤の切れたが如く、ドードドツと流れ出て尾張町の方面を指して進み出た。

この時、夜るは既に暗くなつてゐたから、道路の兩側に青白く光つてゐた瓦斯燈へ登つて行つて、群集の歩む先きを一つ一つ消して行つた者があつたが、それは、誰が敎へたでもない小供の仕事だつた。

私はそれを見て、こんな事も考へた小供は本能的に騷擾性とか鬪爭性とか雷同性とか云ふものがあるのではなからうか、そして小供も使ひ樣によつては○○の時にも相等役割を演じるものだと。

◇

銀座街頭は現代文明を象徵した光の世界だ。それなのに今夜は夜店もなく、ウキンドーは前夜からの襲擊に恐れを抱いて丸太と板圍ひとに覆はれ、暗黑の街と變つて居つた。群衆が三原橋が架橋工事中であつたので左折して、服部時計店の前を曲つた時には服部の前に、武裝も嚴しい兵士が七八人、銃劍を立てて警備の任に當つて居つたが、怒濤の

如く流れて行く群衆に對しては、何にもしなつた。電車は群衆の爲めにポールを脱づされて居る。燒いて了へ、と怒號するものもあつたが、燒かれなかつた。

それから、豐玉河岸を通つて、歌舞伎座の前へ出たが、そこから二手に別れて、一手は築地橋の方から、一手は歌舞伎座の前から木挽町へ向つて、兩方から攻めると云ふ策戰で愈々農商務省の襲擊となつた。

群衆は、此處迄來る前に豐玉河岸で、四五人一隊となつた警官隊と會つたが、警官は手も合せんばかりに小さくなつて群衆の爲すが儘になつて居つた。

當時、警察官は全國で五万人と稱して居た、その中、東京七千人と云ふのであるが、如何に警官と雖も、大衆の力の前には勝てぬものらしい。

築地橋の上では、首に手拭のやうな目標を捲いて居る背年が四五人で、旺に群衆に合圖をして居つたが、私は、それが噂に聞いた社會主義者の人々ではなかつたらうかと、今でも、そんな氣がしてならない。

私は築地橋から引き返へして、歌舞伎座前の一隊に加はり先頭に立つて、物凄い鯨波に乘つて農商務省へ近づいて行くと、警官隊に先手を打たれて、もう目の前に眞白に映つたと思ふ間もなく、横町から一團の警官隊に不意に襲はれて了つた。

そこで警官と群衆とは、大衝突を開始したので、警官は拔劍をして切り込んで來た。

前にも敵、後にも敵、チャンチャンバラバラの大劍劇となつたが、斯うなると却々、生易しく逃げられるものではないので、私は無念流？捨身のかまへでと云ひたい處だが實は恐ろしかつたので、側にあつた箱車の中へ早くも飛び込んで息を殺して、恐る恐る見て居ると大底皆んな持つて行かれたと云つていい程、檢束されて了つた。でも幸に死傷者はなかつたやうだ。

そこを逃げ出してからは、尾張町から上野行の電車へ飛び乘つて、河岸を變へて行かうとしたが、電車は本石町から先きへは行かなくなつた。車掌の說明に依ると神田方面から上野公園を中心として、下谷、淺草の方面に至る迄、群衆の殺到と騷擾の激烈との爲めに危險で行かれぬと云ふことであつた。

◇

こんな狀態で、十五日十六日と續いた東京の米騷動も、どうやら靜まつたが、米價は益々騰貴して行つた。その後八月二十七日に至つて、漸く政府は「九月五日以後一ケ月間米價を最高一石三十三圓と制限す」と發布した。

そして應急策として、米の廉賣を決行して一圓に三升で廉賣券を市民に賣ることになつたが、それも一日一人に一升を限ると云ふ譯であつたので、小供女は死物狂ひで買ひに行つたものだ。小供女の列が三丁も役場の前へ續いたと云ふ話も、その時のことである。

傳へ聞くところに依ると、有馬賴寧伯は大阪で米暴動を

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

見て、群衆の先頭に立つた男が、軍隊の銃劍の前へ立ち塞つて、どうせ生きて居たつて死んだつて同じ事だ、さあ突けと胸を擴げて動かなかつたので、それを見た殿樣はビックリしたが、その男が特殊部落の人であつたと云ふので、更に驚き、これぞ國家一大事、將來恐るべしと、其後特殊民待遇改善の同愛會を自ら、おつくり遊ばされたと云ふ話しは有名である。

私等も、殿樣等に負けぬ氣でもなかつたらうが、自分等の必要上、自分等同志で、天土松太郎君、庄司某、鈴木彥一郎君等と謀り、勞働和親會の組織に着手したのも、この米暴動直後のことである。

米暴動と云ふ民衆運動には、組織も、統一も、指導者も宣傳書も、表面的には全く無かつたやうだ。それでは一體誰れがあれだけ全國的に命令して、大衆を動かしたのであらうか。まさかソレルの神話說でもなからうではないか。

土地と自由

基金募集に應ぜよ

拾萬の大衆を擁して全國農民組合は結成された！

機關紙「土地と自由」は、今や、我國無產農民の頭上に輝くたいまつ――指導機關だ。

三千圓募集に應ぜよ！

凡ゆる機會を捉へて金を集めよ！ 五錢でも十錢でも「土地と自由」を守れ！

大阪市北區堂島濱通り三ノ一八 全農總本部
振替口座 大阪六七七八一番
東京市芝區二本榎西町二 全國農民組合
振替東京三三〇四四番 東京出張所

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會主義運動思出話（其二）

岡野辰之介

四、一網打盡！十八人

今日の運動が大成功だつたので、何れも得々として安き眠りに就いた。誰か檢擧の魔手が來るなど、思はう。岡千代彦は都新聞の製版部に出て居た。今日の主會者田川大吉郎は實に同新聞社長であつた。彼は仕事が忙はしくて、今日は出ぬ積りで居ると、社長から『今日は人數が少いかも知れぬから、何とか遣り繰つて是非出て呉れ』との頼みであつた。そこで少し遅れて出席したのであるが、西川が『諸君！ これから市會へ行かう』と怒鳴ると、彼は之れを承けて『市會、市會』と連呼しながら、吉川君と太鼓を山上から運び出して、之れを叩きながら進んだのである。

彼は某新聞に講談を連載する約束したので、其晩歸つて其の第一回を書きポストに入れて寝ると、ドン〳〵戸を叩くものがある。起き見れば顔馴染の高等だ。『何んだ』『チョット警視廳まで行つて下さい』テナ問答があつて、仕度をして居ると、二人の他の刑事が人力車を用意して來た。某新聞こそ好い面の皮で、續き物の讀切りを載せさせられた。

警視廳へ來て見ると、西川も來て居る。樋口も齋藤も、深尾も來て居る。場違ひの松永も來て居る。(半田、大杉、竹内の三人は二十日に拘引せられたのであつた。)此の外に附和隨行したものが、無慮十名檢擧せられて居たのであるが、之れは顔馴染がなかつた爲めに、何の爲めに來て居るのか分らなかつた。そして何れも後で免訴や執行猶豫になつたが、十人の金箔附と松永とは未決監に在ること百日近くで、相前後して保釋となつた。

五、此の事件を誘致した問題

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

今日では東京の電車は市營であるが、當時は會社の經營であつた。然も數會社が分立して居つた。東京市街鐵道（これは馬車鐵道が電車に成つたもの）、東京電車鐵道、東京電氣鐵道の三で、其の乘車賃三錢であつたのを一齊に五錢に値上げしやうとしたのである。是に於いて日本社會黨は猛然として起つた。そして演說會を各所に開き、宣傳ビラを全市に撒布して、火花を散らして戰つたのである。實に日本社會黨が黨として實際運動に活躍したのは、此の時を以て初めとし又終りとする。

夫れは明治三十九年三月であつた。其の第一聲を擧げたのは、同月八日其の兼房町に在つた玉扇亭の演說會で、山口、岡、齋藤、堺、西川、加藤、木下（尙江）の七人が、猛烈に會社と市會との攻擊をやつた。超へて九日には神田の青年會に演說會を開いた。辯士は田川、堺、山路、木下、加藤の五人であつた。十日は三崎町の吉田屋で、森近、山口、齋藤、竹內、深尾、西川、片山等が演說會を開いた。翌十一日には午後一時から日比谷公園の芝山で、電車賃値上げ反對の市民大會を開いた。會主は山路彌吉で左の如き二ツの決議をした。

第一決議文

吾々東京市民は三電車會社の値上げ計畫を以つて不正横私の甚だしきものと認む。內務大臣は絕對に之を阻遏し東京市の公益を確定にせんことを望む。

第二決議文

吾々東京市民は來る十五日午後一時を期し、第二市民大會を當公園に開かんことを協約す。

木下尙江、細野次郎、田川大吉郎、西川光次郎、堺利彦の五人を委員に擧げ、此の決議文を內務大臣に致さしめる事とし委員は內務大臣を訪ねしが、不在の爲め之れを秘書官に托して歸つた。所が集つた群衆は、之れだけで散つてしまふのは、如何にも物足らなかつた。イヤ幹部連も雲龍點睛を缺くと思つた。そこで『市會へ市會へ』となつたのである。山口。深尾大杉、樋口の四人が大旆に黑く『値上げ反對』と書いたのを押し立て、吉川と岡とで太鼓を舁ぎ、岡は後に成つて、

ドヽン、ドヽン

山鹿流陣太鼓、義士打入りの當夜を偲ばせるほど、撥の捌きも冴えて見えた。彼れ後年八木節に趣味を持ち、其の太鼓は實に手に入つたものであるが、多分此の時太鼓に趣味を持つたに相違ない。（註、此の太鼓たるや、平民社で人寄せ、行進の樂隊用、何かの合圖用として備へ附したもので、事ある毎に舁ぎ出したのである。）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

櫻門、（日比谷公園正門）を出でゝ、行列は帝國ホテルの前（今の帝國ホテルの横）にあつた市街鐵道會社に殺到した。

悪みても餘りある資本家の横暴！

此の旗の字が眼に入らぬか！

値上げに反對するは市民の權利だ！

資本家滅亡！　東京市民萬歳！

値上げを許せば當局は資本家を重んじ、東京市民を輕んずるものである！

と口々に絶叫す。會社は堅く門を鎖して、門を社員總出で押へて居たらしい。

六、新聞社への示威運動

群集はマダ解散しやうとせぬ。幹部も止めやうとせぬ。群集心理とやいふ奴だ。今度は新聞社に向つて示威運動を開始した。

資本家に買收せられたる新聞社を見よ！

富豪の奴隷よ、資本家の犬よ！

賃銀値上げに反對せぬ新聞は冒瀆せぬ！

東京市民を無視するか！

多數の力を見よ！

聲を枯らして絶叫しながら、山下門を出て人民新聞社の前でワーと喊聲を上げた。電車は止まる。夫れから日々新聞、時事新聞、毎日新聞、萬朝報、讀賣新聞と、順次に巡つて銀座へ出た。(當時讀賣は京橋の角、銀座一丁目にあつた。

赤色の大旗數旒は春風に靡き、

ドヾン、ドヾンと太鼓の音は川面を渡つて、東京市民に覺めよ、覺めよと響く。

こうした一隊がガヤ／＼騷ぎながら銀座に練り込んで來だのであるから、何事かと人々は驚いて出て見る。道行く人は立ち止まる。此所も電車が立往生する騷ぎであつた。之れから銀座街上を練り歩かうとしたのであるが、生憎雨が降つて來たので、日露戰後に作られた凱旋門の下で餘儀なく解散した。

此の夜、淺草쬲前の植木屋で演説會を開き、山口、岡、岩本、森近、堺、西川等の演説があつた。例に依つて熱烈火の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

やうな雄辯を揮つたことはいふまでもない。

七、兩社會黨の離反

九月十五日に第二市民大會を開くことを決議したことは前に書いた通りである。十一日の市民大會の主會者山路愛山は實に國家社會黨といふのを主宰して居た。そんなものがあつたかと驚く人があるかも知れぬが、其の設立年月は今分らぬが、其の黨首だつたのである。勿論、黨員は餘り無かつた。或は一人が黨首であり、黨胴であり、黨尾であつたかも知れない。無力此上ないのであつた。そこで日本社會黨と提携して此の電車賃値上げ反對の市民大會を開いたのである。所が愈々當日となると『日本社會黨は大きな旗を持ち出す、櫓大鼓のやうなものを叩く、そんな手合と事を共にするは甚だ面白くないから、十五日の市民大會は之れを中止することにしたい』と國家社會黨がいひ出した。そして改めて十八日に上野公園から日比谷まで示威運動をすることを主張したのであるが、十五日の市民大會は既に市民と協約してしまつたのであるから、是非之れを決行するといふのが日本社會黨の主張であつた。そして兩者は手を切つた。たつた一人の國家社會黨と手を切つたからとて、日本社會黨には大した影響はなかつたのである。

筆者申す、前號に山路君が主會者かのやうに書いたのは誤りで、夫れは本號に書いた十一日の會の主會者なのであつた。であるから前章に書いたのは本號のとゴッチャに成つた譯で申譯がない。之れは上梓する時には書き直します。

こんな譯で國家社會黨は手を引いたから、十五日の會は堺が主會者となる譯であつたが、同日堺は徽恙の爲めに出席が出來なかつた。そこで田川加藤の二人が主會者となり、そして兇徒聚嘯といふ大それたものが出來上つてしまつたのである。十八日にも上野からの示威運動はやることになつて居たが、之れは十五日の大會で多くの戰士を奪はれた日本社會黨は、之れを無期延期とするの止むなきに立ち至つた。

加藤(加治)と田川とは早く會場を去つたから、兇徒聚嘯に引掛らなかつた。

八、十五日の騷動は夜迄て續く

十五日の大會が遂に市會に殺到したのである。其の行列や襲撃の有様は前號に書いた。此の日も丁度十一日と同じやうに、旗を押し立て太鼓を鳴らし、口々に電車賃値上げ反對の文句を怒鳴りながら行進したことはいふまでもない。此の日の人數は其筋の調査では、或は二千五百人といひ、或は數百人といふ正確なことは分らないが、東京最初の暴動であつた

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

から、當局も市民も驚いてしまつたことは申す迄もない。日本社會黨員は市役所前から皆引揚げてしまつた。夫れで此の日の示威運動が終つたら或は兇徒聚集にはならなかつたかも知れぬ。豫審調書に依ると向田署長が騎馬で市役所に馳せつけると、日本社會黨員は「解散、解散」と連呼して、皆引揚げてしまつたとある。そして其の時には大した亂暴も働いて居なかつたのである。

所が東京市役所で解散したのは二時半頃であるのに、日比谷へ來て見ると矢張り數百の群衆が芝山に集つて居る。(註、芝山の下の芝生川テニスコートはなかつた)市役所から歸つて來たのであらう。何をするか知らんと見て居ると、一人の書生風の男が竹竿に赤色の布片を結び附けたのを芝山の上に樹てゝ、電車賃値上げ反對の演説を始めた。そして一通り論じてしまふと、「諸君之れから會社に押し行き大いに談判しやう」と、件の赤布竿をかついで先頭に立つた。丁度午後三時過ぎであつた。之れに三四百名が續いた。そして櫻田門を出て、、電車に邪魔をするものもあれば、之に石を投げたものある。そして東京市街鐵道會社の前に到つて、礫を投げたり、窓硝子を破壞したりした。中には玄關に至り、扉を押し開かんとする者もあつたが、流石の今樊噲も其の扉はどうにも成らなかつた。兎角するうち騎馬巡査の襲撃に會ふて、彼等は三度日比谷公園芝山に引揚げたのである。

この手合が夫れから復たも櫻門から打つて出て、或は電車の從業員を毆打し、或は電車に投石し窓ガラスを破壞したのである。電車燒打ち事件といふのは、これから起つた名稱であつた。

會社の襲撃は之れで濟んだ譯ではない。午後七時頃であつた。まだ一部の群衆は日比谷公園正門附近に集合して居た。そこへ巡査が來て之れを退散させやうとした。群衆は散らうとした。

『諸君退く勿れ、大にやるべし、大にやるべし』と太い力ある聲が響いた。松永敏太郎である。(筆者曰く前號に松永敏太郎を出したのは誤りです)それから一場の演説をやつて、『諸君!これより任意に活動すべし』とやると群衆がワツと來た。今度は『諸君右に行くべし』と手を擧げて右を指し、自ら先頭に立ちて會社の前に到り、再び『大にやるべし』と連發したのである。そして瓦礫の雨の御見舞があつた。會社は今日之れで三度襲撃を受けたのである。如何に厚顏な資本家でも大概心に懲いたらう。遂に値上げは實現せられなかつた。

九、敵味方の損害

市民が東京市會を襲撃したのは、市會開會中だと思つたからである。そして市會を脅かそうとしたのであつたが、市會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

議事堂の所在を知らぬ爲めに、散々亂暴して引上げたのは市の土木課及び市區改正課の建物であつた。其の損害は西南兩面の硝子窓十數ケ所で、一枚十錢としても、一圓四五十錢、一枚一圓としても十四五圓に過ぎない。市議芳野世經の供述に依ると電車市有の可否を議した日であつたといふから、市會議事堂に殺到したらドウであつたらう。電車の窓硝子を破壞せられたもの會社側の損害は東京市街鐵道會社の窓硝子數枚、數寄屋橋出張所の窓硝子數ケ所と、二三に過ぎなかつた。

而して日本社會黨員の刑期は左の通りであつた。

重禁錮二年	西川光次郎
同一年半	岡千代彦
同同	山口義三
同同	吉川守邦
同同	樋口傳
同同	大杉榮
同同	松永敏太郎
罰金十圓	飯田一郎
同	竹内余所次郎
同	齋藤兼次郎

（筆者曰、前號に擧げた人には兇徒聚集罪とは關係のないものがあつた）

前にも書いたやうに、何れも保釋出獄して居たのであるが、赤旗事件勃發するや、何れも保釋を取り消され、千葉監獄で服役したのである。

一〇、故人に成つた黨員

此の時兇徒聚集罪に問はれた者十人中（外に二名程のお客があつた）四名は故人になつた。之れ等の爲めに過去帳をつくつて置く。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

山口義三　山口縣下關の人、此の事件が起つた時には二十四歳であつたから、明治十六年産れで、生きて居たら四十六だ。中學は何處でやつたか知れぬが、松本君平の政治學校に學んだことは確かだ。吉川世民も同窓同級ではあるまいが――だつた。吉川は初め醫學に志し濟生學舍に學び、中頃志を變じたものらしい。山口は週刊平民社に入つて社會主義叢書平民文庫等の行商をし、兼ねて其の通信を週刊平民に載せ、大に文才を發揮したものである。彼れが革命婦人を著はしたのは、明治三十七年であるから二十二であらう。爾來『火鞭』『光』『日刊平民新聞』と社會主義の新聞雑誌に、絢爛にして激逸火の如き文章を載せて居たのである。當時孤劍式惡罵といふが流行つた。例へば醜惡愚劣奸惡詭詐諂劣野卑と、まくし立てることであつた。又牧師を罵つて髯く女郎、宗教を去勢法など、其の奇才應接に遑もないほどで、人と爲り悁介にして不羈、富豪を罵り、貴族を痛撃し、宗教々育を皮肉ること獨歩の觀があつた。そして談論風發し、咳唾眞に玉を爲した。

兇徒聚衆を勤め上げて歸ると、大に感ずる所あつて一時同志と往復を斷ち、サンデーといふ週間雑誌に這入り、夫れから大阪新聞に轉じて結婚し再び東上して毎夕新聞記者となり、短評を擔當して居る内に病を得て復た起つことが出來なくなつたのである。彼の一生には傳ふべき逸事も尠くない。彼の赤旗事件は山口の兇徒聚衆を勤め上げた出獄歡迎會が終つてからの出來事であつた。

或る時堺利彦から、はがきが、同志の裕ならざる面々一同に屆いた。其の文句は「某篤志家から米を贈られて居る。早速皆んな袋を持つて取りに來い」といふことであつた。行つて見ると誰れも彼れも大きな米包の風呂敷を左右に置いて談論をやつて居る。

「ヤア遲かつたナ。早く風呂敷を擴げろ」と、米俵から五升（だつたと思ふ）貰つて、マア暫らくは米の心配無用と安心したことがある。サア其の寄贈者が分らない。何んでも大逆事件の直後だつたかナ。何處かの富豪かナ。それでなければそれとも桂太郎（當時の内閣總理大臣）其の手下だらうテナ取沙汰であつた。

幾くんぞ知らん、夫れが山口義三の贈つたものであつた。

結婚菓子といふのを西洋では未婚の男女に贈つて、之れにあやからせるといふことを聞いて居る。丁度山口が大阪で結婚した時、結婚菓子を東京まで送つて寄越し、大に同志中の未婚の男女をウナらせたこともある。何んでも天下茶屋の何とかいふ料理屋で式を擧げ、自動車で新郎新婦が歸つたとかいふ噂は、當時如何に大なるセンセーションを若い同志に起こさせたか？　こんな事を書き立てたら數限りもない。彼れは青年時代痩せて、見る影もなかつたものだが、晩年には非

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

常に肉附きの好い美男子に成つた。所が夫れが病氣のセイであつたのだ。彼は腎臓病で夫人の故山である伊豫の宇和島で死んだ。大正十年だつたと思ふ。享年三十九。

彼は孤劍と號し、前に擧げた革命婦人や、新東京案内や、階級鬪爭史論等の著がある。併し何んといつても彼れの面目を躍如たらしめるのは、革命婦人である。

[illegible]鹿銀次郎 豫審調書には錺職となる。チョット彼れの職業は類がないので、裁判所でも困つたことと思ふ。彼れの職業は筆を作る時、毛を揃へるために用ゆる櫛、眞鍮製の穗先けづりを作るのであつた。下に大きな丸木の臺を置き、其の上に眞鍮板を載せ、之れを金槌でドシン／＼と打ち延ばし、夫れから鑢で歯を立てるのである。半分に歯をつくり、半分は持つやうにする。一寸モボ、モガ用の櫛に似て居る。夫れも萬年筆全盛の最近には廢り賣れなくなつて、震災前には横濱にをつた加治時次郎（元加藤）の勞働者長屋の世話をして居たのである、其の長屋が百數十戸一戸殘らず震災で倒壞してしまつたので、東京へ歸つて來たのである。所が横濱に居る時輕い中風に罹つて居た爲め、モウ働くことも出來ず山崎今朝彌、岡千代彦、吉川守邦など、古い同志の世話に成つて死んだ。

彼は江戸ッ子で、若い時砲兵に引張られ、夫れから憲兵に成つたこともあるといふ。恩給まで勤めなかつたと見えて、そんなものはなかつた。長く千駄ケ谷の八幡前に住み、一日の仕事を終ると一合の酒に陶然と醉ひ、夫人は三味、彼れは尺八、合奏しては樂しんだものだ。子供はなかつた。彼れが社會主義に成つた動機は知らぬが、夫婦で週刊平民社の輜重隊となつた。夫れから横濱へ行く迄ドンナ會へでも彼が顔を出さぬことはなかつた。子供や孫のやうな連中と一所に成つて、氣焔を吐いて居ることが樂しみだつたのだらう。彼は死ぬ迄日蓮を信じて居たが、宗教的社會主義へは行かなかつた。併し軀堂々、鬚髯亦立派で日本社會黨の一名物であつたが、今や亡し。享年六十七。

大杉榮 彼は茲に小傳を書かんでも、其の醜名千載に殘るに相違ない。

樋口傳 彼は兇徒聚衆で未決に入り、保釋で出て來ると、同志の或る者に『君は出て來たつて仕方がない。西川君でも出て來たんならといはれたので發憤し、大に金をもうけんと書畫骨董雜誌を出し、書畫骨董の賣買を始め、一時は景氣がよかつたが、其の末路は實に慘憺たるものであつた。大正の初め四十位で死んだ。（以下六十九頁へ）

組合勞働者と選擧戰

皆川利吉

昨年以來の資本家階級の意識的反動的攻勢に依る勞働階級に對する嵐の樣な彈壓とあくことを知らない搾取の魔手は、過去十數年に渉つて人々が血にまみれた尊い犧牲によつて戰ひ取つた多くの勞働條件を容捨もなくふみにじつて、野田に於いても足尾に於いてもまた近くは大森の日本特殊鋼會社に於いても資本家とその手先どもの聯合軍は、狂氣の樣な强權力をふりかざして勞働者の切實な要求を阻止し、部分的にはその勞働條件を略奪することに成功した。

その他各地に於いても八時間勞働制度はこの反動資本家どもに奪ひかへされやふとして居る、勞働賃金はおびたゞしく底下し、不當解雇、賃金不拂、臨時雇傭制度等々〱勞働者の生活は根底からおびやかされ、なほその上に失業者の大衆は、日ごとの生活を飢餓にさらされて居る。

かかる資本家と權力者の聯合軍の重圍のうちに、その組織をしば〱破壞され乍らなほ勞働者階級の利害のために、不眠不休の鬪爭をつゞけつゝある勞働組合はいまや新たなる階級的鬪爭の戰線へ吾々の陣營を進めなければならぬ。例へば「あらゆる階級鬪爭は政治鬪爭である」と言ふ主張を意識すると否とにかゝはらず。

今次の京濱府縣會の選擧戰はこれを勞働者の立場から見るときかゝる意味に於いて極めて重要な戰ひであつた。

ことに健康保險法、暴力行爲法、調停法、治安維持法、等々〱吾等の上に加重する彈壓に嚴重な反議を送るためにも…………

だが人々の慘膽たる努力にもかゝわらず、無產黨の候補者は文字通りに慘敗した、それでは吾々は何故負けたのか？

今回の無產黨候補者の大部分は多年組合運動の戰線に戰ひ來つた鬪士であつてその點においては申分がなかつたのだけれども、選擧に對して全く吾々の不熟練なことがきは立つて目だつたなほ吾々はこの原因二三を擧げることが出來る。

（一）選擧に對する既成政黨の優れた組織（靑年團、消防組、衞生組合、在鄉軍人會、町內會、同業組合及びそれを貫く黨の勢力に對立する無產黨の組織は黨支部の勞働組合及び自覺せる小數の町內有志等であつて、不眠不休の努力にもかゝはらずなほ既成政黨よりはる

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

かに見劣りがした。

（二）且つて國會の選擧後に於いて、無產政黨の對立は極めて深刻に論議せられ、それ故にこそ階級的戰線の統一が叫ばれつゝある折からこの度の選擧戰に於いても亦遺憾ながら對立は鋭くくりかへされ、勞働階級の切なる期待は裏切られた。ことに社民黨の演說會にしば／＼對立黨の攻擊が加へられたことは、關西方面に於ける同黨の狀況と比較して極めて遺憾なことであり、この對立は又今春の國會戰のそれの如く、全民衆のために千秋の恨を殘したことは言ふまでもない。

（三）深刻な不景氣と共に一般勞働者の生活は絕へず動搖して居る、從つて居住二年の制限を有する現行規定の下には、勞働階級の投票權は今春の國會戰の當時よりはるかに減小した。

（四）共產黨事件の影響と小市民の動搖

かゝる原因に基く選擧戰の經過は先きに述べた如く候補者の大多數が組合運動の鬪士であつた丈にそれだけ大きかつた。なほ以上の理由のうちにも無產政黨の對立はとくに未組織大衆を甚だしく失望せしめ、棄權もしくはむざ／＼既成政黨を支持するべく餘儀なからした。

そしてこの事は全無產政黨の合同、戰線の統一と言ふ重大な問題を吾々の前に再び展開して居るのである。

だが吾々は一方に無產政黨唯一の鬪爭機關として言論戰を充分に徹底せしめ得たことは、この選擧戰後に於いてたとへば羽田の如き半漁村にをいてさへ比較的容易に勞働組合を組織し得たことはいかに無產階級の言論が徹底し得たかを立證するものである。

いま南葛の候補者、宇野信次郎氏の演說狀況を見れば

演說會數	三十八回
聽集總數	九千三百八十六人
一回平均	二百四十七人

の大衆を動員して、ひそかに既成政黨を脅やかしたのは兎も角も痛快である。

吾々はこの選擧戰を通じて多くの問題を眞實に味ふことを痛切に經驗した。

選擧の戰術の問題、未組織大衆を組織の問題、戰線統一の問題其他に於いて、もとより吾々は無產階級の解放の日を永遠の彼方に待ち受ける如き選擧戰のみが全目的ではないにせよ、いま現になやめる者の利害を代表する勞働階級の抗議と抗爭とは、この現實に即せる鬪爭を基礎として、ひとへに支配階級の强烈なる權力に向つて戰ふべき勢力の結成を要望して止まないのだ。從つて次に來るべき選擧戰、町村會の選擧戰には、また吾々の要求を徹底せしむるために必勝を期さなければならぬ。それは漸次にあらゆる機會に於いて勞働階級の解放のために下方よりの勢力を伸長することを意味する。かくして勞働階級の新たなる陣營を確立しなければならぬ。

全土戰報

治安維持法に對する吾等の聲明書

私達の所屬する日本勞農黨關西事務局は左の如き聲明書を發して、改惡された治安維持法を粉砕することゝなつた。口にのみ如何に八釜しく反對抗議したとて、それが實質的な結果を生まざる限り百の抗議も無用である。吾等はブルヂョアジイの斷行した反動政策を同じブルヂョアジイの間から捲き起された反對的潮流を有利に利用展開して一氣に治安維持法を來議會において不承諾ならしめ、この問題の否決と共に當然起るところの田中內閣打倒の收獲をも共に全民衆の手に收めなければならない。

聲明書

我等が數旬の間激烈なる反對運動を續行し來れる治安維持法改正案は、全民衆の期待を裏切り、政府內部の强硬なる反對論を押し切つて、緊急勅令として公布せらるゝに至つた。

大阪に於ては治安維持法改正反對同盟を組織し、また遠くは福地山、堺市に出でゝ改惡法成立の最後の瞬間まで反對を絕叫してやまなかつた。然るに不幸今日この改惡法は全國民不安の真只中に於て公布せられ、今や民衆のブルヂョア政治に對する不信は益々擴大せんとしてゐる。

我等は來るべき五十六議會の不承諾を要求すべく、今後更に反政府民衆勢力を動員し、あく迄該法の撤廢を要求し、初志の貫徹を期するものである。

右聲明す。

七月一日　日本勞農黨關西事務局

治安維持法を粉砕せよ。
田中反動內閣を葬れ！
樞密院を廢止しろ！

（大阪　田中良一）

市電々車賃の値上に反對して日勞黨神戸支部蹶起

日本勞農黨神戸支部に於ては、六月二十三日左の如き聲明書を發表して神戸市電車賃値上反對運動を起すことを決議した。

昭和三年度事業編成に當り、我等無產市民の反對を踏み躙つて電氣局經濟より壹百萬圓の剰餘金を市費に繰り入れ、以てブルヂョア市民の負擔を輕減し、その走狗たる正體を暴露したる市理事者とブルヂョア市會議員は、今亦廃辞たる市民の反對の叫びを蹴散らして電車賃一錢値上の陰謀を凝議して居る、

我日勞黨神戸支部は、かゝる情勢の下に全神戸無產市民の意志を代表して市電第三期線敷設並にこれに伴ふ電車賃値上に對する態度を明かにし、以て

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

進め

市理事者とブルヂョア市會議員を糾彈し、その暴虐なる行爲を阻止せんとするものである。

一、市電第三期線敷設に對する我等の態度

予定の如く敷設することに賛成。

二、其の費用の捻出方法に對する我等の態度。

工事の豫定に從つて順次起債する事に賛成。

三、起債の元利金償還財源に對する我等の態度。

電車賃の値上を行ひ、その增收を財源とする事に絶對に反對し、財産稅、庭園稅、金融稅、所得稅等の富豪稅を創設若くは增稅して市稅歳入の增收を計り、及び第三期線沿道の地主、家主等の受益者より高額の負擔金を徴收して、之を財源にする事を强調要求す。

そも〳〵市電は無產市民にとつて唯一の交通機關である。しかも經濟不況深刻を極め、大多數の市民が生活苦に呻吟せる今日、無產市民の負擔たる電車賃の値上を行はんとするが如きは我等の斷じて許さざる處である。

全神戸の無產市民諸君！

ブルヂョア走狗どもの陰謀を叩き潰せ！

市會議員を監視せよ！　値上に賛成する市會議員を徹底的に糾彈せよ！

來つて値上絶對反對運動に加はれ！

× ×

いざ神戸の市民諸君、吾等の足を縛らんとする市電値上に反對し、一大大衆的行動によつてこの陰謀をぶち破らねばならぬ。

すべての稅金は每日無產階級の搾取を事とする資本家地主から出させろ

日本勞農黨萬歲。

× ×

去る五月卅日の兵庫縣尼ケ崎市の市議選に藤岡文六君が二一九票を獲得し當選した事は、兵庫地方無產大衆の誇りでなければならない。同君の選擧費用は二七〇圓であるが、これは同地方の同志の血の出る様な醵金によるものであつた。

苦鬪十年の血と涙によつてかためられた彼の赴くところ、必ずやブルヂョア市會は餘すところなく曝露され、無產者の歡呼はよび起されるであらう。

（神戸支部　S生）

この散彈煙を見よ

敵の主力は無產勢力の陣營の上に恐ろしい强烈なる爆撃を加へ始めた。見よ、彼等の集中的對抗を！　彼等は勞働農民黨富山縣支部執行委員長牧野武夫氏を文書僞造の目安で起訴せんとし病床にある氏を引致せんとしつゝあり新湊に於ては松本關督氏に脅迫の罪名を擬して三日間にわたる取調べを行ひ伏木勞働黨に對しては、各工場主官憲合意の首斬りを斷行し富山高等學校の社會科學研究會の學生四名は退校となり二名は停學處分と來やがる。富山縣全土を包む反動過激なるブルの襲撃はどの程度まで荒れ狂ふか。戰ひは恒久的性質を帶びて我等の前に展開。

（富山市　深田靜次郎）

山口縣戰報

吾が山口縣は田中義一を出した土地だが、この山口縣の無產大衆は搾取に

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

進め

つぐ搾取長き貧乏の爲めに苦しみ來たつた。しかし、吾等は何時迄もこの苦しみに甘んずるものでない。一切の被搾取階級の解放の爲めに邁進すべき山口縣下の無產大衆は、この斷壓と搾取の張本人である田中内閣に明かなる不信を投げつけるものだ。見よ、田中はこの古今の大惡法と稱せらるゝ治安維持法を改惡してまで吾等の行方を絶滅せしめんとしてゐる。山口縣下の各無產團體は共同して左の抗議聲明を發した

聲明書

惡法治安維持法に對し、我等はその撤廢を絶叫し來つた。

然るに今又人民の×田中反動内閣は蜂起する人民の反意を蹂躙ししかも議會政治を破壞する緊急勅令の亂用により是が改惡を斷行、無產階級解放運動を極度に抑壓せんとするのみか、更に我等の前衛に對し、死刑の極刑を課さんとする。

何たる暴戾ぞ！

我等はかゝる改惡治安維持法の改正に對し、斷呼として反對し、即時撤廢を要求す

昭和三年六月二十九日

山口縣無產黨共同委員會
民衆黨下松支部
新黨組織山口縣準備會
全國農民組合山口縣聯合會

田中反動内閣を倒せ。

赤色團同志諸君に告ぐ

（山口縣　村田信一）

血潮は燃き我が赤色團同志諸君!!

我等の光榮の赤旗を守り南海の一隅に屯ろする同志諸君!!

石以て追れし諸君の戰友たる私は流浪の途上よりお願ひをする。我等の赤色團は和歌山無產大衆の前衛として生れ諸君と共に血盟して、光榮の赤旗を守り起て、腐敗資本主義の牙城に肉薄戰をなして幾多の戰功を起てた。

その歷史の厚き我が團を汚す裏切者出で居る事を知りて、我が團の爲全無產大衆の爲に悲しむ、諸君林直夫、中誠一、大元輝一共の裏切行爲はあはたゞしき旅を續ける私の耳に入るより早く兄等の眼に入りしならん。然るに兄等は何故それを見逃すか。我等の歷史を汚し我等の光榮の旗につばはきし同志に後足にて砂を掛けし彼等をこのまゝに爲す事は諸兄も共に裏切者だ。

諸君よ、諸君は光榮の戰士だ我等の戰線を亂す彼等をやつ付ける事は我等の任務の一つだ!! 彼等は我等の團規を亂して官憲に屈し資本家に降服して階級戰の裏切者の集團社會民衆黨と謀を通じて一縣一黨の和歌山に社民の支部を設いた、彼等己れの名譽欲しさの上の行動だそしてそれは彼等は自身のドン慾の爲の行爲だ。そこに大衆もなければ正義も無く道義もなければ眞理もなし我等は先きに我が團員ではなかりしが辻本岡太郎と柴田元一等を葬つた如く我等の手によりて辻本一派に加へし又より一そう激裂な排撃をしなければならない。

林はこの裏切より前に黑旗聯盟に密かに加入して我等の行動を妨害せし事實もある大元輝一は惡黨政友會の犬だ彼の生活費は一切政友會の代議土木本主一郎より支拂れて居り、中誠一も同じく政友會の手下だそして彼は海南、黑江日方を地盤としてその地のブル玉

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

位の密偵だつた事も是近玉置が公表して諸君が已でに知れる事だ。

然るに何故に彼等を葬ざるか私は願ふ諸君は正く階級戰の闘士ならば諸君が我等の赤旗を彼等と共に汚す事を拒絶するならば彼等を葬れ 一切の大衆の爲に!!

私は特に浪々の途上よりお願する。

大正十三年七月　（岡本一馬）

想起せよ!! 交通勞働者諸君

大正十三年七月、それは、ある一種の不安が關西の天地に漲つた時た。

三日正午大阪市電氣局長何源基は、我等が最低限の要求を言下に拒絶した彼等理事者の名利擁護のために、我等をドン底生活に苦しめん爲に。

我等は憤激した。奮起した、ヘンドルの手を休めた。パンチを抛つた。その夜から電車は途に止つた。街頭は人を以つて埋められた。

反動團體は横行した。官憲は狼狽した。電氣局理事者は血迷つた、至る所に不法監禁は行はれて流言は盛んにとび、不安は一層高まつた。

羅漿團は大阪から姿を沒した。そして突然高野山上に現はれた。

旬日に亘つて、我等は支配階級と抗爭した。然し、我等は敗北した。彼等の凶刄にたほれた。百七十名の馘首及び數名の前科一犯！ 之れが我等に與へられた報酬であり『市民の公敵』はその代名詞であつた。悲壯なる決心と覺悟を以て西部交通を俘虜した。然るに諸君反省せよ、今日諸兄達の陣營は如何！ 電鐵當事者間には頑固たる資本聯盟、浪速電鐵協會あり、彼等は之により益々搾取暴壓政策を考究して勞働攻勢に應じつゝある。諸君達はこの資本聯盟に對抗すべく諸君達の團結力を産業的、全國的に統一して勇敢に戰はねばならない使命がある。我等は諸君達がその陣營を整備充實し、以て過ぐる日の熱と意氣に復されんことを望む。

我等は追憶に高鳴る胸をおさへて、四周年記念登山を決行する奮つて參加せられんことを乞ふ。

七月七日午後九時六分

難波發高野行終發——

翌日歸阪——費用自辨

大阪市電自助會有志

大交倶樂部有志

右の激文は吾等大阪市電從業員の忘れようとしても忘れる事の出來ない大正十三年の市電爭議の慘敗を弔はんとして、思出多き高野山への登山を決行せんとして撒布したビラの内容である

資本の攻擊愈々甚だしき時、吾等の陣營は餘りに多く分裂してゐるではないか。陣營の立直しの務ひ——こうした當面の任ひは、この登山によつてありし日の勇ましくもいたましき事實を回想する事によつてひしひしと全勞働大衆に迫るであらう。

高野山上を勞働階級でうづめろ。

（大阪・T・S生）

全土勞級をどしどし送つてくれ。長短隨意だ。ハガキでも何でもよい。工場から、田園から五分の休みを利用して資本家地主の横暴を曝露しろそれは無產陣營の擴大だ。

「進め」ポスター申込め

（編輯部）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

對中出兵、朝鮮增兵에對하야
全朝鮮被壓迫民族에게檄함！

在日本朝鮮勞働總同盟 金浩永

親愛한二千四百萬同胞諸君！

××한日本帝國主義은 朝鮮 臺灣等의弱小民族의生과피를잇는대로다싸먹고 그리고도不足하야서中國兄弟를虐×하고 그들의것을마음대로掠×하랴고數十萬의軍隊와 數千萬個의彈丸을山東에보내지안엇너냐！ 놈들은말한다。그것은『居留民保護』라고。그러나그것은새ㅅ빨간거짓말이다。우리는그런거진말에속지안는다！ 우리는 놈들이所謂『居留民保護』라는美名下에서 中國四億萬民衆을永久的奴隷를맨들나는魂膽을안다！『居留民』을가장完全히保護하랴면 全部中國에서불너오면조치안으냐？ 所謂『居留民』보다軍隊를더만히보낼必要는조곰도업지안는가？

親愛한同胞諸君！

우리는 놈들의過去의罪惡과現在中國에서行하고잇는것을보아서 놈들이왜山東에出兵하는지를알수가잇다。

우리는안다 놈들의배속에는 中國에잇는鑛山鐵道等

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

々의利權을掠奪하는곳에 또는中國××黨의指導下에서必死的으로鬪爭하고잇는勞働者와農民의革命軍을絞殺하라는것인것을!

사랑하는同胞들이여!

놈들은 우리의게엇더케햇너냐? 所謂『朝鮮開發』의名目으로二個師團이나增兵하지를안엇더냐? 그러나놈들의게는 그것도不足하얏다。 놈들은今般山東出兵을機會로하야朝鮮에또다시增兵을하랴하고잇다 놈들은이러한陰謀下에서最近우리의게空前絶後의野蠻的彈壓을마음엇하지를안너냐?

놈들은馬賊의頭目張作霖을指揮하야在滿二百萬同胞를虐殺식히고 또는찬바람불고 눈써러치는滿洲벌판에서여쫏지를안엇너냐? 그外에所謂朝鮮共產黨事件朝鮮日報發行停止三菱長津水電事件 沃溝小作爭議 三總集會禁止 新幹會大會禁止 永興黑鉛鑛夫爭議 反動的敎育政策에對하야奮起한學生들의게對한놈들의밋치광이갓흔彈壓等을보라! 이것이沒落期에잇는日本帝國主義의斷末魔的狂體가아니고무엇이냐?

滿天下에散在하야잇는朝鮮同胞諸君!

우리는이제이以上더참을수는업다! 우리는一齊히奮起하지안으면안된다。 때는왓다!

中國의兄弟를죽이는것은 우리自身이죽는것과맛찬가지다 놈들의毒手를露西亞에까지侵入식히는것은 우리의永久的奴隷를意味하는것이다! 朝鮮의增兵을默認하는것은 우리들이스々로××을願하는것과갓다! 一分間忍從하는것은그만큼우리의餓死를催促하는것이다!

자아 이러나자! 勞働者는함마ー를들너메여라! 農무든손에호미를드러라! 그리고손과손을 팔과팔을잡고街頭로나아가자! 그리하야 全國的大衆的一大抗議運動을이리키자!

對中出兵 朝鮮增兵에絶對反對다!

朝鮮總督野蠻的警察政治를粉碎하자!

中國革命과勞農露西亞를死守하자!

新帝國主義戰爭을우리의힘으로막사!

ー一九二八・六・五ー

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

資料

朝鮮共産黨判決書全文

前號に拔けたる部分

而して被告李炳立の知情の判示事實は同官の被告第一回訊問調書に同旨の供述記載及同官の被告姜達永第二回訊問調書の供述記載に依りて其知情の點は同官の被告李炳立第一、二回訊問調書の各供述記載に依りて各此を認め被告盧相烈の朝鮮共産黨に加入したる事は同官の被告全政琯第三回訊問調書に盧相烈の朝鮮共産黨員である旨の供述記載あるばかりでなく同官の被告金命俊第一回訊問調書に盧一石（盧相烈の事）が同黨員である旨の供述記載あるに依りて被告盧相烈の知情の點は同官の同被告第二回同權五卨第五回訊問調書の各供述記載あるに依りて此を認定するに足り被告李壽延に對する知情以外の判示事實は同被告の當公延にて壽延と秀淵とは鮮語で同意なる旨の供述と司法警察官事務取扱の被疑者李壽延第二回訊問調書に自己は洪南杓と比較的親しい間柄で大正十五年三月中京城に來り同人と面會して露國行を議せる旨の供述記載あるものと、五井豫審判事の被告姜達永第五回訊問調書中李壽延が洪南杓の勸誘に依りて朝鮮共産黨に加入したる旨の供述記載あるものと前記第二號、五三號の會錄に大正十五年三月十一日朝鮮共産黨中央執行委員會にて李秀淵（黃海道載寧）の入黨を承認したる旨の記載あるものと綜合して此を確認し被告金有聲が判示日時場所にて申東浩の勸誘を受けて朝鮮共産黨に加入したる事は五井豫審判事の同被告第一回訊問調書に自己は判示の如く申東浩より朝鮮共産黨に加入せよと勸誘を受けたるの供述記載あるものと司法警察官の被疑者金有聲第一回訊問調書に自己は申東浩の勸誘に依りて同黨に入黨したる旨の供述記載あるばかりでなく五井豫審判事の被告姜達永第五回訊問調書に金有聲が同黨員である旨の供述記載あるものとに依りて被告金有聲が判示京城府の「ヤチエーカ」及「プラクチー」に屬する事は同官の被告姜達永第二回訊問調書に其旨の供述記載あるものと同官の被告李殷植第一回訊問調書の供述記載及前示第二、三、五三號の會錄、日誌の各記載に依りて被告金有聲の光州「ヤチエカ」に屬し共責任者となりたることは同官の被告辛命俊第一回同崔安鏻第一回訊問調書に同一趣旨の各供述記載あるに依りて被告金有聲の知情の點は同官の同被告第一、二回同權五卨の第五回訊問調書の各供述記載に依りて悉く明瞭であり且被告曹俊基に對する知情を除く判示事實は司法警察官の被疑者曹俊基第二回訊問調書に供述日時場所にて申東浩より朝鮮共産黨に加入せよといふ勸誘を受けたる旨の供述記載あるものと五井豫審判事の被告金有聲第一回訊

問調書に曹俊基と朝鮮共産黨員である事を申東浩より聞知したる旨の供述記載ある許りでなく同官の被告崔安變第二回訊問調書に曹俊基が朝鮮共産黨に加入したる光州「ヤチエーカ」に屬する旨の供述記載あるに依りて認めるに足り被告鄭晋武が前示月日朝鮮共産黨に加入し光陽「ヤチエーカ」に屬して其責任者である事は同官の被告辛命俊第一回訊問調書に自己は大正十四年七月中旬頃鄭晋武の勸誘を受けて朝鮮共産黨に加入したる所同人は光陽「チヤエーカ」の責任者である旨同官の被告金完根第一回訊問調書に鄭晋武が同黨員である旨同官の被告盧相烈第二回訊問調書に鄭晋武が光陽「ヤチエーカ」に屬する旨の各供述記載等あるを綜合して此を認め被告辛命俊の知情を除く判示事實は同官の同被告第一回訊問調書に同一趣旨の供述記載あるに依りて其知情の點は同訊問調書の供述記載及同官の被告權五窩第五回訊問調書の供述記載に依りて各此を認められ被告金元根の判示月日場所にて李榮眠の勸誘を受けて、朝鮮共産黨に加入したる事は同官の被告金元根第一回訊問調書に其旨の供述記載あるに依りて同被告が判示「ヤチエーカに屬する事は同官の被告辛命俊第一回訊問調書の供述記載あるに依りて被告金元根の知情の點は同官の同被告第一回同權五窩第五回訊問調書の各供述記載あるに依りて各此を認定するに足り被告崔安變の知情を除く判示事實は同官の同被告第一回訊問調書中此に照應したる供述記載あるに依りて其知情の點は同官の同被告第一回同權五窩第五回訊問調書の各供述記載に夜りて悉く此を認められ被告李榮眠李昌洙、朴炳斗が朝鮮共産黨に加入して順天「ヤチエーカ」に屬して被告李榮眠が其の責任者である事は同官の被告辛命俊第一回訊問調書に同一趣旨同官の被告金元根第一回訊問調書に自己は朝鮮共産黨員李榮眠の勸誘を受けたる旨同官の被告盧相烈第二回訊問調書に李榮眠、李昌洙、朴炳斗は同黨員にて順天「ヤチエーカ」に屬する旨の供述記載等にあるを綜合して此を認め被告金明奎に對する知情以外の判示事實は檢事の證人金明奎訊問調書に自己は大正十五年三月中姜達永の勸誘にて朝鮮共産黨に加入したる旨檢事の被疑者姜達永第三回訊問調書に自己は判示場所にて金明奎に入黨を勸められ即時承諾したる旨の五井豫審判事の被告姜達永第二回、同李準泰第一回訊問書中に金明奎を判示の如く道執行委員に任命したる旨の各供述記載あるものと前掲第三號、五三號の日誌に大正十五年三月二十六日金明奎を慶南道幹部に任命したる旨の記載等あるに依りて被告金明奎の知情の點は同官の同被告第一回、同權五窩第五回訊問調書の各供述記載に夜りて此を認め被告金琪鎬に對する知情以外の事實は同官の同被告第一回訊問調書に自己は大正十五年一月初旬頃同年三月中の誤と認む自宅にて金明奎の勸誘に依つて朝鮮共産黨に加入したる旨、檢事の證人金明奎訊問調書中に自己は大正十五年三月中同黨に加入したる旨の各供述記載等を綜合して此を認め被告金琪鎬の知情の點は五井豫審判事の同被告第一回同權五窩の第五回

訊問調書の各供述記載に徴して明白なるを被告朴憲弘、金昌俊、李相薫、金東富、李忠模、李敏行、高允相、姜均煥、金演羲、邊成龍、裴致文、南海龍、愼杓晟、趙東爀、趙鏞周、蔡奎恒、李善延、曹俊基、鄭晋武、李榮琨、李昌洙、朴炳斗等の知情の點に對しては同官の被告李準泰第三回、同權五卨第五回訊問調書の各供述記載に依りて之を認むるに足る仍て以上を綜合して判示第一の（二）の犯行を認定す。

譯者より——本誌に連載し來つた朝鮮共產黨判決書全文は現在無期發行停止處分を受けてゐる朝鮮唯一の戰鬪的朝鮮文新聞「朝鮮日報」に十四回に亙つて連載されたのを編輯者の要望に依り譯したものである。同全文は元々日本文を以て書かれた調書を朝鮮日報が朝鮮文に移し、更に私が之を日本文の元へ還したことになつてる。從つて元文とは內容の意味に於て相違はなからうが字句其他に相違があるのは止むを得ない。何れ之を再調して私の今著しつゝある「朝鮮社會運動史」の附錄として添へる心算りである。尙讀者諸氏の中に朝鮮の社會運動、勞働運動等に關する資料があれば是非拜借したい、諸氏の鬪志愈々尖銳ならんことを切に祈る。

（金生）

農民勞働社特價取次書目

一、町村制の話（吉田賢一）	、一〇
二、小作調停法の話（吉田賢一）	、一〇
三、百姓は何故貧乏するか（行政長藏）	、一〇
四、農民組合の理論と實際（杉山元次郎）	一、〇〇
五、小作爭議の實際（杉山元治郎）	一、五〇
六、農業と社會主義（平野學）	一、五〇
七、世界の農民運動（大西俊夫）	一、五〇
八、農民組合論（莊原達）	一、五〇
◎一―三まで一割引、四―八は二割引	
無產政黨の戰術（最新刊）上條愛一	一、〇〇

右の他農民敎育運動の時期にのぞみ、講習會敎材として適當なるパンフレットを、此の際特價を以て提供す。
目錄請求には郵劵二錢封入のこと

東京市芝區二本榎西町二番地
振替東京七六二七〇番　**農民勞働社**

大山郁夫氏の『當面の難闘克服』の本質

吉田源藏

（一）

『如何にして無産階級政治戰線の當面の難闘を克服す可きか』と。これは、先きの、勞働農民黨中央執行委員長、大山郁夫氏が、過般の關東の、府縣議戰に出馬した同志等の應援の爲めに、脇目もふらず、東奔西走しながら絶へず、當面の政局の刻々の動きに心を引き寄せられつゝも、その政治戰線を縱横に馳驅されつゝある、氏の心の記録を、生産誌『改造』の七月號に、若干のマネーの代償として、生産せられた『商品』としての大論文である。

それは流石に、革命的、戰闘的、階級的、マルクス主義的氣分に充された『激流に抗した』ところの『支配階級の組織的大彈壓の砲火の下に立つて』の記録でゞもあつて、『まことに』尨大なること、實に、二十頁二万數千文字から成るところの、それは又くど〳〵しい堂々たる口説でゞはある。

ところで、氏の此の二万數千文字から成る『商品』の究極するところの、『問題の所在』は『……此際日本の無産階級の政治運動が、現在の瞬間において、直面している空前の——よし絶後でなくとも——一大難闘』に處して、我が『一握りの無産黨議員』達が、過般の第五十五議會の内外において、これを——（一大難闘の意味）——突破して、果敢なる一大飛躍を斷行せず、彼等は——（一握りの無産黨議員）——自らが大衆闘爭の尖端として、ブルジョアー議會に侵入したことを意識していながら、例の『一大難闘』を克服することに毫も貢獻しなかつたと云ふお叱りにあるらしい。そしてそれは——（一大難闘を克服することに努力しなかつたこと）——一握りの無産黨議員達が、『あまりにも慘めな非戰

鬪的な代もの』ばかりであるからだそうだ。だがしかしけれども、氏は、その一握りの非戰鬪的な代ものゝ内に若干の戰鬪的分子のあることを殊更に附け加へて明示せられている。氏の言はれる「若干の戰鬪的分子』とは、それは何を意味するのであらうか。恐らくそれは『エセ無産黨』にあらざる、先きの勞働農民黨から選出せられた、山本、水谷の兩代議士のことではあらうが、悲しいかな、此の輝ける兩代議士は『首を洗って……』（雜誌『經濟往來』七月號水谷代議士執筆『首を洗って待っていた』記事參照）―只管敵の御希望通りに除名されることを觀念して、念佛を唱へられていた、勇敢な度胸の持主であったのである。

惜しいことには、先きの勞働農民黨中央執行委員長としての、將來の無産階級×××たる可き、我が大山郁夫氏が其の階級的、戰鬪的分子たる本質の故に、『大彈壓の砲火の下』に、可惜落選の憂き目に會はれたことで、若しも、一握りの無産黨議員團の中に、我が大山氏の在はすなれば、定めし『當面の一大難關』を突破せられて、絶大なる努力を以て潑剌たる躍進を遂げられたであらうに。

（二）

我が大山氏は、氏のその得意の革命的、戰鬪的氣分を以て「現代社會史を少しく前に溯って回顧」せられ『……今日の日本の無産政黨運動の搖籃時代から、始終直接間接にそれに參加』せられて來たところの、生々した貴い經驗から、万般の事象の内に『階◦級◦對◦立◦の◦尖◦鋭◦化◦と◦そ◦の◦政◦治◦的◦表◦現◦の◦發◦展◦』性をやうやく認識せられたようである。

かくして氏は『無産階級側◦……側◦だと……―（何と階級的な言葉なることよ）―の陣立てが『産みの苦しみ』―その餘痛は今日に及んでも尚完全に治療されているとは言へない―』に惱まされつゝあることを說かれる。しかしながら、氏は、氏の言はれる、所謂『現實政治鬪爭上の問題の胎生期』において、突如として無産階級陣營内に現はれた『産みの苦しみ』の餘痛を今日迄に及しているところの妖怪―（此の妖怪は、今日に及んでも尚完全に退治されているとは言へない）―のあったことには、氏自身は誰よりもよく知悉してゐながら、それに關しては、一切口に緘して居られる。

氏の言はれる『一大難關』なるものは、我が國無産階級政治運動の、所謂『胎生期』に際して、突如として陣營内に現はれた妖怪が、所謂『生成期内至發育期』に處して、凡ゆる魔術を弄したその成果に外ならないのである。

金融支配確立の爲めのブルジョアジーの反動的攻擊に、『九億の金を以て民衆を救へ』のスローガンを、如何に高く掲げて蹶起しても、『エセ無産黨』の排擊のみに憂き身をやつしていたのでは、ブルジョアジーの分割支配の目的は、結局『一大難關』となって現はれて仕舞ふの外はなかったのである。

しかるに、氏は、『一大難關』が吾々の頭上に、天下り的

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

に落下して來たかの如くに、そして、そうしたことを肯定することを前提として筆を進められる。

（三）

そこで、氏は舊勞働農民黨の陣營から、黨が、從前から續行して來た不斷の日常鬪爭を押し進める可く、全國的の規模において爲される、昨秋の府縣會の選擧戰へ參加した功勞を想起せられる。そこでは選擧と云ふ特殊事情の爲めに、從つて特殊な形態を取つて鬪爭せられたことは勿論である。

即ち舊勞働農民黨が、その府縣議戰に臨むに當つて採用したところ、中心的鬪爭スローガンは『政治的自由獲得』と云ふ表現によつて内容を明示するところのものであつて我が國の封建的絕對專制勢力の打破を意味するものであつた。從つて、彼等—（舊勞働農民黨）—の同盟協力者は、日和見主義者や、折衷主義者等の影響下にある所謂『エセ無産黨』ではなくして『革命的』な少ブルジョア自由主義者のグループの革新黨であつたのである。故に『革命的』ならざる日本勞農黨、社會民衆黨、日本農民黨等の勞働者と農民其の他被壓迫民衆層から成るエセ無産黨は、徹底的に排擊す可きものであつたのである。

氏は『政治的自由獲得鬪爭とその內面的意義』を一應吟味して、一瞥を與へられる。

『我々が無產階級の政治鬪爭において、ブルジョアデモクラシーの獲得の必要を說くのは、決して、ブルジョアジーの歷史的使命を代行しようと云ふ意味ではない……』

『……今日において、プロレタリアートが、自由と人權とを叫んでゐるのは、無論ブルジョアジーの自由と人權を要求しているのではない……』云々と。

ところで、そうしたブルジョアー的な、階級抹殺の呪文にあらざる、『自由と人權』を要求しつゝあるところの、××的、階級的無產黨たる舊勞働農民黨ともあらうものが、『すべての人民に自由を與へよ』とはどうしたことであつたのか、吾々は、『此の問題を考察』すればするほど、そんなスローガンは容易に取り上げ得らる可きものでないことが看取されるのである。

『すべての人民に自由を與へよ』吾々はかくの如き要求が社會的に肯定されなければならぬと云ふような寢言は、プロレタリアートが、今日の社會的生產過程において、現實に占めているその地位からして、それだから、それなればこそ、吾々は、そんな超階級的！　否非階級的なスローガンは受け容れられないのである。たゞこれを隨喜して受け容れるものは、ブルジョアジーの代辯者と、手先きと、走狗と、そうだ！　舊勞働農民黨の幹部諸君が、大童となつて排し續けて來た、社會民主々義者のみである。此處で我が大山氏は愈々本音を吐く、『更らにまた、この意味における—（すべての人民に自由を與へよと云ふ要求）—プロレタリアートの、自由人權の要求が達成され得る、若しくば社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

會的に肯定され得る、實質的根據については、今はこの要點を詳論してゐる暇を持たない……』と。

御尤もです、そうでせう。だが實は暇がないのでなくて要點を詳論するに何の要點もないのではありませんか、氏が超階級級立場――それは少ブルジョアー的立場の典形的のもの――から離れて、無產階級的立場に、眞實に立たれたとき……否立つて居られるならば當然に白狀せられ得可きものである。

（四）

我が大山氏は、この超階級的鬪爭目標が、現在吾々の最も緊張せる注意の焦點の一ツとなつている、全勞農政黨の合同問題に關して重要なる意義を爲すものとして、「階級戰線統一問題」に言及される。

茲では、氏は遂に、舊勞働農民黨の府縣議戰による誤れる鬪爭の成果をハツキリと認識せられたようである。即ちエセ無產黨排擊が、當面の「一大難關」に密接なる連關におかれてゐるものなることを把握せられたのであるらしいエセ無產黨の諸君が『宗派的分裂主義者を排除せよ』と云ふところの『同黨』―（舊勞働農民黨）―自身には、その意味がハツキリ掴めないような注文』の內容が、大山氏等は自身の鬪爭を通じて、やうやく『單一無產政黨主義』の實現に重要な役割を持つことが、おぼろげながら掴めるようになつて來た。そこで大山氏等は、過去の分裂對立の鬪爭にそつと、手を觸れづに、何とか再合同の問題に變形するの必要に迫られて來た。

かくして、分裂對立の『根本的態度は當時の狀態の下において正當視す可きもの』と虛勢を張りながら、エセ無產黨排擊は『無條件合同』の問題迄に揚棄されるに至つた。そして大山氏自身の口からでさへも、『この戰術は、方法論的には未熟な物の見方に立脚せしめられた餘りにもギゴチなく、餘りにも機械的なもの』として清算されるに至つた。

ところが、如何に機械的なもの、未熟なものとして清算されても、『根本的態度―（分裂對立主義）―が正當視す可きもの』である限り、エセ無產黨排擊は、『社會民主々義に對する批判の自由の保留』となつて、『合同の旗じるし』に現はれたのである。

我が大山氏によれば『府縣議戰及び國會戰後他黨幹部達が、選擧戰を通じての共同鬪爭から―（實は對立鬪爭の勞働農民黨の妨害から）―大衆に押されて、全勞農政黨の合同問題への關心を示す態度を取るようになり、且つ政治的自由獲得鬪爭を口にするようにさへなつたから、吾が黨は急轉直下、一路無條件合同へ進んだ』と云つて居られるが、それにも不拘例の『社會民主々義の批判の自由の保留』なる『合同の態度の基準』の必要が何處にあるであらうか。吾々は、無條件合同論には、舊勞働農民黨の過去の實踐鬪爭に、あまりにも幾つもの障碍の横たはつていたこと、またそれが將來にも及んでいることを考へさせられるのである。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

（五）

かくして我が大山氏は、舊勞働農民黨の、政治的自由獲得鬪爭が、勞農政黨の合同問題に全く相容れない結果に始終していたことを、合理的に跡づける爲めに『その不完全なる叙述』をもつて達成されようとする。そしてその氏の幾らかでも論斷めく部分は、皆氏一個の個人的責任にして仕舞ふとせられる。氏は少くともさう希望せられる。

それで氏は、さうした希望のもとに、『無產黨の受難時代の到來』迄に氏の意圖が展開されて行く。

此處では、舊勞働農民黨が如何に『社會民主々義の批判の自由の保留』なる『合同の旗』を掲げねばならなくなつたかゞ、戰鬪的無產黨の受難に當つて明かにされている。即ち氏によれば、

『……我々が、多少合同欲求の氣焰に氣を呑まれた恰好で社會民主々義に對する批判の自由の保留の問題を持ち出すのを忘れたのは――(實はそのときは、それに對する或る種の方面からの指令が出てゐなかつたのだ)――明かに失敗であつた。……その爲めに社會民衆黨の明白なる難點に對する暴露をさへも差し控へしめた。――(それは排擊しなかつたと云ふことだ)――その爲めに、舊勞働農民黨によつて爲された既成政黨に對する暴露が、少市民層の有權者達を驅り立て、社會民衆黨への投票に走らしめた樣な現象さへ見られた。……』と。そして氏によれば、その『見られた』現象は、『それ等の有權者達は、もはや既成政黨に投票する誘惑を失つたが、さりとて左翼の舊勞働農民黨に投票する氣にもなれず――(何故にだらう)――同じ無產黨なら社會民衆黨がよからうと云ふような結論に導かれたようだ……』そうである。

勿論氏も既に白狀して居られるように、少くとも論斷めくところは、氏一個の意見に過ぎないもので、要するに、『見られる』とか、『ようだ』と云ふ程度のもので、『强烈な彈壓にさらされた』のも、『最も戰鬪的な舊勞働農民黨の候補者のみであつた』ようであり、そう見られる』ものに外ならぬのであらう。その、『ようであり』『見られた』ものゝ典型的な實例を、氏自身も經驗せられたようである。

かくて、舊勞働農民黨は總選擧中に大彈壓の試練を經て眼ざましき發展の氣勢を見せたが故に、『最も戰鬪的な無產黨がその成生の過程において、一度は遭遇す可き其の受難期の其の極限』が到來し、今や勇猛果敢に、新黨準備會、と勞農協議會との間を迂路付いているのである。

嘗ては些細な日常の經濟鬪爭をも、之を直ちに全被壓迫民衆の政治的鬪爭に迄引き上げて、常にその鬪爭の高き形態へ導く爲めに、『大デモ』『ゼネスト』の行はれていた、鐵の如き統制に服しつゝあつた舊勞働農民黨が、『兼ねて一度は遭遇す可きことが期待されていた受難期』が到來しても、その反抗運動としては活字と謄寫版との『ゼネスト』『大デモ』以外に何ものも起り得なかつたのはどうしたこと

であつたのか。

（六）

愈々問題は『如何にして當面の難關を克服す可きか』に迄當面して來た。それは實に全勞農政黨の合同を樞軸とするところの、無産階級戰線統一、即ち鬪爭の爲めの合同の問題にしか外ならぬのである。

しからば、我が大山氏は、此の問題に關して、如何にしてこれを解決せんとせられしか？

氏は言はれる、

『……對支配階級の鬪爭においての、理由もなき一歩退却は、敵の勢力の壓倒的一歩前進を意味するものであつて、しかも、それは短き年月や生優しき努力では到底取返しのつかない結果を生む……』と。而して氏は日勞黨が、新黨準備會よりの無條件合同提議に對する、合同によつて、支配階級に解散の口實を與へない爲めの周到なる態度を非難して、更に筆を進められる。

『……我々から見れば、それは誤つた杞憂の上に立つてゐると云ふことの外に『鬪爭せずに解散されないことの方が鬪爭して解散されることよりは望ましいことだ』と云ふのと同意義に聞へる。我々は日勞黨の幹部諸君にこの態度の訂正を要求したい』とて、日勞黨幹部に向つて、きついお叱りを賜はつている。

まことに吾々は『短き年月や、生優しい努力では、到底取り返しのつかない結果』を過去の對立鬪爭のお陰で被つたのであつた。從つて、全勞農政黨の合同問題に關聯して『何から始めるべきか』が決定されるものであるなれば、而してそれが氏に全階級的に考慮せられているなれば『取り返しのつかない結果』を生じたことの究明が第一に決定されなければならぬ筈である。吾々は、合法政黨として存在するものを『鬪爭しないから解散されないものだ』と一渦の下にけなし附けるが如きは、斷じて無産階級の陣營を總括的合同の方向へ卷き込む可能性のないものであることを信ずるものである。

我が大山氏は、無條件合同論の提灯を持つ爲めに、全國農民組合の成立大會での一挿話を引き合に出してそれを辯護せられている。氏の曲筆は始きる。

『……單に階級戰線統一の意圖のみが强調せられたゞけで、そのための具體的方法が何一ツ決定されなかつた。其の際日本農民組合千葉縣聯合會の代表が、日勞黨と新黨準備會との即時合同を提議したが、それは容れられなかつた……』と。しかしながら、同大會においては、全日本農民組合の大阪府聯合會から、新黨準備會と稱するも、既に存在しないのであるから、我が新農民團體たる、全國農民組合は、現に存在するところの、日本勞農黨を支持す可きである』と提案され、しかもそれが議場を壓せんばかりの勢力を以つていたことを大山氏は御記憶ないのであらうか。氏は激流に抗して、意氣益々揚ることを覺へるの感激のあまり、自

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

己の意思を大衆に押し附ける嫌はないであらうか？

全國農民組合の成立は、それ自身が、鬪爭の爲めの農民組合の合同であつた。此の合同こそ過去の永い鬪爭の成果であつた。かくして具體的な方法は歩一歩と決定解決せられている。それにもかゝはらず、勞働農民黨は百回千回万回でも結黨する筈が、未だ一回の結黨も見ていない。それは前衛黨の方針にもとづくものでもあらうけれども、それではあまりに小兒病的に陷ちてはいないであらうか。右翼結成が清算主義派なら、そうした合法無視の態度こそ、レーニンの言つた左翼清算主義派で、反對の符合の附いたメンシエビイキで、有産者社會の提灯持以外の何者でもない。むべなるかな、大山氏等の、こうした偏狹と、頑迷と、潔癖とは、勞働農民黨大衆を[illegible]と[illegible]との間を彷徨せしめ、我が無産級級が昨年來より持ち越しの分裂狀態を保存して、ブルジョアジーの分割支配の協力者となつている。

商品生産の社會秩序が存在する限り、無産階級が解放されないものであるように、大山氏の若干のマネーの代償として生産された商品としての『如何にして無産階級の政治戰線の當面の難關を克服す可きか』なる大論文は、遂に無産階級の問題を解決するに至らなかつた。

それは大山氏自身が言はれている通り『……この問題―(一大難關を克服する問題)―に關して本稿に述べられた私の見解は、極度の多忙裡に作られたものであるから、不可避的に未定稿式の粗雜極まる』ものであつて、『訂正』することの手數すらも省く可きものであらねばならぬ。

しかしながら、私の大山氏の商品に對するこうした結論は、吾々の消費に對するそれの使用價値に關する限りのものであつて、商品に特有なる交換價値のあつたことを否定するものではない。それは無産階級の問題を解決すると否とにかゝはらず、獨立して存在するものであつて、現に大山氏と改造社の間における問題は、充分に解決しているのである。

かくして此の商品は、『激流に抗して』と同じく、追つて改造から、マルクス主義書座へと販路が擴張せられ、氏『一個人の意思』が大衆に押し賣りせられるものであることを吾々は見落してはならぬ。―(一九二八、七、四)―

モップル

ロシヤ語であつて、國際革命救濟會の略で、我が國で本年四月創設された解放運動犠牲者救援會は大體同じ目的で生れたのである。モップルの紀念日は三月十八日である。一八七一年に於けるフランス無産階級の英雄的蜂起は敗北に終り。世界に於ける最初の勞働者國家はブルジヨアジーの逆襲にあつて潰滅するに至つた。この時に三萬人の闘士はべりカード(防衞)に倒れ、四萬五千人以上のフランス無産階級分子は救援されたのである。この白色テローに抗爭すべく、この日を記念して、現在世界の資本主義國家の下に壓搾に抗して鬪ひ、その犠性となりし闘士を救濟せんが爲に設けられたのである。これが創設されて既に數年になるが、その内最强大なものはロシヤであつて數百萬の會員がある。モップルの資金は會費と寄附である。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

搾取行刑政策と 自由勞働者の失業關係〔四〕

加藤利藏

一 刑餘者の社會生活上に於ける位置

所定刑期を滿了して刑務所の門より社會に放たれる日々數百の釋放者は、それ〳〵どういふ境遇に吸ひ込まれてゆくか、或者はその家庭に、或者は釋放者保護の手を經て社會生活に、或は獨行の道を踏んで社會生活に復歸するものもあらう。これらの點に、關する統計は、司法省行刑局並に補成會（釋放者保護事業補助改善の中央機關）等においては可成り明細な表を作成してゐるやうであるが、私はさうした「どうでもよかりさうな」と思はれる、表面的な所謂統計とは視點を別に「前科者」といふ通稱を冠せられてゐる刑餘者の社會生活上に於ける實際的位置、並に經路を論究する。

先づ刑了と同時に社會生活に復歸する刑餘者の大部分が本文の當初にも掲げておいたごとく、純粹の無産者であるが、いづれの時及場所においても無産者生活の社會的通則として、その生活基調を「勞働」に置かねばならぬ事はいふまでもないことであつて、その勞働の必須條件もまた勞働者の强健なる體力と、生産過程における業務相應な智慮の準備を最要とすることは無論であつて、右の資格を完全に具へてゐると否とが、勞働市場における勞働者個人の生活の位置上多樣の高底を存せしめられる所以となる。

言を約すると無産者の――即ち勞働者の生活基調はそれ自體の心身の健康に存するものであるといふことになる。

そして現段階における資本制産業組織の必然現象である過大な勞働豫備軍の脅威を背後に受ける勞働市場においては、勞働者の「質」の撰擇に關する雇主階級の選擇權宜は

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

頗る自由な行使を社會的に保證がされて居り、就中雇傭契約が暫定的な關係下に置かれ、性質上他の勞働市場に比して遙かに過大な豫備軍の充滿する「自由勞働市場」においてのそれは、自由勞働者の使役を必要とする事業構成上の必然的要求として就事する勞働者の一層强健なる體力を重要なる雇用條件の標準としてゐるといふ點と、前陳のごとく他の勞働市場に比して一層過大なる勞働豫備軍が常に第二段に控えてゐるといふ點より傭はれんとする者の「質」の撰擇に關する雇主階級の撰擇手段は他の市場のそれに比して自由であるといふよりも横暴にすぎ、辛辣であるといふよりもむしろ殘酷にすぐるの毒手を振ふて怯え通しの自由勞働者の日常生活を一層深刻なる不安のドン底に惱亂ぜしめてゐる。

（此處にいふ自由勞働者とは廣汎なる業種を抱合する「自由勞働」中の日傭、若くは月傭の筋肉勞働者を主として指す）

二

前陳の如く、刑の滿了と同時に社會に放たれる刑餘者の大部分が無産者である——といふばかりではなく、その名の示すことも刑餘者——即ち前科者といふ肩書を付され、刑の延長とも見るべき公民權の剝奪によつて社會生活の範圍を極度に狹められてゐるといふ間係上、その生活上の先決要件であるべき就職間係の諸方面に亘つて種々困難なる事情に當面してゐるといふ狀況も「前科者」の實際生活を眺むる者の目には容易に領かれる事であらう。

これらの點に關する當局の方針は前文中にも繰返して述べておいた如く、刑事政策の内面的な目的の何れにあるにもせよ、兎に角表面上では犯罪者に對する行刑の主目的を、犯罪者が受刑といふ結果に陷入るに至つた行爲上の原因たる犯罪習性の陶冶とそれに兩面の間係を結ぶ生活樣式の釋放後における社會的順化の精神的訓育或は受刑者の幾%がその犯罪の動機となつた外的刺戟に原因する變動的犯行の誘惑に打ち克に充分な堅固なる意志の鍛錬等をせしむるために刑務執行上諸般の設備、即ち精神的方面に關しては

「教　誨」

教誨師と呼ぶ佛僧を各刑務所毎に數名高給を以て雇入れ（教誨師の大半が淨土眞宗大谷派のものが占めて居る）（刑務所毎に教務主任一名——奏任——その下に一名乃至數名——判任——が配置されてゐる）月に二回若くは三回二十分乃至四十分位佛教に關する講話の聽聞を受刑者の殆どが戒護看守の嚴重な監視の目に圍繞されながら生欠伸を嚙み殺しつつ馬耳東風の苦行をしてゐる。

「教　育」

主として國粹主義、反動主義の教化宣傳に關するもの若しくは資本主義の禮讃をなせる看讀書籍の閲覽をさせることを指してゐる。

實際的方面にかんしては主として職業的訓練——即ち文

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

中にかなり詳しく掲げておいたごとく、毎日十二時間三十分といふ長い時間制の下に受刑者に就業を強制し、その作業能率の高低に準じて食衣、住の給與に數段、若くは十數段の等級を設け（就中いづれの刑務所においても食物給與の點に巧妙なる手加減の主力を注いでゐる）生活上に自由を全く奪はれてゐる受刑そのものゝ境遇から必然に生來する衣食住に對する熾烈なる自由の慾求（主として食物に對する――受刑者の犯則行爲として數へ上げられる中で食べものに原因するものが比較的多い）を作業能率の增進に結びつけてその「自由」の幾分かを與へるといふ規定が設けられてゐる（前文中に插入せる某刑務所の處遇規定表參照）

然しながら事實においては作業勉勵の報酬として優待される衣食住の上のそれよりも、さうした好餌に釣られて不知の間に消費せしめられるカロリーの量のいかに多いことか――足一度刑務所の門を入り其處に長時間の勞働に就事してゐる受刑者の蒼白なる顏色生氣を失つた眼光憔悴せる體軀等を一瞥せば瞭然として頷かざるを得ないものがあらう。

これらの作業政務に關する表面的な理由、即ち釋明として當局者は口を揃へて、前にも繰返して述べた如く一九二七年十月全國刑務所長會同の席に臨んで訓示せる主管大臣原法相の（刑務作業の目的は勤勉の良習を養はしむると同時に彼等に釋放後の基礎を授け累犯に陷る素因を除くにある――即ち彼等が釋放後激烈なる競爭場裡に生活し得る勞働能力を涵養せしむるにある」云々の言と同一の言明を世に示してゐる。

如斯、前陳の敎誨、敎育に關する精神的方面の敎化機關の配備、並に右に記した職業的訓育に關する諸般の行刑設備も「惡人」である受刑者をして「善良」なる社會生活に復歸せしむべき文明的行刑制度であると甚だ矛盾にして僞瞞きはまる――所の眞相は後段において詳しく揭出する――言明を憶面もなく世に示してゐる。

而うして前陳のごとくまことに文明？的な昭和の聖代に相應しい感化訓育の裡に所定刑期を辛うじて滿了し、營養不良と過勞のために朦朧とした意識をもち悴れサラバエた抜け殼同然の體軀となつた受刑者を實際的社會生活に投り出すまでにもう一度、これまた莫大な經費を消費しつゝ經營をしてゐる釋放者保護事業と稱するものゝ手を經過せしむべき方針をとつてゐる。

三

便宜上、釋放者が社會歸住の種別を當局における取扱ひ上の名稱を借用して述べて見やう。

大體當局においては釋放せる者の種別を

「直接保護」

釋放と同時に保護會に收容され、一定の期間日常生活上の指導、並に監督をうくるもの。

「間接保護」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

保護會において或る期間を經過したるのち、若くは職業上の都合等により會內の生活より分居して間接の指導並に監督をうくる者と、家庭上または地域的等の關係上、當初より直接保護の手を經由せず、皈住地所在の保護會より間接の保護をうくる者。

「單獨釋放」

全然保護會の干涉を避け獨行の境遇に還入る者、または在刑中において行狀、作業等の成績の不良なるもの、或は病弱なる體力のため收容後において徒に保護の費用のみ嵩むものと認定された者等は、監獄法施行規則の中に定められてある「刑期の終了により釋放せらる可き受刑者に付ては釋放の十日前迄に釋放後の保護に關する事項を調査すべし」といふ條項は準用されず、保護のホも聞かせずに獨行の境涯に投り出してしまふ。

等の三種に區別してゐるやうである。

しかしながら稀には、在刑中の不良者、病弱者等の釋放後の保護に關しては特に留意して懇切なる保護を加へてゐる刑務所もあるやうである。さうした刑務所の管下に所在する保護會に收容すべき者の「質」の取捨にかんする標準上の相異も、所管刑務所長並に數務主任等の個人的人格に關する原因による場合が多い。

因に釋放者保護事業の分布は全國的に亙つて居り、各府縣毎に數ケ所若くは十數ケ所存立しそれを連絡統制する府、若くは縣聯合會なるものがありその上に前陳の補成會と稱する中央機關があつて司法大臣の指揮監督の下にその事務が統轄されて居り、關係役員にも名譽會長、會長、理事、主事（主任ともいふ）、書記、保護委員等の名稱があつて有給、若くは名譽職として執務して居り、可成り緻密な連絡と統制との下に組織されてゐる、然して右に述べた釋放者保護事業の主なる目的は、その名の示すごとく、受刑者が釋放後歸住すべき一定の居所なきものを所在保護會に收容して先づ居所の安定を與へ、次いで就職上の便宜を與へてやるとか、或は、目まぐるしく推移せる世相を外の別天地に數年若くは十數年といふ長年月を籠めて單調な日常生活を繰返して來た受刑者が、刑了と同時に當面する生活樣式の激變化に伴つて刺戟さるゝ精神上の變則的な昂奮を避けしむるため、一定の期間を保護會內に居住せしめて實際生活の訓練を與へ、オモムロに社會生活に順化せしむるにある——といふ點を保護事業構成上の主なる理由として數へ上げてゐる。

右に述べたごとく受刑者の總てが刑了後單獨、若くは被保護の二樣の經路のいづれかを通つて社會生活に復歸するものであるが、前にも述べたごとくそれらの殆どが無產者であつて、中にも單獨生活の道を選ぶもの若くは餘儀なく選ばしめられる者にあつては釋放直後の第一歩から一泊一食の生活必需費にすら困窮する全くの無一物者が多くある

尤も名文上では、懲役受刑者並に請願作業に服役する禁錮受刑者に對しては、その行狀の良不良作業能率の優劣等

に準じて規定項目に相當する作業賞與金計算率の給與をする事になつてゐるが（明細な分類は、本誌七月號に掲載せる文中に挿入した某刑務所において實施してゐる收容者處遇規定一覽表を參照されたい）單獨釋放の經路を辿る者の大部分が一年二年といふ短期刑に處せられた者が比較的多くを占めて居り、たとへその受刑中階級處遇規定といふやうな好餌に釣られてヒヨロ〳〵になるまで作業を勉勵して見たところで、刑務所によつては級別處遇上の進級標準を行狀、並に作業成績の「良」を基本としてゐる外に作業賞與金計算率の項目のみを特に分離して服役年限の長短により甲、乙、丙、又は一級、二級、三級等經過年限一年を單位として一年を經る每に進級をせしむる規定を設けてゐるところもある。

然して、刑務作業の全般的傾向として短期受刑者は精巧なる技術の修練を要する業種には就役せしめざる方針をとつて居る（受刑前同種の職業に從事せる者及前刑中その技術の修練を了得せる者は別として）これは六ケ月乃至一ケ年位の修練期間を全く不生產的な時間の消費を要し技術の修練を了へたる頃に至つて刑期滿了となつたのでは刑務作業の重要方針である「搾取」の目的が達せられないといふ資本家的利己に基くものであつて、大正十年十一月の「改定刑務作業時間の實施以來當局者が屢々繰返してゐる「刑務作業の目的は——彼等が釋放後激烈な競爭場裡に生活し得る勞働者能力を涵養せしむるにある」などゝいふ言明はいかに僞瞞極まるものであるか——といふ證左の一端が窺はれるであらう。

尙六ケ月以下の最短期受刑者にあつては大正十一年頃より改定實施せる（受刑後滿六ケ月間は作業賞與金の給與をせず）といふ規定が準用されてゐる故、いくら働いたところで一厘の金も給與されないといふ狀況にある。

然して長期刑終了の釋放者の中には——十二年以上の禁錮若くは懲役——五百圓前後の高額な賞與金を給與される者もあるが、そんな者は極めて稀有であり、短期、長期のいかんを問はず賞與金の高額を所有する釋放者に對してはその受刑中當局者は（就中教誨師等は）百方言を盡して釋放後の「被保護」を勸誘して居り大體の傾向としてそれ等の殆どが釋放者保護會に吸收されてしまう——それに對する當局の陳辯は大金を所持する釋放者を不自由極まる監獄の境遇より一躍自由の社會生活にしてやつたのでは、所謂その「大金」が祟つて再び刑務所に戾つて來はしないか——即ち作業賞與金給與の原則が、勞力に對する「報酬」のそれではなく名の示すごとく國法として强制する「懲役」に服する受刑者に對してその業務に恭順の意を表する者、或は一層勉勵してその「恭順」の意を優秀なる作業能率の結果に表する者の行爲に對して「賞」する意味において與ふるものであるとするその「金」を社會復歸後の「善良」なる生活資本に充當せしめんとするものであつて徒に酒食の用に費さしめ延ひては再び犯罪の誘因を釀さしむるや

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

うのことがなきやう保護會に收容して充分なる監督と指導をなすためである——といふ頗る親切極まる方針に基くものであるといふ。

果してそれなら一にも受刑者の將來の爲め、二にも釋放後のためと云つて痒いところに手の屆くやうな諸般の設備が受刑者に對するのそれと釋放者に對するそれとの二方面に亘つて講じてゐるのであると——表面的な——矛盾きはまる——彼等が鳴り物入れの誇大宣傳をしてゐるその足下から實際において緊切にその保護を社會的に必要な罪釋放者に對して頗る冷酷な放任主義で臨んでゐるといふやうな矛盾きはまる手加減を曝け出してゐると云ふやうなことは抑〱いかなる原因に基くものであるか——問題の焦點がこの點に潜んでゐる。

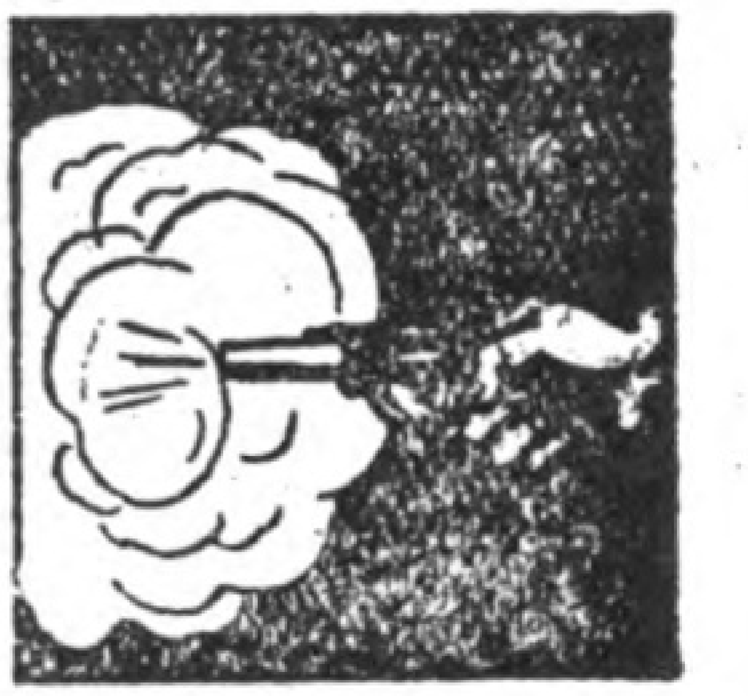
以上述べ來たつたところによつて刑了放刑後における刑餘者の（世人周知のごとく「公權剝奪」によつて刑罰の延長が社會的に執行されて居るといふ點より「刑餘者」とよぶ名稱が發生したるものと思ふ）社會生活上の位置が略々分ること丶思ふ。（未完）

（四十五頁より續く）

（御詫び、前號は自分の記憶ばかり書き、其の後種々參考資類を集めますと、種々間違つてる所があるのを發見したのです。まだ借りたい本、見たいものがあるのですが、それが手に入らないものですから、後で訂正しなければならぬ點も澤山あります。一方食ふために忙はしい所へ、原稿締切で追ひ立てられるものですから、十分に下調べが出來て居らぬ所は幾重にも御容赦に預ります。『牛に牽かれて善光寺詣り』の格で「進め」に進ませられて、已むなく稿を續けて居るやうな始末、一度骨子となるものを書いてしまへば、後に足らざるを補ひ、訂正し、改刪することも出來ませう。又事實の正確なことは保證します。例へば此の兇徒聚衆事件を岡陽之助の本には四月五日としてありますが、之れは吉川守邦、岡千代彦兩君にも質すし、豫審調査、判決謄本も調べ、雜誌『光』も見ましたから間違ありません。

前號に日本社會黨と日本平民黨のことで、福田君に對して御質問がありましたが、そんな問題も一々調べて、追々と正確な處を書きつけて置きたいと思つて居ます。）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



無産運動講座

資本主義・社會主義（五）

神庭仲之助

社會主義とは何ぞや

一、都市と社會主義思想

資本主義社會の諸相に就いては前章によつて大略述べたつもりである。本章においては社會主義とは如何なるものであるかを研究する事とする。私は本節においては、社會主義は何故に都會において最初發生するかといふ問題を摑んで論を進めて行きたい。蓋し、此の問題に答へる事は、社會主義を初めて研究する人々に取つては極めて意義ある事と思ふからである。

社會主義的諸精神は資本主義制度の胎內に孕まれ次第に其の母胎に向つて反逆を企てる事は前章における資本主義社會の說明の中において述べた。

社會主義に反對する人々は、社會主義は一部の思想家や宣傳家の頭の中で考へられた事であつて、觀念的遊戲に過ぎないと云つて居るが、之は大間違ひで、社會主義は經濟狀態の進步變遷と共に釀生したものであつて、必然的に生れるべくして生れたものである。決して、ある思想家や社會運動家が頭の中でこね上げたものではないのである。思想家や社會運動者はたゞこの必然の勢ひを豫知し社會に警告し、無產者をして現在の制度を打破すれば、幸福な秩序正しい社會を吾々の努力次第で作り上げる事が出來ると覺醒せしめんとしてゐるだけである。もし、思想家や社會運動者の頭の中で、現在の社會狀態とは關係なく生れたものであつたなら、民衆は決してこの運動に參加しないであらう。民衆は現實にこの世の中で生活する者であるから、現在の社會がいゝか惡いかは直接に感じてゐるのである。前章において述べた通り資本主義社會が技術的に民衆の求める物資量以上の生產を樂に出來る可能性があるのに、生產

手段が資本家の所有となつてゐる爲めに、資本家の利益に反すれば民衆は丁度ゴミを捨てられる樣に苦痛の淵に投込まれて了ふ。民衆はこうした苦痛は現在の社會の仕組が惡いからだといふ事は自覺してゐる。これに對して社會主義は現在の社會組織の惡い所を指摘して、この點を訂正すれば何人も幸福になるといふ事を最も科學的に主張するものであるから、民衆はこの運動に參加して來るのである。

く社會主義が資本主義社會の必然的進行によつて生れ、益々成長して行くものである事はもう爭ふ餘地はない。社會の幸福を助長するものは維持され、之に反するものは滅亡して行く。これは自然の法則である資本主義社會、すでに人類の生活の向上を促す事が出來なくなつたればこそ、資本主義に取つて代つて人類生活の向上を策する社會主義が出現するのである。社會主義の出現は丁度結婚して夫婦になれば子供が生れて來るのと同じい事である。

さて、資本主義社會を母胎としてこの世に生れた社會主義は何故に都會において初め發生し漸次他の方面に及ぶのであらうか、都會といつても非常に廣汎なものであるが、その都會の如何なる部分から社會主義的精神は勃興してゐるであらうか。即ち、社會主義的精神は先づ工場地帶において最初發生する。其處は無數のプロレタリヤがブルジョアの爲めに搾取さるゝ所である。資本家的生産は非常に都會をして廣大ならしめた。資本主義文明は都會文明であると云ばれる所以である。しかし、都會が廣大になつて行くといつても、その都會が資本家的生産の爲めに非常に都合のいゝ條件を具備してゐなければ決して擴大する事は出來ない。資本家的生産は大經營生産であるから、あらゆる方面からも交通の便が開けて原料が山の如く到着せなければならぬ。かうした資本主義生産を發展さす爲めに都合のいゝ都會はだんだん擴大して行く。即ち、プロレタリヤの大群が集まつて來るからである。工業の發展地は相伴ふて商業が發展して行く。通信機關の完備、娯樂場の設置等に資本家的生産に適する都會は盛んに發展して行くのである。反之、資本家的生産に都合の良くない都會は、決して膨脹しない。むしろ、人口の減少さへ見られるのである。

以上によつて了解さるゝ如く資本主義生産の中心は都會である關係上、資本主義から必然的に生れ出づるべき社會主義的精神が、都會において生まるゝは蓋し必然の事に屬する。

資本主義社會はあらゆるものを都市へ集中する傾向がある。夥しき人間を集め、富を集め、教育機關を集め、文學を集め、娯樂機關を集め、犯罪を集め、墮落を集め、神經衰弱を集めるのである。見よ、黑山の如き人の群を。彼等の多くは資本主義のからくりによつて搾取され、ブルジョアに利潤の山を提供してゐる。見よ、農村の荒涼なるに反して都市の夥しき黃金のうなりを。見よ、敎育機關は無數に設立され學問の人士をして其の機關を失はしめぬ。反之、農村においてはたゞ小學校のみ。如何に勉學の精神あれば

とてその機關なきを如何にせんやである。文學はどうであるか。盡く都會中心のものとなつてゐるではないか。農村においては、娯樂機關が果して具はつてゐるか。年に一回か二回の村祭りに旅役者の群がやつて來るだけではないか反之、都市においては何と其の完備してゐる事よ。かの大阪における道頓堀、東京に於ける淺草公園、神戸における新開地の華々しさを見よ。田舍者が都市見物をして、村へ歸り如何に驚いて歸つたかを人に語る所を見るがいい。都市はこうした半面、あらゆる罪惡の行はれる所である。青年子女をして墮落の機會を與へ、前途有爲の人士をして不良の群に入らしむるのである。餘事はさておき、都市は資本家的生産の中心である爲め、産業に從事する勞働者の數を増大せしめつゝある。この事は、勢ひ勞働者の集團化を生み、反抗意識を個別的より集團的にと進める。プロレタリヤの反抗を高めて、社會主義的精神へと導くものは、一はプロレタリヤの當面する生活上の困苦であるが、一は都會の教育の進歩せるに影響せられる事大なるものがある。即ち、都市プロレタリヤは農村の小作人階級などに比較して自覺に到る機會をより多く有してゐるのである。社會主義的精神は如上の原因によつて發生し、其處から現實の行動が生れて來る。實に近世社會運動の中を流るゝものは社會主義的である。ゾンバルト教授は社會運動を定義的にして、

「社會運動とは、或る一社會階級が現存の社會秩序を自己階級の利益に適合するの方法にて、原則的に變更せんとする凡ゆる盡力をいふ」と云つてゐる。ゾンバルト教授によれば、社會運動が成立するには左記の如き條件を具へねばならないと。即ち、現在において存在する社會秩序、それは、人類の必要とする生産機關の社會的形態、及び生産及び消費の關係を指してゐる……を前提條件とする。而してこれに對して不滿を有する階級が次に必要となる。しかしたゞ單に不平と不滿を有するだけでは何んにもならない。不滿を抱いてゐる階級には、その不滿な現實に代るべき目的を有してゐなければならない。何等の目的をも有せずして不平不滿を有し、現秩序を破壞せんとしても、それは破壞の爲めの破壞であつて、決して人類の幸福を確立する爲めの行動ではない。破壞には健設が必要でなくてはならない。

されば、人類の幸福を求むる爲めの社會運動は何等かの新らしき秩序と目的を有してゐなければならない。近世社會運動は資本主義社會に對する反抗であり、その××をして、社會主義的秩序を確立せんとするものである。社會運動はその勢力の擴大するにあらざれば所期の目的を達成する事は出來ない。即ち不滿を有する階級が固き握手を結んで堂々と進み行く事は絶對に必要である。

近世社會運動即ち社會主義運動が先づ都會に發生し、それが漸次農村へと流れて行く。何に故に農村が都會に比し後れてこの運動が勃興するかといふに、農村それ自體が資

本主義に不適當なるものであつて、それだけに資本主義の流入がおくれるのである。社會主義的運動が資本主義を母胎として生れ出づるものたる以上、資本主義のおくれて入つたる農村に、社會主義運動がおくれて發生する事は毫も不思議とする所はない。農村の自然的形態が資本主義への障害をなし、（特に日本の農村においては然りである）資本主義の流入を遲々たらしめる。而も農村へは資本主義が始めて變態的に根を据へるに至る。何故に農村は資本主義化に不適當かと云ふに、農業が自然的に支配され、人力をもつては如何ともなすべからざる事、農業の生產事業を特定の場所に集積して營む事の能はざる事、農地に使用する機械の未だ發見されざる事。殊に農業用機械の使用に就いては日本の農業は非常に不利なる地位にある。その他、土地の小區分されたる事、報酬遞減の法則に支配さるゝ事に深く影響さるゝからである。

私は筆端を本論旨くと引戻さねばならぬ。即ち、都市に比し農村は、資本主義化する事がおそいかといふ問題へ立歸らねばならぬ。農村の資本主義のおくれて流入するには前述した如き農村の自然的條件を先づ第一の原因と見ねばならぬ。次に農民の心理の保守的であり、宿命的である事も原因の一であらう。何事にも支配階級の命令に服從せねばならなかつた農民が、次第に宿命的になつて來たのは見易き道理であらう。殊に、農民の頭腦を開拓すべき教育の具備せざりし狀態が、長く農民をして支配階級の命令に服從せしめる事を助長したに違ひない。

二、社會主義社會の生產

「社會主義とは如何なるものであるか」と人に問はれたなら一寸答へる事がむづかしい。それ程社會主義は廣汎な範圍に渡つて根を据へ、葉を繁らしてゐるものだからである。社會主義は實に複雜な歷史を有し、複雜な分派を有してゐるからである。しかし、如何なる分派の社會主義と云へ根本目的に於いては相一致する。私は社會主義とは如何なるものであるかといふ質問に答へて、次の如く云つたなら大いに間違ひはなからうと考へる。即ち、社會主義とは社會生活における政治上の及び經濟上の自由平等を主張するものであると。しかし、この內の政治上の自由平等は或る程度迄は資本主義社會において實現されてゐたのである。されば、結合社會主義は經濟上の自由平等を資本主義に對して主張するものである。前述した通り資本主義制度は封建制度を破壞してから確立された。封建制度の下においては、貴族、僧侶、王侯等の專制の下に人民達の自由は極度に束縛してゐた。フランス革命は、こうした束縛された自由の熱情が爆發し、つひにブルジョアデモクラシイを社會生活の上に確立したブルジョアデモクラシイは政治上の自由平等の事を云ふのである。資本主義社會が各人の自由な利己心を許し、それが結局する所社會の利益を增進せしめる所以であるとして

ゐる上は、各人をして法律上に自由平等な地位を與へてやらねばならなかつた。さて、利益を追究する上においては各人な互に他を排し、もつて自分の富を獲得せねばならなかつた。かく、利己心の横行を許す資本主義社會は、各人の政治上の自由は許したとしても經濟上の自由平等を許すものではなかつた。或る一個人が重大な生産機關を一手に握り、社會生活に脅威をあたへておつても、資本主義社會はそれを當然の事であると承認するのである。資本主義社會は或る少數の人々をして生産機關を所有せしめて了つた反之、大多數の人々は生産機關より分離さるゝ事を餘儀なくされ、その結果は自らの唯一の財産たる勞働を、生産機關を所有する資本家に賣つて生きて行かねばならぬ状態となつた。所が屢々述べた通り資本家の生産手段を所有し、勞働者を雇入れるのは自らの利益を追究する爲めである。彼等は利益を得る爲めには生産手段を所有して了ふのだが、決してそれのみでは利益は生れて來まい。勞働者を雇入れる事によつて初めて彼等の利益は生れて來る。即ち、賃銀額より餘分に勞働させて、その餘分の勞働の價値を彼等は懐に入れたのである。プロレタリヤは勞働をしてゐる時においては、直接的に搾取され、消費者として再び搾取される。しかし、尚之より以上に重大なる事はプロレタリヤが生きて行く上の唯一の手段である勞働すら拒否さるゝ事すらある。即ち、資本家は自己の爲め利益を生んで與れる間だけは、勞働者を雇入れるのであるが、一度自己の利益上の關係からして勞働を拒否するのである。プロレタリヤに取つて、その勞働を拒否する事は畢竟餓死せよと命ぜられる事である。何故なら彼等には何等の生産手段すら有らしないからである。生産機關なき所に如何に勞働しても價値は生れぬ。丁度、空氣の中を拳を固めて振廻すと同じい事である。空氣の中を拳骨振廻す事も生活の餘悠のある時に於いては身體の鍛錬になつていゝかもしれないが、失業してゐる時そんな事をすれば、腹が減つてたまつたものではない。

かゝる社會状態においては、政治上の自由平等は認められてあつても、それは無きに等しいのである。人間は食はねば生きて行く事は出來ない代物であるから、この食ふ事は不平等があるなら政治上自由平等は名のみであつて實がない。故に經濟上のデモクラシイを確立せねば政治上の自由平等は光を發して來ないであらう。人間には經濟上の安定あつて初めて政治上の自由や平等が享樂さるゝのである。社會主義は實にこの經濟上のデモクラシイを確立する事を目的としてゐる。社會主義が、經濟上のデモクラシイを目的としてゐるのは、結局する所、社會生活の平和な秩序を望むからである。これ以上、資本主義社會を存續せしめる事は、取りも直さず社會生活の不安と混亂を助長すると思惟するからである。一部少數のブルヂョアの利己心の爲めに多數の人間の運命が決定さるゝが如き事は、共存共榮の社會生活の理想と背馳するからである。元來、自己一

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

人の利益を得る爲めに社會一般の生活を考慮の中へ入れないが如き行動は、極めて嫉惡すべき事ではないか。自分一人勝手な行動によつて、その他如何なる行動によつても、例へば人を排斥し突落しても、私利を計りさへすれば、それが取りも直さず社會の利益の增加であると爲す如き考へ方は根本的に誤れるも甚だしき事である。その誤れる根本思想によつて組立てられてゐる資本主義社會が、社會生活の不安と混亂より外に何物ももたらさないのは極めて自然である。されば、社會生活の平和を目的とする社會主義が資本主義を排斥するは必然である。

社會主義社會においては、個人主義的利益追究の精神や行動は許されない、社會的利益追究の精神によつて行動されるのである。社會的主義社會においては、一個人の利益の爲めに各人が勵む如き事はあり得ない。社會の利益の爲めに各人が働き、社會の利益の爲めに働く事は自らの幸福の爲めに働く事と同一になつて了ふ。さて、社會をそういふ風にする爲めには、資本主義的社會組織をどういふ風に改廢して行かねばならぬか。即ち、經濟上のデモクラシイ化を行はねばならない。しかし、單に經濟上のデモクラシイと云つても、非常に範圍が廣くで漠然としてゐる。もつと具體的に研究しなければならぬ。社會主義は××××の撤廢を主張するものであつて、資本主義社會において資本家によつて所有され、彼等の利益の母胎となつてゐた生産機關を國有乃至社會有に移す事を主張する。資本主義社會の弊害が一にかゝつて生産機關の私有にあつたのであるから社會主義はその國有化乃至社會有を主張し、あらゆる生産事業を秩序正しい統成の下におかうとするのである。卽ち社會主義は一に生産機關の公有を主張し、二に其の公共の經營を主張するものである。公共的經營の必要なるは、すでにして資本主義の項目において論じたつもりであるから、くどく述べぬ。たゞ論旨を進める上に必要だから、其の重なる原因を再び繰返しておかう。例へば資本家的生産が往々にして恐慌の如き經濟狀態を釀生させ、その影響の及ぶ所甚大なる弊害を引おこさずにはおかぬ。かくの如き經濟狀態の釀生するに至る原因は、要は資本家的生産が無政府的生産だからである。盲目的の生産だからである。需要のいくばくあるを知らずして生産し、自分以外の供給者の供給額のいくばくなるを知らずして、たゞ豫想の上に立つて生産するのであるから、以上の如き結果の起るは蓋し必然であらう。かゝる無政府生産が如何に富の浪費を伴ひ、消費者及び生産者をして其の策すべきを惑はしめ、亦プロレタリヤをして失業の苦痛を味はねばならぬかは、資本主義社會にいやしくも生存するものであるなら、直に感ずる所であらう。この弊害を廢止せしめる改善の策は、公共的經營を行ふ事である。しかし、こゝで注意しなければならない事は、この公共的經營は私有財産の撤廢があつて後でなければ實現する事は出來ないといふ事である。公共的經營は決して×××××度をそのまゝにしておいては實現する

事は出來ないのである。公共的經營とは社會一般の綜合された意志によつて統成さるゝ事を意味するものであるから、經營を個人の私利の爲め左右する××××制度とは根本的に相一致しないものである。

生產の公共的經營を行へば、社會に於ける需要供給の關係をくわしく知る事が出來るから、無用なる生產の如きは行はない。即ち社會主義社會にては必要生產の行はるゝと爲す所以である。亦單に公共的經營は秩序正しき生產を爲すのみに止まらず、資本主義社會に於ける最も夥しき失業者問題をも解決して了ふであらう。失業者は一人も居なくなるであらう。何故ならば社會主義は何人にも理由なく遊食する事を許さない。万人は共働の義務を有してゐるからである。されば公共的經營には秩序正しい勞働組織が必然的に生れて來る。即ち、何人も働かねばならないから、社會主義社會の一人の勞働時間は非常に減少せられるであらう。各人は勞働以外の時間においては自由に教育を受け、運動競技をなし、芝居を見る事が出來るであらう。資本主義的生產の下においては、勞働者は勞働出來るだけ働かせた。資本家は自己の利益の爲めに、勞働者の反抗のない限りなるべく一人の勞働に從事する時間を延長せしめんと計つてゐた。そして、資本家の利己心を増長せしめ滿足せしめる事の出來ないプロレタリヤは如何に勞働したくとも失業しなければならなかつた。反之、社會主義社會においては何人も失業の苦しみはない、何人も勞働をせなければならない。故に各人の勞働時間は縮少される。勞働時間の縮少される原因は失業者の絶無のみではない。資本主義社會において、社會的に無用な勞働に從事してゐた人々が、社會主義社會によつてから、舊來の勞働が廢止さるべき運命になつたので社會的に必要な生產に從事するに至るのであるからだ。されば、資本主義社會に存在する社會的に無用な、それは延いて社會主義社會の確立と共に運命の盡きる……仕事とは如何なるものを指して云ふか。例へば、商業の如きものである。勿論、商業を全部廢止しようとは云はぬ。國際的商業の如きは必要だからである。無論、國際的商業の如きは、世界が資本主義國、社會主義國、及び其の過渡的狀態にある國の併存する時のみ必要である。世界が全部社會主義國になつたならば、國際的物資の取引はもはや商業といふ名稱に適應しないであらう。商業の如きは資本主義社會の沒落と運命を共にして了ふ。社會主義社會においては商業に代る物資の圓滿なる交換[illegible]などは、商業の如く中間利潤を取得する事なき、國家的機關によつて整理さるゝであらう。吾々は資本主義社會において如何に商人階級の多いかを知つてゐる。彼等は生產者と消費者の中間に介在して如何に多大なる利益を取りつゝあつたか。これ等は社會主義社會においては無用の長物である社會主義はこの無用の長物を廢止して、夥しき商人階級を必要勞働組織の中へ編入するであらうから、社會主義社會の勞働時間は短縮され、文化は華々しく社會の全面を蔽ふて了ふ。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會主義が一に×××の廢止を主張し、二に生産の公共的經營を主張する事はすでにして説いた。三は公共的機關に依りて、收入を各人に分配する事を主張する。

資本主義制度における收入の分配の不當なる事はすでにして度々説いた所である。この不當なる分配方法の生み出したものは、かのプロレタリヤの貧困であり、それが土臺となつて、プロレタリヤの反抗となり、小作運動の勃興となつたのである。されば、社會主義の最大の目的とする所は、社會全體の收入を最も合理的に分配する事である。しかし、この合理的な分配とは如何なる方法によつて行はれるかは、各人異論續出の状態であつて輕々しく是也と斷定する事は出來ない。私は先づ現在普通に主張されてゐる分配方法を考究して見たい。

此處に云ふ所の、分配すべき收入とは、公共的經營によつて得られたる總收入の中より、社會的な公共費、例へば公共的經營に必要な資金とか維持費とか、亦一歩進んで産業の開拓等に必要な分を控除した、其の殘額の收入を指してゐる。

私は普通社會主義者間に主張されてゐる分配の仕方を略二つに分類出來ると思ふ。即ち一は各人の必要に應じて分配すべしと主張するのと、一は各人の能力に應じて分配すべしと爲す是である。論ずるに足るべき分配に關する主張は以上の二つであらうと思ふ。此の外にも、分配は各人絶對に平等ならざるべからずと爲す説もあるが、是は著るしく不合理なる分配法たるを免れない。何故ならば、もし論者の云ふ如く、各人に量においても質においても平等なる分配をなしたりとしても、人はその顔面の異るが如く、性質、好嫌の念の異れる者であるから、各人はその分配法に對して不滿を感ずるに違ひない。亦社會自身に取つても、好まざる人にも分配すべく生産をする事は結局徒勞の事に歸し著るしき浪費であると云はねばなるまい。分配の器械的平等主義は、人間の本能と性格を無視し、各人を同一なる物質として、例へば石ころの如くに取扱ふものと云はざるを得ない。かくの如き説は佛國の社會主義者バーボーフの主張したものである。この説の實行の不可能なるやすでに論議の餘地はない。私は社會主義社會における最も公平なる分配は、必要に應じて分配する方法であらうと考へる。この分配法に就いては次の如き駁論の起る事が豫想される。即ち、必要なる物質は獲得される事になれば、各人の慾望が次第に増大して來て、必要以上の如きものすら必要であると爲して要求するに至りはしないかといふ疑問である。しかし、かゝる疑問は憂慮に過ぎない。社會主義が各人の間に新しき道徳觀念を生み出すである事はすでに吾々の見たる所である。必要以上の物を要求して、貯へて喜ぶが如き觀念は、資本主義の崩壞と共に消滅する。しかし、私は社會主義社會の各員の必要とするものが次第に増大する事を否定するものではない。それは必要そのものである。必要以外の何物でもない。各人の必要とするものゝ増大する

事は文明の進展と共に免かるゝ事の出來ない事であつて、いさゝかも悲觀する理由を認めぬ。各人の慾望が質的にも量的にも、亦多岐多方にわたつてくるにつれて、文明は進み行くものである事は、吾々の歴史の明かに證明してゐる所である。

次に吾々はかうした駁論を聞く事が出來る。即ち、人間は生れ乍ら、能力、才能、技術等のあらゆる點において平等ではない。すべて人間は不平等なものである。それが自然である。然るにこの能力や才能の差別ある各人に對して分配を共の社會に貢獻した所と關係ない消費上の必要に應じて爲すといふのは、實は平等ではなくして不平等も甚だしきものである。不平等に即ち能力に應じて分配する事こそ眞の平等であり、合理的な分配ではないかと。

私は以上の疑問に就いて左の如く答へる事が出來る。社會主義社會の勞働組織は適材を適所におくといふ事を眼目としてゐる。亦それあつてのみ社會の圓滑なる進歩があり得る。各人には必ず自分の得意とする技能がある。例へば甲は腕力すぐれ重き材木を運ぶに得意であるに反し、乙は腕力は弱いけれども綿密な頭腦と丁寧さとがあつて、小學校の兒童を教育するに得意であるとかいふ様な事である。その他例を擧ぐれば數限りない。されば私に各人を適所に配置すれば、大多數は決して社會に貢獻する所の差別が左程重大な深いものであると思はれないのである。資本主義社會において各人が非常に差別がある様に見てるのは、適材を適所に、配置する事に失敗してゐる結果ではあるまいか。亦、もう一つは資本主義社會の根幹たる私有財産制度の爲めであると思ふ。即ち、財産のある家に生れたなら、格別各人より優れた能力がなくとも、財産の力で非常に能力のある人の様に見へる。反之、財産の無い家に生れだならば、前者と同等な能力があつても、財産の無い爲めに、プロレタリヤである爲めに、資本家の利己心の如何で失業せねばならないし常に貧乏して一見能力の無い人の様に見へる。この資本主義社會における狀態にのみ目をつけて、人は生まれ乍ら能力の差甚だしきものであると斷定するが如きは眞の人間を考究しない結果であると思ふ。社會主義社會においては、××××制度は廢され、適材適所主義が實行されるのであるから、各人の社會に貢獻する程度も著るしく平均化して行くものと考へる。社會主義社會は平和な社會であるから、萬人は自分の得意とする方面を發揮して社會の富を蓄積する事に努力すればいゝ。各人はすべて得意とする方面がある。然るに、資本主義社會においては適材を適所に置かないから、各人は充分に能力を發揮する事が出來なかつたのである。

私は今こゝで「能力」といふ意義を少し研究したいと思ふ。「能力」と云ふ意義は、時代時代によつて著るしく違つた風に解されてゐる。即ち、戰鬪時代の時などにおいては最も能力のある優れたものと云はれるのは、武力の優れた者であつた。資本主義社會におけるそれは、最も上手にブ

ロレタリヤを搾取し以て巨富を積む者である。しかし、かゝる能力の優れたと云ふ者は、社會生活の平和、人類共存共榮の理想とは、互に相容れないのである。社會平和を攪亂せしめる事を最も能力の優れた者のする事であると考へたのは、その時代だけの事であつて、社會の平和を目的とする社會主義社會においては以上の如き能力は、決して優れたるものではなくして、むしろ無能力者である、否社會生活を混亂せしめる犯罪能力である。社會主義社會においては社會の平和と富の蓄積を行ふ爲めに發揮する力を能力であると爲すのである。戰鬪時代や社會資本主義においてすぐれた能力をもつてゐる者も、社會主義社會においては無能力によつて了ふ。戰鬪時代において最も無能力者であると見做された農民が、社會主義社會においては最も能力のある者とされるのである。されば從來の能力問題そのもの、中から脫し切れない考へ方をもつて、社會主義社會における能力を云々する事は出來ない。能力そのものゝ意義に兩者の間には雲泥の差があるからである。

以上によつて、社會主義社會が各人の能力を平均化して行く事と、從來の能力の可否判斷から拔け切らないで、社會主義社會の能力の問題を判斷するの不可なるを了解する事が出來た。

社會主義社會における能力の平均化と共に、消費的方面も平均化して行くと思はれる。資本主義社會においてブルジョアの娘が澤山の衣裳を作つてそれを一度も着ないで了ふといふ樣な馬鹿げた狀態は、蓋し、社會主義社會においては消滅する。社會組織の變遷と共に心理的方面も變遷する。各人と共に働き、各人と共に樂しむといふ事が、動かす事の出來ない道徳として未來において尊敬さるゝであらう。されば、度を外した分配の要求などは何人も想像する時もないだらう。

必要に應じて分配する方法に對しての種々なる不安と疑問は一掃されて可なりである。社會主義社會においては、能力も消費も平均化して行くのであるから、必要に應じての分配の最も合理的なるや論をまたぬ。もし能力に應じての分配を實現したとせば、恐らく種々の困難に突當るであらう。先づ、能力の算定の仕方が如何に困難な事であり、種々なる不平を生み出し、再び利己心を社會に植付けるが如き結果を生むに過ぎない。しかし、適材適所配置主義を實行する限り、彼等はやがて能力の平均化して行くのを發見し、必要に應じての分配方法を採用するだらう。この方法は技術的にも明快である。能力に應じての分配方法を採用する限り非常に面倒なことになるであらう。例へば必要物を要求する爲めに切符制度を採用して行かねばならぬ。それと共に能力と生産物との交換比率も定めねばならぬ。吾々はかゝる煩雜なる制度を擁護する事は出來ない。かゝる制度が折角きづき上げた社會主義社會の崩壊の機運をも醸生するとも限らぬ。吾々はもつと、明快で公平な制度があるのではないか。

書き落したのであるが、社會主義社會が萬人の能率を平均化して行くと爲す說に對して、もう一つ次の如き疑問が提出されるであらう。

即ち勞働には非常に樂な愉快な勞働と、苦痛な勞働とがある。これに從事する人が勞働に從事する實際の差異は甚だしいではないか。如何に得意の技能を發揮してゐると云つても、苦痛は矢張り苦痛である。かゝる兩者を平等に取扱ふのは不合理ではないかと。しかしこの疑問は兩者の勞働を同一時間と見て、割出されたものである。社會主義社會は苦痛なる勞働は短縮され、愉快な勞働は前者に比して長時間である事を忘れてはならない。

第四に社會主義ば各人に消費財の私有を認めるのである。社會主義は生產機關の公有を實現するものであつて、個々の消費に供せられだる衣服とか帽子とか器具類の私有をも否認するのではない。何故ならかゝる私有は決して人類の福祉を裏切るものではない。資本主義社會における生產機關の私有が人間による人間の搾取を行ふに至らせ、社會主義を生み出した。あらゆる社會の表面に表はれてくる弊害は、すべてこの生產機關の私有より生れたのである。社會主義社會はかゝる生產機關の私有を否定し、その公有を實現し、公有に移りたる生產機關はかの資本主義社會における如く一個人の利益の爲めに動かされる如き事はなく萬人の幸福の爲めに公共的に經營される。そして、其によつて得られたる收入は公共的機關によつて整理され、萬人の必要に應じて分配される。かくの如く分配を受けたる消費財は、各人の自由に處分せられ得べき筈である。もし消費財の私有をも否認せんとするならば、分配の必要はいささかもない。消費財の私有を否認する事が、如何に實際に行はれ難いものであるかは後章之を述べるつもりである。

筆者より

資本主義社會主義もすべて五回にわたつて連載した初めに斷つておいた通り、この一篇は一作々年復習の意味において書いておいたもので、甚だ幼稚なものである。筆者はこれを連載するにあたつて、幾度か訂正しようとしたけれども、編輯者としての多忙が之を許さなかつた。中止しようと思つたけれども、之も責任上出來なかつた。が、今回で一まづいゝ區切りとなつたので、之で暫く休む事となつた。

まだ後に唯物史觀を初め「社會主義に對する反駁を駁す」等の幾多の項目があつて、まだ四五回分はあるけれども、それはいづれ機會を見て根本的に書きあらため、再び讀者諸氏の前に表はれるであらう。

しかし「講座」を來月から中止する譯ではない。講座が非常に必要で幼稚な讀者が非常に期待してゐる事は、續々たる投書によつて知る事が出來るから、來月から、適當な人に依賴して載せる心持である。

讀者諸氏の健鬪を祈る。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

緋に染まる白衣

辛　仁　出

一

脅威搾取壓迫其のものゝ象徴のやうな白衣人部落の中央にあるS署の時計臺が一時を報じる微な響きが大空へユル〳〵と消えた時、くらひ陰影を作つてゐた司法室には生臭い氣壓と白い寂寞が流れてゐた。緊張と倦怠とは一しよに襲つて來た。何にかの暗示でも起りさうな灰色の空は此の部屋とい〻調和をなしてゐたのであつた。其の眞中に皆の冷たい目を受けてちゞこまつてゐた成吉は此の閑漫な取調べにあき〳〵した、そして彼の頭には疲れとねむけは一度に襲ひ、いつのまにかウト〳〵し始めた。彼を凝視してゐた部長の顔には、いひ知れない侮蔑の色と憂鬱な焦燥がひらめいたやうに思へた。まとろみかける目には彼があたかもクロッスの漫畫の一つのやうに、膨らんでくるやうに思へた。フツと浮ぶ苦笑にピリツと歪んだ部長の顔と怒聲はハツと我れにかへつた成吉をば再び彼を見つめさすばかりだつた。然し彼はいらだつ心を無理におしつけながら成吉の口より證據書類の行方並に連類者の名を聞きださうとあせればあせる程其の失敗なると知つたとき、S人刑事は再び暴力をふるひ始めた。結局は再び拘留の處分を受けたのだつた。歸り道ひきづられるやうにされながら他の拘留室を眺めたときに、新たに入つたらしい二三の同志の顔が淋しく薄暗みに輝いてゐた。獨房と云つても名ばかりで閉め切られてゐる部屋のムツとするやうな氣壓、追ひかぶさつて來るやうな壁によりかゝつた成吉は、思ふ存分笑ひたかつた。笑はないではゐられなかつたのである。然しなんとなく顔は歪められ、唇は硬ばつて、冷汗は身體全體ににじり〳〵浮んで來た。それに續いで苦笑の思出は夏宵の遠く飛び去る電のやうに消えては現はれるのであつた。

二

そは大陸的氣候に包まれた此の殖民地には、毎年酷暑に

續いて暴風雨が襲つて來ると殆ど全土に渡つて、河川の汎濫や山崩れは免れなかつたのである。それ故政治的にも經濟的にも疲勞困憊に喘いでゐた、大地は一層にめりこむやうに廢墟近づいて行くばかりだつた。朗かに晴れた空に、カッキリと現はす地平線を示する裸山も多いせいもあつたが、多くは堤防の不完全なのに餘計な危害をおふことが多かつたのである、それで白衣の影もやがては汚れし灰色と變り、泥に埋もれて泣くばかりだつたのだそれが今年は激しく天の暴威は極度の頽廢の彫像の都呪咀に泣くこの首都を襲つて來たのだつた。市街を横斷してゐる江の「四十尺増水」「沿岸全滅」「人命×××名行方不明」等の號外を手にした白衣人達は知らぬ額に降りそゝぐ雨空を眺めつゝ慄くばかりだつた。夜になり突如の爆聲と共に消ゆる電燈、物凄い雷雨の音、汚點を持つこの全土をば洗ひ清めんばかりに狂ひ躍つた。暗の天地、亂れる秩序、動搖する人心、音なき喧騷に包まれた泥濘を疾走する自働車の警笛は物哀れな叫び聲を人の胸にわきたゝせた。

流れ去る財寶、沈み行く人命、怒濤はなほも暴威を振ひ始めた。其の激しい浸水地帶たる沿岸方面のS人部落に對する當局の救濟を人々は待ち焦れてゐたのだつた、それなのに、その全力が比較的安全なる、N人部落に施されてをり、亦其の本部がそこにあると聞いたとき、白衣人等は彼等が象徴らしく見える、白行をばぬれ汚す雨と共に唇をかみしめるばかりだつた。驚愕と憤怒に燃え上る呪咀も、冷え行く電燈と共に力なくこぶしは解かれ行くばかり、しめりし白衣と共に人の心はぬれてゐつたのであつた。それは夜明け前の寂寞のやうに、かくされた叫喚と咆哮と喧騷とは降り狂ふ雨音にあともなく消され行くやうであつた。然し適者生存の眞理が何處迄示めされるのであらう。根強き反抗、燃え上る呪咀とは、何つの日自由に彼等に與へられるであらうか？ やがて彼等が想像だにしなかつたN人部落の不意の浸水の報ひに、白衣人等の頬には微な笑ひと物哀れな涙が浮かんでゐたのであらう。

三

此のあんまり珍らしくもない騷ぎが、カラッと晴れだ夏の日と共に靜まり歸つたとき、痛ましくも傷つきし大地はもうささうな暑さにしほれてゐた。やがて微力ながらも當局のふりかへらなかつた沿岸方面に全力を盡して救濟にあたつてゐた二三のS人新聞社並に數ケの思想團體主催の水害救濟報告講演會が漸くのことに許されて開かれたのである。勿論それは唯の名目に過ぎず、僅かながらも弱者の虐げられし者の悲憤の絶叫にでも哀れな心を慰めやうとしたのだつた。奴等が云ふ所によると人間らしいのが住んであると云ふN町（此の區別は道路にアスハルトの敷いてゐるかゐないかによるさうだ）のN人經營の或る商事會社に勤めてゐた成吉は、其の日にもおそく勤めが終つて彼が内職に手傳つてゐた、C新聞社の編輯部へ一寸よつた爲に講

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

演會の時刻にはおくれたのだつた。あはてゝ社を飛びだして會場へ急ぐ途中、或る事件のために國に亡命してゐた急進派のTにぶつつかつたのだつた。不意の再會と同志の口より吐き出される熱涙こもる言語に、倦怠にあえいてゐた成吉の心を少からず躍らしてくれた。やがて、二人が會場へ近づいた時、突然の條、會は解散を命ぜられたらしく激昂した群集はなだれをうつて、町にあふれて來た。町角を曲る電車のスパックの青白き光は、彼等と或る彫像の一群に見えさした。ほとばしる革命歌、行進歌等は、靜謐は波うつてゐた町をば戰慄さした。「犬めら」の威嚇は何らの役にたゝぬらしかつた。絶叫する聲、歪んだ顏面、血走つた目、慄ふ手、躍動する足音、嚴然と立つてゐた騎馬巡査の顏には皮肉な笑ひとゝもに無茶苦茶に群集の中に飛びこんだ、斷末魔のやうなとぎれ聲にて、叫ぶ署長の「解散」の聲は喘ぎに物哀れさうに消えて行つた。其の中を屠所へひかれ行く動物のやうに、手足とられた同志等がひきづられ行くのを見た成吉は、目が熱くなつて行くのを感じた。さうしておくれて來たのに責任感を感じないわけには行かなかつた。

檢束の聲はなほも叫ばれてゐた。殘つた同志等の安否をきづかいながら二人は裏口へまわつたとき、獨りで同志ぶつてゐるKに出會つた。同志の安否を尋ねた時に彼の口からは、さも殘念さうに官警の横暴を叫び呪つてゐた。中へ入らうとしたときウムも云はづに、S署にひきづられたのだつた。(後で知つたのだつたKが奴等の犬だとは)

四

それが今日の取調べだつたのだ。××陰謀事件の暴露だ勿論Tも關係してゐた。成吉も耳にしてはゐたけど直接には關係はなかつたのである。それで會場で多數の宣言書は沒收されたのだけど肝心の本尊を取逃がして地團駄踏んでゐたあの部長の顏を再び思ひ浮かべた。職業柄さも成吉等の運動に同情をよせるが如き口吻、急に變る威嚇、やがては皮肉、罵倒……惡い趣味だ。それから國の惡口から始まつて人身攻擊に移つて來た。それは成吉等の無教育から月並の知識だと笑ひ、終には主義の梗概から、スペル迄聞き、答へないと亦も嘲笑を浴せた。だから俺達が休まれんとか……最後には成吉の父をも笑つた。おゝさうだつた。彼の父は此の半島の暗黑を破つて突如、狂躁して勃起した或る大衆運動の犧牲者として哀れにも獄死をしたのだつた。その倅が彼等の憎惡の對象たるN人に雇はれてゐるとは何んたる矛盾だとか、皮肉だとか、正義を知れとは(何んたる唾棄すべき言語だ)フッと幻想は消えた、先程、監房の入口で同胞の刑事に、こつぴどく、なぐられた傷の痛みはヅキン〳〵と頭にしみこんで來た。

五

それから數日、成吉には每日同じ様な訊問があつてから

トルレルの詩のやうな「六歩行き、六歩もどる、何の意味もなしに……」の生活が始まつた。さうして毎日訪ねてくれる社の社會部記者のOが署へ來るついでにくるのだけだつた。或る朝いつも薄暗い彼が監房には明るみがもたらされた。一先づ（社からの運動があつたせいか）釋放となり形ばかりの審問がすんでから、久しぶりにて人が云ふ娑婆だ、あんまり自由でもない天地へほうりだされたのだつた勿論會社からは解雇の通知は來てゐる筈だ、然し、そんな事は百も承知でありながら何んとなく生活の不安に襲はれて來た、亦さうなつてくる自分自身の心意にも情なくなつて來たのだつた。カツカツと燒き盡すやうな日さしはフラつく成吉の影をば物淋しく地上に現はした。錆づいた電車路、或る軍略政治家のいとも明敏な頭を證明したる遺物の一つの此の線路は歪んだ大地に一直線に左方にかたよつて固まつてゐた。さうして彼が夢みた或る者達の變りに（軍隊のこと）大道の眞中には、泥にまみれし避難民の一隊の荷車が行列をなして進んでゐたのである、車の軋む音は地下に眠る、彼には勇ましき行進曲にきこえた事であらう。

勿論一度離れし職には、なか／＼ありつけなかつた。それに當局の暴擧はそれだけでは休まなかつたのである。當局を批難する急先鋒にあたる新聞紙に呪ひの手をのばし始めたのだつた。年に六十回以上の發賣禁止を食ふこ新聞紙が犧牲の一つにあがつた、彼等は其の報酬として發行停止を下した。法は嚴然ださうだ。新聞紙法廿條をふりかざして釘づけにされる、印刷室を眺めながら成吉等の目は赤く腫らまされた。呪はれし者、權力なき者達は彼等が故郷ですら追放されるのだ。日にせまる當局の壓迫の手は遂に成吉をも此の都より追ひはらつた。國なき者、宿す土地さへなき者の行く處は何處であらう。追はれ行く民族、亡び行く人、大地の母胎はいつの日、奇蹟を示めすだらうか？　彼等が生命の糧たる田畑は、皆彼等が手より去り、再び歸りさる頃には、彼等は昨日に變る今日の身に落されてゐたのであつた。文明は彼等より素朴をうばひ、文化は彼等より生命をうばひ始めた。宇宙の哄笑、無限の肯定忍從、いつ日や……うれ飛ぶ日は……。彼等はかうして明日を信じて待つてゐた。明け行く黎明の空におれ達の自由をば……

主なし王殿、石造殿の森に上りし青白き月影を眺めてゐし成吉等の目には淚はうるんでゐた。淋しき旅路、呪はれた人間、あてどない彷徨の旅に成吉は同志とわかれをつげて、上つたのであつた。

六

然しながら生れ故郷ですら異端視された身が他郷で心よく迎へられる筈がなかつた。遂き彼等が憎惡の對象たる「都に住む　同志を尋ねて色々と職をさがして生活の安定を求めやうとしたとき、彼は幸福と、名譽を感じたであらうか？　彼に纏く影一つ、尾行だ、漸く職にありつけたと思つてホツとしたとき、高等係の一枚の名刺は偉大なる働き

をした。

七

かうした日が幾日か續いた或る日、疲れた影が二つ汚塵に化粧された都會の或る橋にたゞずんだ時、心なき都は怒つた。大地は濟淨、甦生を叫喚し始めたのだつた。碧空はには慄く雲一つ、不安と恐怖とは次ぎ〳〵と襲つて來た。絶えまない騷動、克服、不滿、憤怒、絶望、建設と破壞、二つの影は逃れた、力の續く限り……人が叫ぶがまゝに行くがまゝに、然し成吉は別に悸きもしなかつたけれど、歪んだ口唇へ苦笑さへも起つてはこなかつた。二つの影は並行して進んでゐつた。死の夜が明け、炎の晝が暮れて二つの影は離れた。燃え上る罪科と共に流言は大空へ飛び上つた、秩序を求めてやまぬ、群集心理、瓦斯タンクに水が移轉をし始めた時のやうに、彼等は猛獸の如く狂踏した。無我無中に絶叫する喚聲、黑き影は暗を行く、炎の空が明けやうとする頃、鋭い聲、あひよる人影、嗚呼の聲、斷末魔の喘ぎ、哀唱、凡ては簡單、物事は疾風的に、暗光、一閑、ひくく血潮はどす黑く鄰いた。爛れし死灰が、炎の空間を鄰かしく始めた時、成吉は彼の一團にぶつつかつた。燥狂人の如くS人なるを否定したる彼、何がため生命を惜んだのだらう。生の執着か、生活の傀儡にか白衣のほこり、彼等の僥かに殘りしものゝ一ではないか？犬死……其處へひきづられ來たる一人の犧牲者、人道を叫び、哀願は耳を慄した、おゝ同胞の一人、成吉は我れを忘れて傷つきし彼をば抱き上げやうとしたとき、鋭き叫び聲、其れ彼にS人なるの否定を證明なさんがために事を實行しろとは（何んたる皮肉ぞ）……何が罪！誰が知る……近よる其の顔、アツ、昨日迄並行を歩んだ其の一つの影、かよわき反抗は蹈る血潮にうち消された。凡ては簡單、事は迅速に……色そまる白衣をばかゝえながら叫んだのだ、聲かぎり……否定をば……かさなり、色そまる彼等は乾きもだえし大地に、燃ゆるが如き熱き抱擁をされるのであらう。

募集二つ

（一）「進め」の表紙を募集。菊版。意匠隨意。色彩二色。戰鬪的なものを求む。必ず「無産階級戰鬪雜誌」と入れる事。締切日、毎月十五日嚴守。採用の分には薄謝を呈す。

進め社編輯部宛

（二）「進め」漫畫係募集。御序での節御來談

彼奴

英史朗

「親爺は監獄よ、阿母は淫売、そして俺か、俺は立ン坊よ」彼奴は酔ぱらふと、大道の真中でも、酒場の卓子の上でだつて、構はずに怒鳴り立てた。お巡りが怪し気な恰好で更けた夜の街をわめいて居る彼奴を交番に引きずり込んでさて、住所、姓名といふ段取りになると、彼奴はドロンコになつた目を宙に釣り上げ、だらしなくなつた唇をゆがめて答へる。「親爺は監獄よ、阿母は淫売だ、俺は立ン坊よ」そして手を二三度鼻の頭の上で妙に振り廻すと、ガックリ床の上へへたばる。だから彼奴のウロツいて歩く街、例へば本所の塵溜とか、深川の河岸ぶちが管轄の警官で彼奴の顔馴染みでないのは一人だつてない位だつたんだ。又あそこら近辺の呑屋や酒屋で彼奴が現金を見せない先きに呑まして呉れる家がたつた一軒だつてあつたら、其処の親爺はきつと余程の慈善家だつたに相異ない。

酒、喧嘩、それが彼奴の全部だつた。

俺が始めて彼奴と会つたのは丁度、あの大震災のあつた翌年のことだ。俺はそのころ喰ふに困つた挙句、瓦斯会社のコークス擔ひをやつて居た、船から陸、陸からコークスの山へと渡された長い一尺幅のアユミを腰でうまく調子を取りながら運ぶのだが、慣れない俺には楽でない仕事だつた。彼奴も俺らの仲間だつたが彼奴は勿論玄人だ、河岸ぶちの石畳の上で一服つけながら俺の腰つきをながめて居たが、ニヤリと笑ひながら近寄つて来た「オツ、兄弟、お前も震災人夫だな、何うもトウシロウ臭えと思つたよ、こりやな、貸して見な」と云ふと俺の肩からパイスキを受け取つて慣れた調子でアユミを渡つた、物凄い人相と荒つぽい物言ひにおびえて居た俺は、だが、彼奴の心の何処かに温かい人を見た。

彼奴を二度目に見たのはそれから一年も経つた或る春の日だつた、俺は仕事の帰り行きつけのバーの扉を開いて、彼

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

奴の怒鳴つてる聲に吃驚させられた、テーブルの上には電氣ブランのぶ厚なコップがもう五六本も列んで居た、彼奴は印絆纒を鷲づかみにして親爺と何か爭て居た。俺は當然の義務の樣に二人の仲に入つて譯を聞かなければならなかつた。そして彼奴の呑んだ代一圓幾何を支拂つて俺の宿へ泊てやらなければならなかつた。それから、三ケ月餘りも、彼奴は俺と同じ木賃宿の二階に轉がつて居た、何んなに醉ぱらつて遲く歸つた翌る日でも五時といふと宿を飛び出した。仕事があらうが無からうが、雨が降らうが、道が溝泥だらうが。そして晩にはグデングテンになつて喰つて來た。それで居て感心に彼奴は同宿人とは一度だつて喧嘩した例はがない「なあ兄弟、俺ア斯うして一緒に泊つてる連中は赤の他人とあ思はれねえや、何んだか皆んなこう、俺の親爺だつたり兄弟の樣な氣がしてならねえちやねえか」醉ぱらつて歸つて來ては寢て居る俺の顏へ酒臭い息を吹つかけながら何時でも言つて居た。

或時、斯んなことがあつた、俺が仕事を終えて宿の玄關をまたぐと、何時になく早く彼奴は歸つて來て居た、しかも珍らしいことには酒氣が彼の態度に見られない。俺はオヤ〳〵と思つて訊ねた、「オウ、何うしたんだ、今日は、えゝ」すると彼奴は妙に眞面目な顏で「ウン今日は一寸譯があるんだ、實は兄貴にも話して手傳つてもらほうと思ふんだ、話をするから部屋へ行かう」俺はうながされて二階へ上つた、俺達の部屋はコミではなかつた、四疊半の部屋へ俺と彼奴と二人切りで寢る樣になつて居たのだ、木賃宿だつて定連になると、一晩六十錢で二人限りの部屋が借りられるんだ、で、二人の部屋に入つて驚いた、部屋の內は正月の樣にキチンと片附いて、しかも若い女がポツネンと後向きに座つて泣いて居る、俺は、瞬間、彼奴が飛んでもない眞似をしやがる、眞逆此んなことまでする奴とは思はなかつた、と妙に氣を廻はして、彼奴の顏を瞰つてにらみつけてやつた、すると彼奴は「なア兄貴、此の人は實は、俺が何時も呑みに行く××屋へ今度來た女中さんだ、何うも來た時から樣子が可笑しいと思つて居たが聞いて見るてえと、男に欺られて田舍から出て來て女中に賣り飛ばされたと云ふんだ、可愛想に國には阿母も親爺もあるそうだ、俺アすつかり氣の毒になつて國に逃がしてやらうと思つて、今日こつそり連れ出したんだ、ところがそれまではうまく行つたが、國へ歸るにや汽車賃が入らあ、俺あやう〳〵二兩ばかり集めたんだがまだ三兩も足りねえんだ、で兄貴が歸つて來りや何んとかなるだらうと思つて實は此處に待たして居るんだ、兄貴賴むから三兩ばかり貸して呉れ」。俺は眞劍な彼奴の顏に俺自身を恥ぢた。

女は次の日國に歸つて行つたが、彼奴はその晩とう〳〵部屋の前の廊下で、姫君を守るナイトの樣にして一夜を明かし、俺さへ下のコミ部屋に押し込で部屋の中へは寢かせなかつた、朝になつてから彼奴は「此んな宿に若い女一人を寢かせて置くのは危いからよ」と俺の問に答へた。

そろ／＼梅雨の近い頃、彼奴は「俺ア、カムチヤツカに稼せぎに行くよ」何に思つたか突然そう言つて宿から姿を消した、一ケ月も經つてからペトロヴオーロスクから手紙が來たが、金釘流で、金にはならないが人夫で働いて居る、最後の隅ッコに、露助の工場で働きたい、と書いてあつたが何んのことか俺には意味がはつきりしなかつた、それつ切り又一年ばかり俺は彼奴を忘れかけて居た。

五月一日、メーデー。その日俺は彼奴の全で變つた姿を民衆の先頭に發見した、たくましい腕に赤旗を振り、舗石を蹴飛ばす勇敢な男を。生れ變つた様な彼奴を。

それから四五日後俺は彼奴の訪問を受けて居た。無口な彼は六ツかしい顔で、彼が何うして酒壺の中から、堕落のドン底から自分の使命（彼は俺達に與へられた大きな仕事と言つて居た）をはつきりと見出したかを語つた。

◇

夏一ぱいカムチヤツカで一文にもならない仕事をさせられて、九月の末に行くと同じ姿で上野驛前に放り出された彼は、相不變、酒臭い體を街から街へ、鉋くずの様にフラつかせて居た、そして結局腰を落ちつけたのが、國粹××會經營と看板を掲げた不潔な無料宿泊所だ、彼奴はそこで二月餘りも泊つたらしい。或る日彼奴は又例の通りいゝ氣嫌で歸つて來ると事務所で一寸來て呉れといふので彼は又、文句かと、ブツ／＼言ひながら、それでも無代で泊めて貰らつてる弱身で事務所に入つた。

形ばかりの机を圍んで壯士風をした事務員といふ奴が二三人彼をニヤリとして迎えて氣持の悪い猫撫聲で質問した

「なあオイ、お前は日本男兒だらうな」彼奴は別に日本男兒でなくたつて良かつた、が、相手が悪い、吃りながら、

「そりやお前、日本男兒だなア」温順に答へた、すると一人の奴が又聞く。

「をい、ロシヤ人は今でも敵だと思つて居るだらうな、日露戰爭に同胞を殺されたうらみがあらア」「冗談ぢやねえ、いつまでそんなこと思つて居るもんか、と言ほうと思つたが仕方がない「ウン、ロシヤ人は嫌だよ」と言ふと相手の連中は滿足相に「そうだ、此の宿泊所に泊つてる位なら、それや勿論だらうとも、ところで、そのロシヤ人共が此の頃日本の社會主義者共を煽動して……」と云つて此處で又奴は「お前は社會主義が嫌だらうな」と聞いた、彼には質は社會主義が何んなものかも解しないのだから好き嫌もありやしないんだが、人が危險なもんだと云ふから恐ろしいもんだ、悪いもんだとは思つて居た。「嫌だよ」と返事をした、「その社會主義者共を煽動して、日本の此の尊嚴な國體を犯そうと企で居るのだ。そして今夜もあの×公園の中にある會館で奴等の危險思想宣傳演説があるんだ、それでだお前が若し國のために盡くす、日本男兒だつたら（此處で奴は聲をひそめた）彼奴等に宣傳をさせない様にしたいだらうな、我々も勿論、そう思つて居る、それで今夜あの會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

館にまぎれ込んで行つて演説がいゝ加減のところへ行つたら、壇上にかけ上つて演説して居る奴をたゝきのめしてやるんだ、そして會場を混亂させると會は解散になるんだ、いゝかな、お前の仕事はそれ丈けで良いんだ、何うだ一ツやらないかな、お禮はたんまりするよ、酒はうんと呑ましてやる」、斯う言つて奴等は一樣に目を光らせた。年から年中、俺達同樣酒ばかり喰ひやがつて、カフエーの女給を××したり、彼方此方の店を借り倒したりするくせに國家のためも呆れたもんだと思つたが、酒が呑める、人を思ひ切り引つぱたいたその上酒が呑めるんだ、それからお禮、斯んなうめい話があるもんか、明日は仕事は休みと決めて「有難えよし俺ア引き受けたとも」と答へて「だけども」と後のことを不安な樣子を見せると相手は「なに、その點は大丈夫なもんだよ」小聲で彼の耳に何かさゝやいた。

醉てる上へまたコップで冷たいのを二三杯引かけた。騷來い中に溶け込むで彼はやう〳〵椅子に醉ることが出來た。社會主義者つて何んな奴等だらう、ロシヤ人の樣に毛だらけの野郎に異ひないと思つて周圍を見た、印袢纏、菜葉服半ズボン、何アんだ、當がはずれてしまつた、正面の演壇を見上げた、やつぱり菜葉服の男が怒鳴つて居る。まるで見當の外れた彼は何んとなく周圍の眞劍な氣に壓迫されて酒のつけ元氣は失せかけて來た、そして壇上の男が、自分等の仲間の勞働者であることにひどく興味をもつた彼は暫らく耳をすました。

彼は先づ壇上に叫ぶ小男の眞劍な瞳に魅せられた、十分二十分、男の腕が思はず机を引つぱたく頃には、彼の體は妙に慄へて居た、そして頭が自然に下にさがつた、目頭が熱くなり、胸にも熱いものが流れるのを感じた、瞼がゆがめられた彼の顏。

後について來た、壯士の一人は何時までたつても彼が飛び出さないので、焦れて彼の腰を膝で突いた、と、彼は、蓋を取つたびくり箱の人形の樣に飛び上ると、そのはずみを食つた樣に演壇に向つてかけ登つた、聽衆は總立になつた、だが彼は夢中だ、目の邉りを指でコスリ上げ、コスリ上げ、やつと此れ丈け怒鳴つた「皆、皆、すまねえ、俺あ彼奴等に頼まれて會場を荒しに來たんだ、だが、俺ア今眞實のことを知つたんだ、お前達の言ふことが眞實だつてことを」終ひの方は泣き聲だつた。

その夜留置場の中で彼奴は始めて自分の生活を振り返つて見た、そして自分のやらなければならない仕事のあることを知つたのだ、あの小男の言つた言葉によつて。

「なあ、兄弟、その時俺は自棄から生れ變つたんだ」

語り終つて光りの加はつた目で俺をジーと見上げた。

折角買つて來た酒も「斷然禁酒だ」と頑張つて呑まずにその夜遲く歸つて行つた彼奴の力の籠つた足音を俺は忘れられない。一年後、俺は公園のベンチで拾つた×××新聞で、四度目に彼を知つた、大きな見出しで、××爭議の鬪士×署の留置場で變死と彼奴の最後の姿が書かれて居た。

時事日誌

自七月一日
至七月廿日

■七日一日
東京モス命町工場罷業解決、要求條件大部分職工間ノ結婚ノ自由、外出ノ自由等貫徹、關東合同勞働組合第四回大會於芝協調會館。日勞黨員和根毅次郎直訴を企つ。支那全國財政統一會議南京に開催(今後十日間)。オブレゴン將軍大統領に再選さる(墨國)。

■七日二日
國際消費組合デー。東京市營自動車女車掌待遇改善を要求す蔣介石北京に入る。本所公會堂に惡法反對各無產團體協議會主催大演說會。横濱市從業員組合創立大會。

■七日三日
特高警察網制度實施の官制發表。張學良東三省保安總司令に就任。希國ヴェンゼロス組閣。獨乙新首相ミューラー氏は八時間勞働のワシントン條約に批准の旨聲明す。

■七日四日
吉林長春間——吉長鐵路支那人現業員一千名罷業。上海反日委員會は對日經濟絕交の實施の便法を施行す。神奈川縣會副議長福井庄平氏(神奈川自治黨)當選。國際勞働總會議決の勞働條約中1、勞働者災害補償、2パン製造業の夜業制限、8海員雇入契約、4海員送還規定條約樞府にて否決。

■七日五日
全國右翼農民組合合同大會名古屋市に開催結成なる。

■七日六日
北京に四巨頭軍事會議開催(蔣介石、閻錫山、李宗仁、馮玉祥)

■七日七日
南京政府條約改訂に宣言を發す、1治外法權の撤廢、2不平等條約の廢棄、3舊條約廢止後新條約締結までの過渡期に於ては國際法上の無條約國に對する待遇をなす。國際消費組合デー記念演說會協調會館に開催。

■七日十日
第三師團六千名、留守二千名動員解除を發令。閣議に於て對支出兵問題につき重要なる根本的方針樹立、1謝罪の形式範圍2責任者處罰、3損害賠償の範圍、4將來の保證方法。朝鮮總督府特高警察網擴張の旨決定、伊デンマークに通商條約廢棄を通告す(國民政府)

■七日十一日
佛支條約の廢棄宣言(國民政府)。各省預算出揃ふ。上海內外綿第九工場賃銀値上げを要求し罷業。

■七日十二日
東三省の臨時保安公約(臨時憲法公布實施さる。主權在民により東三省聯合會を立法機關とし、臨時保安會を行政機關とす。內外綿第九工場閉鎖、罷業勞働者千五百名。獨乙政府不戰條約に調印の意向を通告す。

■七日十三日
東京市會は委員會の決議を覆し四二對三五を以て京成電車市內乘入れを可決し、革新會の六名は同會が會社側に寢返りしを怒り脫會す。

■七日十四日
富士瓦斯紡績川崎工場男女工千五百名罷業開始、(寄宿舍監督の二名が女工より現金で中元を貰つたといふ理由で十三日解雇されし爲。)大日本自動車株式會社爭議は五月一日より二ケ月に亘り今日解決す。

■七日十五日
無產大衆黨樹立第一回發起人會、牛込神樂坂俱樂部に開催、大道憲二、黑田壽男氏等三十餘名參集。組合總聯合本部提唱全國組合會議組織準備協議會本所公會堂に開會、全勞働組合戰線の統一を計るを目的とす。不參

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

加盟伴、勞働總同盟、全國自由聯合官業勞働。

同七日十七日

英國産業救濟案下院通過モスクワ勞働組合會館に於てコンミンテルン第六回年次大會開催、三十五ヶ國三百五十人の代表參集。ベルギー不戰條約承認を回答。次期メキシコ大統領に當選せるオブレゴン將軍暗殺さる。

同七日十八日

富士紡川崎工場罷業解決。英本國、英國自治領は不戰條約に贊成の旨を回答す。

同七日十九日

日支通商條約に關し支那側は之を破棄し新條約締結まで辨法適用を通告す。日本政府、濟南事件交渉開始方を提議す。關東軍司令官奉天總領事を通じ三民主義遵奉につき張學良に反對勸告をなさしむ。

同七日廿日

日本、不戰條約應諾の旨回答す。日支通商條約今日期限滿了

進め社だより

數年來の癖だそうだ、そしてそれが太陽の表面に現れし黑點のせいとの話だ、その結果かも知れないが、どう血迷つたものか知らないが便國會の兵兒連三名頃は昭和のおぼん月の十日夜十時半頃我が社の表の者も一眠りせんとする時表通路を通り例によりて、赤農黨本部へ惡戯に向ふ途中我が社の惡口をメヽキしに子供と思ひ打捨て置く時はくせになると思ひ社內切つての短氣者ＨＯはこの馬鹿野郎と飛び出す權幕に彼等はビツクリ敗亡たちまちに降服の意を表し『私共は御覽の通り便國會の者にて赤農黨の砕休、楠、森と申す者ですが本日民政黨横山勝太郎先生宅を訪問し振るまい酒によひ御覽の通りの體らく決して貴社に對して惡意を有する結果でありませんから平にお許しを願ひたい』と哀願せし故あまり憐さに哀れと思ひ同人一同して將來說諭して許してやりました所が不思議な事は當夜の農黨本部で彼等の扉を開くや一齊に消燈し物音も放ず內部にあつて戰闘準備？をやつてゐたのか知らんが深い沈默でした。然るにその後刊發行の某商業新聞によりますと御留守役の二人の書記さん手槍を持つて一とさしと出でましたらしい様にお暫になり今晩は槍が汚れるから下駄を投げつけるとおうせあるがはてあの人達の槍とはどんな槍だらうか社會運動に槍を使ふのがお上手だが竹槍を揮つて人を串指にする業は出來るか知らん出來ればあの夜その勇士のチヤンバラが見へたのに戰闘準備中だつたのかしかも我が同人の一喝によりて退散の後までも影さへ見せざりし勇士も勇士それを壁を眞貸に聽く奴も奴、困つた奴共だよこう云ふ農黨の勇士共幹部主義の進め戰術を數へてやらうか。お前達は下駄の投げ役も知るまい。――（昆　伏）――

編輯ノート

■先月號は以ての外の遲れ方で隨分迷惑された方もあると思ふ印刷屋が區劃整理の爲め小さな印刷屋へ廻したので、あの始末だ。今月からは元の印刷屋でやるから早く諸君の前に現はれる事と思ふ。

■戰線統一の漸く實行の緒に就かんとする時、全國勞働組合會議の提唱者たる總聯合の高山久藏氏の寄稿を得た事を喜びとする。農民組合の方から淺沼稻次郎氏の寄稿がある筈だつたが、本誌締切りまでには姿を見せぬので殘念ながら諦めた。しかし必ず今月一ぱいに送るとの事であつたから來月にはぜひ掲載したい。無產大衆黨の結成等勞農黨の內部は今や苦悶に滿ちてゐる。羽田君の「苦悶の新黨組織準備會は何處へ行く」は無產政黨合同の基準を論じたものであり、勞働農民黨の行くべき道に就いて論じたものである。支那の狀勢混亂を極めんとする時、使節を支那に送らんとする日勞黨に對しての佐々木君の「遣支大使に何を期待するか！」は極めて重要の論文たるを失はない。

■長い事連載した「朝鮮共產黨判決書全文」は愈々今月をもつて終りとなつた。「資本主義、社會主義」の講座も今月をもつて一時中止するとの事である。幼稚な意識水準の人々には非常に講座が喜ばれてゐるとの事であるから、來月からは何か必ず載せるであらう。

■全土戰報の投稿が非常にふるはないのはどうした事か、讀者はふえる一方であるのに投稿が少ないとは矛盾も甚しい。「進め」は諸君のものだ何の遠慮が要るものか。

■來月の豫告ものせたいのであるが、まあやめておかう。しかし號を重ねて行くに隨つてよいものになる事は確實だ。

■朝鮮の同志への發送が、行方不明になつて了ふと云ふ報告がしきりにくる。怪しからん事だ。これが所謂特高警務網の完備か。

■八月二日漸く校正を終つた。再び期待を裏切られて了つた。床次の民政黨脫黨が傳へられ政界漸く多事ならんとして、新しい記事を盛る必要に迫られたが仕方がない。

■「進め」ポスターを作つた。二色刷の奕麗なものだ。之は讀者諸氏に無代で提供するから街頭に工場に集會所に事務所にいたるところに貼りつけて貰ひたい。希望者はどしどし郵稅二錢を添えて申込んでくれ。

定價

一部	二十錢	郵稅一錢
半年	一圓二十錢	郵稅六錢
一年	二圓四十錢	郵稅十二錢

◇誌代は總て前金拂込の事
◇成る可く振替で送金の事
◇郵券代用は必ず一割增の事
◇住所姓名は明かに書く事
◇支局は十日迄に拂込む事

無產階級戰鬪雜誌 **進め** 每月一回一日發行

東京市麴町區內幸町一ノ五
發行所 **進め社本部**
振替東京六九八五三番

發行編輯兼印刷人 神庭仲之助

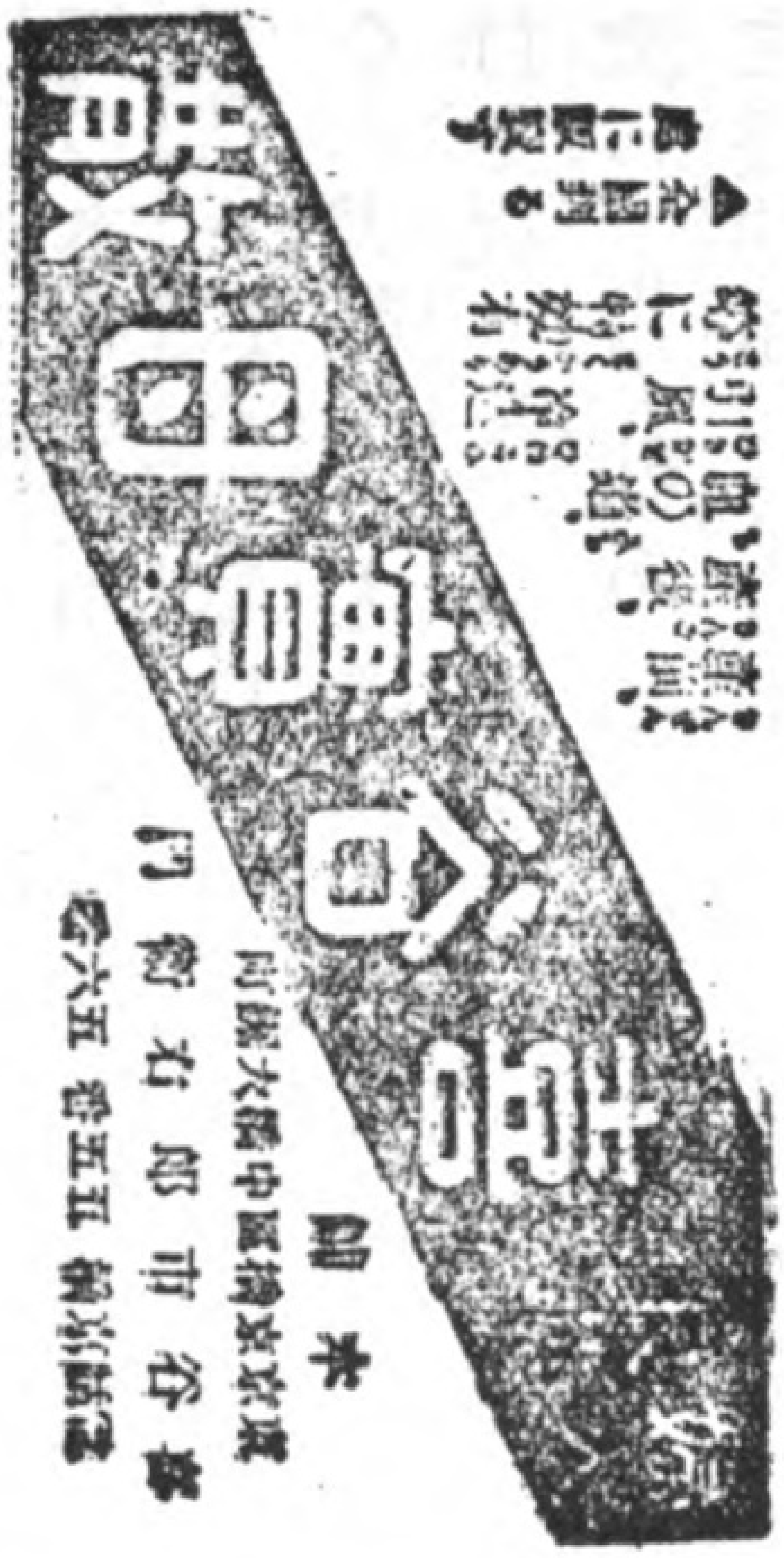
大阪市東淀川區十三西ノ町一三一
大阪事務所

廣告料

一等 三百圓	二等 二百圓
三等 百五十圓	四等 百圓

大賣捌

東京堂 東海堂 北隆館
大東館 參文堂 大盛社



金、銀、白金

徳力商店

東京神田松田町

電話 神田 25 216.235 / 221.976 / 450.御客用

社會運動の動きが手に取る様に分る

週刊 勞働問題通信

發行所

東京市芝公園協調會內

日本社會問題通信社

振替東京七〇三二八番

無產大衆の戰鬪的政治新聞

月刊 日本勞農新聞

讀め!! 眞の無產政治新聞を!

定價 一部 五錢 一ヶ年 一圓五十錢

日本勞農新聞社

東京芝公園五號地

振替東京四六六四九番

解放群書（26）

一解放社編一

菊判八百頁 全二冊箱入

定價壹圓 送代拾錢

最新 社會主義隨論集

◇群書第六篇「社會主義隨論集」同第十二篇「續社會主義隨論集」は忽賣切絶版。本書實は「續々社會主義隨論集」なるも、題して「最近社會主義的隨論評資集」と命名。賣るに再び「社會主義隨論集」と廣告するは、只不用の本版を使用せんがためのみ、豈他意あらんや。六篇四百頁、十二篇五百頁然るに本書實に八百頁、上下二册皆箱入、豈賣切れずして可ならんや。

◇本書載するところのものは有らゆる名士鬪將學者運動家の、有らゆる題目を捉へての論戰研評、隨想隨筆、詩歌慷慨。資料あり統計あり、政治に經濟に、世界觀あり、文藝論あり、一卷よく世界を盡くし「壹千名家最近社會主義的隨論評資集」の名、眞に人を欺かず。敢て世に一本を推薦す。

東京市芝區新櫻田町九 解放及解放群書發行所

解放社

振替東京三六九四四番 電話銀座二〇七七番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

進め社本部取次書目

（一部一圓）（送料十錢）

青野季吉著 **解放の藝術**	▼氏の一評は文壇の一波、故に曰、青野の論評青の筆、評界又大地震と
幽靈讀者	▼勞農藝術壇の鬼才山田清三郎氏の著也、プロ文學の典型曝露小說の開山、嗚呼氏の活躍と大新聞裏面
幸德名文集	▼文豪秋水幸德の名文は世既に定評あり後世評して教科書中の教科書國民文學の精髓萬民必携の大寶典と稱する誠に故ある也、
秋水書簡集	▼本書一讀の某反動大家泣て曰「志士の決心同志の友情われ讀むに堪えたり孝子の純眞烈母の覺悟われ遂に泣くに堪えず」と、
新消費組合論	▼新界權威の博士教授學者實際家共同執筆組合長新居格責任特輯、既に久しく絕版、
地震憲兵火事巡査	▼諡「久さん未遂で無期懲役、甘粕三たりで假出獄」也
世界 **社會運動史**	▼石川三四郎曰「拙著定價六圓の西洋社會運動史千餘頁を簡潔に壓縮した良術の標本廉價の見本だ」
ユートピア集	▼幾度か企てられ幾度か中止せる難業を著者守田有秋氏の努力が今や之を完成した。1思想2古代及中世3近世4日本5比較の五篇廿章
岡陽之助著 日本 **社會運動史**	▼興味中心文章本位の日本社會運動史論1搖籃2發展3活躍4鬪爭5反動6分裂六篇六時代。波瀾重疊の事件と人物が躍動す
佐倉啄二 **製絲女工虐待史**	▼著者「製絲工女は皆細井氏女工哀史の紡績工女を羨んで居ます」▼藤森氏「—咄!—」巧妙の搾取戰慄の暴虐女工哀史以上の虐待史」▼山崎伯爵「僕も蠶蛹を食べて製絲場で働いた。此事實は全く本當だ」
近藤榮藏著 **勞働運動史**	▼著者は勞働運動界の權威、最に曉民共產黨事件で保釋中日本共產黨事件で入露亡命、專ら勞働運動史を考究し五年の蘊奧を傾けたる此の一四券九章三百頁、蓋し天下必讀を必ずするものならん乎
小川未明社會小說集 **彼等甦らば**	▼著者は明治大正昭和を通じて最も特異な地位を占むる作家文壇生活二十有餘年、尙且つ純眞熱情は聊かの曇りも見せぬ。本書收むる處の十有七篇、皆之れ氏最近の決心の傑作、誰か追從を許さん哉。
中西伊之助著民衆戲曲 **武左衛門一揆**	▼著者曰、武左衛門は佐倉宗吾等所謂義民の類でない。彼は近世農民運動の先驅者革命家であった。本書十有五篇は彼れの進出よりギロチン迄の極樂。全篇僕は自負する」之れは僕の空前絕後の會心の作だ。
進め社編 **マルクス寫眞集** 定價五十錢 送料四錢	▼マルクスは世界の勞働階級の父であり、母である。マルクスの肖像を初め、マルクスを常に激勵し內助の功をつくした夫人、エンゲルス、ヘーゲルの肖像、及びマルクスの住居、彼の墳墓、筆跡、その他を集めたるものである。無產階級は大指導者の寫眞を手にもって接して經濟的歷史的使命を完からしめよ。
山內房吉新著 **社會思想解說**	▼無產階級的智識の武器を求むる無產階級必備の大寶典！古今東西各段階に於ける各種社會思想の精密なる大辭典！各種社會主義、社會主義の主義術語等々の大字引！內容の精密正確、名文章の流暢平易

本通信は日本社會運動の縮圖である。

定價

一ケ年　金二百圓
半ケ年　金百十圓
一ケ月　金二十圓

週刊
日本社會運動通信

發行所

東京市丸の內仲四號館六號
一官事務所
日本社會運動通信社
電話丸の內二六三〇番
振替東京七八五五九番

全國農民組合機關紙

月刊
土地と自由

一部
五錢

發行所

大阪市北區堂島濱通三丁目
全國農民組合總本部

日本紡織勞働組合機關紙

月刊
正義の光

一部十錢
半年六十錢

發行所

東京市芝區芝公園五號地四號地
日本紡織勞働組合

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

最新刊

〔解放群書〕(25)

未来をめぐる幻影

神近市子著

◇四六判二百五十頁
◇定價壹圓送代拾錢

内容

◇未來をめぐる幻影
◇アイデアリストの死
◇ある鼻の改造
◇古の街の一角
◇雄阿寒おろし

東京芝區新櫻田町十九　解放社　振替東京三六九四四番

Head office; Su-su-me-Sha
I. uchisaiw icho Kojim chi Tokoy, Japau

The Su-su-me
The Socialist Monthly

Vol.6 No.8
aug 1928

大正十二年一月三十日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）
昭和三年八月一日發行昭和三年七月二十八日印刷納本

第六年・第八號

定價二拾錢

最新刊

日本勞農黨國際部長 上條愛一著

無産黨の戰術

定價壹圓 送料無料

普選によつて八名の黨員を議會に送つた新興無産政黨は更に急角度を畫いて既成政黨の牙城に肉迫せんとして居る。

今や好むと好まざるとに拘らず、國民は無産黨の内容を徹底的に知らねばならぬ秋に直面して居る。

見よ!! 彼等の闘爭の跡と、而して彼等の戰術とを。

—內容—

無産黨小史 △明治時代の無産黨運動△普選運動と議會の否認△農民勞働黨の誕生。

對立無産黨の出現 △無産階級陣營內の對立鬪爭△宗派分裂主義とは何ぞ△勞働農民黨の結成と分裂△日農、社民、日勞諸政黨の結成

無産政黨の內容 △各黨宣言△各黨の綱領△各黨の政策△各黨の幹部△支持團體及勢力。

府縣會選擧に於ける無産政黨の戰術 △選擧戰に對する各黨の戰備△各黨の選擧政策△府縣會選擧の戰績。

總選擧戰に於ける無産黨の奮鬪 △總選擧戰に對する無産黨の陣容△各黨總選擧政策△各黨總選擧協定△總選擧の戰績△總選擧戰績の批判。

日常鬪爭と其の戰術 △日常鬪爭の意義△勞農黨の日常鬪爭△左翼の戰術△日農、社民、日勞の日常鬪爭△現實派の戰術

戰死せる勞働農民黨 △第二次日本共産黨の檢擧△第二次日本共産黨とは何ぞ△勞働農民黨の解散。

第五十五議會に於ける初陣の無産黨 △議會內に於ける活動△院外に於ける民衆運動。

無産黨の將來 △無産黨の合同問題。無産黨の石炭問題△日本無産黨は何處へ行く?

東京麴町內幸町一の六
第一出版社
振替東京六八〇九〇番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN